

# 2023年度 授業概要【看護学研究科】

科目コード：81001

科目ナンバリング：GN50C01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保健統計学特論(Advanced Health Statistics)

担当者：岩井 浩一

## 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：17.発問と回答  
18.その他

**授業の概要：** 論文を読み、データ解析方法について理解できるような知識の習得を目指す。また、様々なデータをもとに、どのような方向でデータ解析を行ったらよいかを判断できる知識や方法を習得する。  
文献を講読したり、実際にコンピュータを用いたデータ処理やデータ解析を行うとともに、分析結果の解釈ができるようにします。

**キーワード：** データ解析, 検定, 推定, 多変量解析

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業の中で、課題を解決するための統計手法を理解し、データ解析を行うことができる。

**評価方法：** 実技(統計解析)

**評価割合：** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** データ解析の結果を理解し、説明することができる。最終的には、習得したデータ解析手法を自分の研究にどのように反映させていくかをまとめることができる。

**評価方法：** 口述試問, レポート

**評価割合：** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって研究等への成果が認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の学生の支援をするなど、実践的なボランティアが認められる場合には、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

「思考力・判断力・表現力」と重複するが、実際にコンピュータを使って課題を解決するためのデータ解析を実践できること、またその解析結果を理解し、説明することができるかどうかを重視する。

**評価割合：** 「思考力・判断力・表現力」と重複す

**授業計画：** 1) 看護研究を行うにあたっての統計学の役割をまとめ、データを客観化・標準化することを学習する。  
2) 看護学の論文で用いられている統計手法について概説し、適用の事例を理解する。  
3) 平均値の持つ意味、標準偏差や標準誤差、95%信頼区間の使い方、外れ値・異常値の

- 検出法について学習する。
- 4) 平均値の比較に関する統計手法 (t検定) について学習する。
  - 5) 一元配置分散分析, 多重比較の考え方を学習する。
  - 6) 二元配置分散分析の考え方, 要因の主効果と交互作用の考え方を学習する。
  - 7) 様々な実験計画に伴う分析手法の適用法について学習する。
  - 8) 相関と回帰の考え方を学習する。
  - 9) 重相関分析の手法を学習する。
  - 10) クロス集計表を扱い,  $\chi^2$  検定について学習する。
  - 11) ノンパラメトリック検定について学習する。
  - 12) 因子分析について学習する。
  - 13) サンプルサイズや効果量の考え方を学習する。
  - 14) 欠損値の処理, 補完の方法について学習する。
  - 15) まとめ
- 定期試験に代えて, レポートを提出する。

**使用テキスト:** 特に指定しません。  
毎時間, 資料を配布するとともに, 参考となる図書を紹介しします。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習・復習に役立つような資料を作成し, 配布します。  
また, 参考図書は, 授業の中で適宜お知らせします。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので, まずは学務課等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 電子メールで対応します。  
メールアドレスについては, 授業の中でお知らせします。

**留意事項:** 実際に, 統計解析ソフト (SPSS) や G\*Power などのソフトウェアを使用します。  
第13回までに, 以下のURLから「[G\*Power 3.1.9.2 for Windows] (zip ファイル) 2009-2014」を個人のPCまたは貸し出しPCにダウンロードし, インストールしておくこと。  
検定力分析ソフト G\*Power について  
{<http://www.relak.net/psy/power/p4.htm>}

受講者のニーズに合わせて, 授業内容を適宜変更する可能性があります。

**科目コード:** 81002      **科目ナンバリング:** GN50C02K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名 (英文):** 教育方法学特論 (Special Studies in Educational Methodology)

**担当者:** 池内 耕作

**基本情報**

**年次:** 1      **単位数:** 2      **授業形式:** 講義

**曜時:** 金曜5限      **履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**      **AL要素:** 17.発問と回答

**授業の概要:** 先人達は教育をどのような思想に基づいて行ってきたか。また現代社会はそれをどのように受け止め、どのような言葉で理念化しながら実践しているか。この授業ではそうした教育方法の理念・思想・歴史を、各回で設定したそれぞれのテーマに分けて解説してゆきます。

**キーワード:** こども観、教育観、教育実践

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育方法の諸論について、自らの調査内容等とあわせて整理した知見を説明できる。

**評価方法:** 学期末レポート      **評価割合:** 30%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 学期末レポート

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の質疑応答や意見表明の主体性・積極性を、担当者の観察により評価する。

**評価割合:** 30%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

授業中の発言や学期末レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 10%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:**

- 【第01回】学びの入口:教養か? 実学か?
- 【第02回】日本のこども―「生きる力」の実情
- 【第03回】日本の教育改革①―新右派の台頭
- 【第04回】日本の教育改革②―旧・教育基本法
- 【第05回】日本の教育改革③―現・教育基本法
- 【第06回】日本の教育改革④―指導要領変遷
- 【第07回】日本の教育改革⑤―現・指導要領
- 【第08回】こども観・教育方法観の類型
- 【第09回】インドクトリネーションについて考える
- 【第10回】思考型と稽古型
- 【第11回】陰山英男と土堂小メソッド ①理論編
- 【第12回】陰山英男と土堂小メソッド ②実践編
- 【第13回】稽古型の事例1
- 【第14回】稽古型の事例2
- 【第15回】人間は万物の尺度か? ―ソクラテスに立ち戻る

**使用テキスト:** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。参考資料として次の2点を推薦する。

『教育学基礎資料 第6版』新井郁男ほか編著、樹村房、1,512円

『文部科学白書』文部科学省、日経印刷、2,100円(毎年7月頃に最新版が発行されることに留意すること)

また、関係省庁等から公表される最新の教育関係法令、中央教育審議会の答申などに可能な限り目を通すこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

科目コード : 81003

科目ナンバリング : GN50C03K

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 発達心理学特論(Special Studies in Developmental Psychology)

担当者 : 江尻 桂子

#### 基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 金曜6限

履修可能学科・専攻 : GN

関連資格 :

AL要素 : 07. 発表

08. 共同学習

09. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要 :** 受講希望者(履修者)が決まった段階で、授業日程や曜日・時限について、相談して決めます。

**【授業の概要】**人が生まれてから死に至るまでどのような生涯発達過程をたどるのか、また、各発達段階においてどのような問題に出会うのかということ、発達心理学の観点から理解します。授業では、上記の問題について、文献(書籍や論文)をもとに最新の研究成果を読み解くことを通して理解します。これによって、現在の子どもの発達の様相、また、子どもを取り囲むさまざまな問題について理解し、考察します。さらに、発達心理学が、個々のリサーチ・クエスチョンについて、どのような手法により解明してゆくのか、また、研究で得た知見をどのように社会に還元してゆくのかを理解します。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

**キーワード :** 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 「生涯発達過程における諸問題について発達心理学の立場から理解する」というテーマのもと、各自が研究資料(文献)をまとめて、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

**評価方法 :** 発表(論文紹介)、レポート

**評価割合 : 70%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 様々な研究論文を読み進めるなかで上記のテーマについて考察したことについて、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べる事ができる。

**評価方法 :**

**評価割合 : 30%**

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

**評価割合 : 0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記

述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回：授業の概略と到達目標  
第2回：研究の基礎を理解する(1)テーマ設定  
第3回：研究の基礎を理解する(2)レポート執筆の手順  
第4回：人を対象とする研究における研究倫理の問題  
第5回：胎児期～乳児期の様相とその発達課題  
第6回：幼児期の様相とその発達課題  
第7回：学童期の様相とその発達課題  
第8回：思春期の様相とその発達課題  
第9回：成人期・中年期の様相とその発達課題  
第10回：老年期の様相とその発達課題  
第11回：障害児・者の発達とその支援  
第12回：現代の家族の諸問題と、子育て支援  
第13回：現代の家族の諸問題と、家族の支援  
第14回：家族の臨床と病理  
第15回：発達心理学の総まとめ

**使用テキスト：** 授業に関連する資料は、全て配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 日頃から新聞や書籍を通して、子どもの発達や教育に関する問題に触れるようにしてください。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。  
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年  
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

**留意事項：** 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。

---

**科目コード：81004      科目ナンバリング：GN50C04K      主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：カウンセリング特論(Special Studies in Counseling)**

**担当者：新井 雅**

**基本情報**

**年次：1**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：集中講義**

**履修可能学科・専攻：GN**

**関連資格：教職**

**AL要素：11 討論**

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** カウンセリングの原理についての理解のもと、様々な児童生徒や人々のメンタルヘルスに関

わる諸問題に対してカウンセリングが果たす役割と効果について学ぶ。カウンセリングの歴史、理論、概念、意義、適応及び限界、カウンセリングや心理支援を必要とする対象者の特性や状況に応じた支援方法の選択・調整、訪問による支援や地域支援の意義、良好な援助関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、関係者に対する支援、心の健康教育などについて学ぶ。

**キーワード：** カウンセリング メンタルヘルス 多職種連携 地域連携

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** カウンセリングの理論的背景と方法の基本的事項について理解し説明できる。さらに、カウンセリングに関連する多職種連携や地域連携、心の健康教育、倫理的配慮事項について理解し説明できる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義で扱った内容について、自らの学修や体験を通して得られた知見との関連から考察できる。さらに、講義に関する自らの考えについて、専門的観点から、論理的かつ端的に表現ができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等がレポートの記述や発言内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自らの主体的な取り組みを通して深められた知見が、講義内における発言やレポート等の記述に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回:オリエンテーション  
第2回:カウンセリングの基礎(1)ー良好な援助関係を築くための基本姿勢  
第3回:カウンセリングの基礎(2)ー模擬事例に基づくカウンセリングの実際例  
第4回:カウンセリングの理論と技法(1)ー力動論  
第5回:カウンセリングの理論と技法(2)ー認知・行動論  
第6回:カウンセリングの理論と技法(3)ーシステム論  
第7回:カウンセリング技法の選択・調整(1)ー問題・症状・資源に応じた実践の観点  
第8回:カウンセリング技法の選択・調整(2)ーカウンセリングのプロセスの観点  
第9回:カウンセリング・心理支援に関わる関係者との連携・協働  
第10回:カウンセリングの実践事例

- 第11回: 訪問・地域支援に基づくカウンセリングの実践
- 第12回: カウンセリングの理論と技法を用いた心の健康教育
- 第13回: カウンセリングや心理支援における職業倫理
- 第14回: 支援者の自己理解とセルフケア
- 第15回: まとめ

**使用テキスト:** 必要に応じて資料、文献等を配布もしくは紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習(90分): 予め各授業回のテーマや内容に関連する文献や事例に目を通し、概要や関連用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておくこと。  
 復習(90分): 配布済み資料等を用いて授業内容を復習すること。あわせて、現代社会の子どもたちや人々が抱えるメンタルヘルス上の諸問題やカウンセリング・心理支援に関する近年の時事・動向に関心を持ちながら、地域社会の資料や取り組みなどについての自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
 参考文献等については、必要に応じて、適宜、紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 連絡等ある場合は、学務部に連絡してください。

**留意事項:** 遠隔(オンライン)での授業を実施する予定です。  
 履修生の人数やご事情、またこれまでの学修等によって開講時間や内容に変更が生じることがあります。詳しくは講義担当者にお尋ねください。  
 課題、レポート等に対しては、授業時またはIC-UNIPAを用いてコメントします。

**科目コード:** 81005      **科目ナンバリング:** GN50C05K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 栄養生理学特論(Advanced nutrition physiology)

**担当者:** 坂倉 有紀

**基本情報**

**年次:** 1      **単位数:** 2      **授業形式:** 講義  
**曜時:** 月曜7限      **履修可能学科・専攻:** GN  
**関連資格:**      **AL要素:** 17 発問と回答

**授業の概要:** 生活習慣病、特に肥満、糖尿病、動脈硬化に対する栄養素の影響、疾病予防や生体調節機能として注目されている特定保健用食品を中心的にとりあげ、文献読解と発表を行い、理解を深める。医学・栄養学の情報が科学的根拠に基づくものか考える力を養う。

**キーワード:** 生活習慣病、特定保健用食品、食品成分、栄養代謝

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** 授業で解説を受けた栄養素の働きについて、概ね80%の事項を暗記し、回答することができる。

**評価方法:** 小テスト      **評価割合:** 30%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業で扱った内容について自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** レポート  
 発表      **評価割合:** 70%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果がレポート

や発表内容により認められる場合は、上記項目の思考力・判断力・表現力の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し厳重注意とするため、注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

【特例期間中の授業形態】課題研究型  
と【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型)で行います

- 1.Introduction
- 2.Evidence Based Medicine
- 3.科学情報の収集方法・学术论文の検索
- 4.摂食制御のメカニズム
- 5.糖代謝のメカニズム
- 6.食と糖尿病
- 7.脂質代謝のメカニズム
- 8.コレステロール代謝の分子メカニズム
- 9.食と肥満、メタボリックインドローム
- 10.たんぱく質
- 11.血圧調節のメカニズム
- 12.ミネラル等
- 13.発表1 食品由来成分と代謝
- 14.発表2 各種ガイドラインから考える
- 15.まとめ

使用テキスト： プリントを配布します。

予習・復習のポイントと 授業後、授業内容について復習し、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが  
参考文献・資料等： 望ましい(60分)。

障がいのある 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 発表を行っていただきますので、パワーポイントが使えるようにしておいてください。  
大学院 社会人が多く、日程は土曜日や夜を使って、お互いに日程の合う日をすり合わせて実施しています。  
受講する際にご相談ください。

課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行う予定です

---

科目コード：81006

科目ナンバリング：GN50C06K

主な使用言語：日本語



授業名(英文): 障害者支援特論(Advanced support on the handicapped)

担当者: 江尻 桂子

#### 基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜6限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 07. 発表  
08. 共同学習  
09. 資料調査課題  
11. 討論  
14. 輪読活動  
15. レポート指導  
16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【留意事項】受講希望者と相談のうえ、授業日程や曜日・時限について、決定します。  
【授業の概要】障害児・者の支援やその家族支援に関してエビデンスに基づいて理解を進めます。その際、障害理解に関しては担当教員の専門である心理学の研究知見を中心に理解をします。授業の進め方としては、文献(書籍や論文)をもとに、最新の研究成果を読み解くとともに、映像資料等を通して実際の事例についても考えていきます。なお、受講生自身にも、各自の興味のあるテーマ(例 認知症患者の家族支援、ヤングケアラーの問題)を選んでもらい、それについての文献をご紹介します。これらの学びを通して、現代の障害児者及びその家族支援がどのような状況であるのかを理解するとともに、支援に関するさまざまな課題について考察します。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

**キーワード:** 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 成人 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 「障害児者の支援を理解するというテーマ」のもと、各自が講義をもとに理解を進めたり、自分自身も文献(論文など)のまとめを発表する。これらを通して上記のテーマについて深く考察する。

**評価方法:** 発表(論文紹介)、レポート

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 様々な研究論文を読み進めるなかで上記のテーマについて考察したことについて、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。さらに、自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

**評価方法:**

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

**評価割合:** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について自分自身で資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりしますので、それらに対する準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：授業の概略と到達目標  
第2回：身体障害児者とその支援（理論）  
第3回：身体障害児者とその支援（実践）  
第4回：知的障害児者とその支援（理論）  
第5回：知的障害児者とその支援（実践）  
第6回：発達障害児者とその支援（理論）  
第7回：発達障害児者とその支援（実践）  
第8回：精神障害児者とその支援（理論）  
第9回：精神障害児者とその支援（実践）  
第10回：障害のある乳幼児とその家族の課題  
第11回：障害のある児童・青年とその家族の問題  
第12回：障害のある高齢者とその家族の問題  
第13回：現代の家族の諸問題と、障害児家族の支援（理論）  
第14回：現代の家族の諸問題と、障害児家族の支援（実践）  
第15回：障害者支援の総まとめ

使用テキスト： 授業に関連する資料は、全て配布します。

予習・復習のポイントと 日頃から新聞や書籍を通して、障害児者およびその家族の支援に関する問題に触れるよう  
参考文献・資料等： にしてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 授業の日程や曜日・時間帯については、初回の授業で、受講生と相談のうえ、必要に応じて調整を行う予定です。

---

科目コード：81007      科目ナンバリング：GN50A01K      主な使用言語：日本語

授業名（英文）：看護学研究法特論（Nursing Research Methodology）

担当者：前田 和子、栗原 加代、眞崎 由香、池袋 昌子、中村 裕美

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜7限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：教職

AL要素：07発表

11討論

17発問と回答

授業の概要：

目的：看護における研究の意義を踏まえ、看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解し、妥当で信頼性の高い研究のプロセスとそこで必要とされる思考過程を理解する。そして、系統的に文献を検索し、論文をクリティークできる力を養い、研究計画の立案を目指す。

概要：看護学の発展と看護研究の意義、看護を研究する上での特殊性・倫理性、妥当で信

頼性の高い研究のプロセスについて講義する。研究デザインは、調査研究、実験研究、質的研究について講義する。系統的な文献検索と文献検討についての講義をふまえ、関連分野の文献検索と選定した論文についてプレゼンテーションを行い、参加者全員でのディスカッションにより論文のクリティークを試みる。

**キーワード：** 看護研究・研究倫理・研究方法

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 看護における研究の意義を踏まえ、看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解し、妥当で信頼性の高い研究のプロセスとそこで必要とされる思考過程を理解することができる。

**評価方法：** プレゼンテーション・**評価割合：80%**  
レポート・クラスへの参加状況

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 系統的に文献を検索し、論文をクリティークできる力、研究計画立案に向けた力を養うことができる。

**評価方法：** プレゼンテーション・**評価割合：20%**  
レポート・クラスへの参加状況

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマ、研究方法の立案に向けて、主体的に取り組むことを望む。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

**授業計画：** 【第01回】看護学の発展と看護研究の意義：池袋

【第02回】研究における倫理的配慮：池袋

【第03回】研究プロセス：前田

【第04回】系統的文献検索：前田

【第05回】研究デザイン 調査研究1：眞崎

【第06回】研究デザイン 調査研究2：眞崎

【第07回】研究デザイン 実験研究1：中村

【第08回】研究デザイン 実験研究2：中村

【第09回】研究デザイン 質的研究1：栗原

【第10回】研究デザイン 質的研究2：栗原

【第11回】論文クリティーク1 クリティークとは：前田

【第12回】論文クリティーク2 調査研究：眞崎

【第13回】論文クリティーク3 実験研究：中村

【第14回】論文クリティーク4 質的研究：栗原

【第15回】まとめ：前田

\* 11-14回は受講者の興味に応じた論文の検索、クリティーク、授業でのプレゼンテーション

ン&ディスカッションを通じて学びを深める。少なくとも、1回に1テーマ以上の論文を選択する。

**使用テキスト：** D.P. Polit,c,T.Beck, 近藤潤子監訳:看護研究 原理と方法、第4版 医学書院、2009  
関連分野の学会誌など、その他 各担当教員から、適宜紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 自らの研究計画立案につながるよう、研究方法の基礎的知識について予習・復習する。参考文献・資料等については、各講義の内容に応じて各担当教員より配付する。また各担当教員へ相談することも可能である。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段：** 指導が必要な場合、相談のある場合については、予めメール等で連絡する。

**留意事項：** CNSコースの学生は必ず履修する。

---

---

**科目コード：**81008      **科目ナンバリング：**GN50A02K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**看護理論特論(Theoretical Structures of Nursing)

**担当者：**永野 光子

#### 基本情報

**年次：**1      **単位数：**2      **授業形式：**講義  
**曜時：**土曜3限      **履修可能学科・専攻：**GN  
**関連資格：**教職      **AL要素：**07.発表11.討論

**授業の概要：** 看護専門職者として理論的知識に基づいた看護を実践するために、各専門領域の実践・教育の基盤となる看護理論・中範囲理論の理解に必要な基礎的な知識を修得する。基礎的知識と自らの看護職者としての経験を活用し、看護における諸理論の適用の実際と課題を考察する。  
授業は、学生によるプレゼンテーションおよび教員・学生間の討議を中心に進める。

**キーワード：** 看護理論、看護理論の実践・教育・研究への活用

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 看護理論の理解に必要な基本的知識の学習を通し、現在活用されている看護理論を理解し、実践への活用の実際について考察することができる。

**評価方法：** プレゼンテーション、レポート      **評価割合：**60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** プレゼンテーションの内容について、学習した成果と自己の経験を活用し、看護理論の内容の理解や実践への活用に資するディスカッションを行うことができる。

**評価方法：** 上記参照      **評価割合：**20%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

担当する回のプレゼンテーションは準備を整えて臨むこと、他の院生のプレゼンテーションを聞き、自己の意見を述べること、看護理論の理解と実践への活用に資するディスカッションを行うこと、が必要である。

**評価割合：**20%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、授業への積極的な参加を求める。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言等に不適切な行為があった場合には注意や面接等の対

応を行う。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回(永野):授業の進め方  
第2回(永野):基礎編(1):理論とは、看護理論の構成要素、範囲、用語の理解  
第3回(永野):基礎編(2):看護理論の歴史の変遷  
第4回(永野):基礎編(3):看護理論の分析と評価  
第5回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用の実際:キング看護理論  
第6回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用①  
第7回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用②  
第8回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用③  
第9回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用④  
第10回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用⑤  
第11回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用⑥  
第12回(永野):看護理論の分析と実践・教育への適用⑦  
第13回(永野):看護理論を活用した文献の抄読  
第14回(永野):看護基礎教育・看護継続教育における看護理論の授業展開  
第15回(永野):まとめ

**使用テキスト：** 初回の授業で提示します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習について:院生によるプレゼンテーションが主となるため、事前準備が重要になる。その日はプレゼンテーションの担当ではない院生も、プレゼンテーションが行われる看護理論について概要を理解し授業に臨むことで、より内容の充実したディスカッションにつながる。復習について:授業資料、テキストを見直すことにより、理解が深まる。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等へ連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** メールにて対応します。

**留意事項：** 特になし

---

科目コード:81009      科目ナンバリング:GN50A03K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):看護倫理特論(Advanced Nursing Ethics)

担当者:有江 文栄

**基本情報**

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:土曜2限

履修可能学科・専攻:GN

関連資格:教職

AL要素:07.発表

11.討論

13.役割演技と疑似体験

**授業の概要：** 授業形態は、コロナ感染防止対策の為遠隔授業(同時双方向型)といたします。  
\*授業資料を当日までにIC-UNIPAに登録します。PCなどの環境を整えておいてください。  
授業に関して困ったこと、質問などあれば以下のメールアドレスに連絡すること。  
farie3@ncnp.go.jp

生命倫理、医療倫理についてその歴史や基礎を学びます。臨床における倫理問題や生命や医療に関わる社会問題など具体的な事例(受講者の体験も含む)を用いてクラス全体でディスカッションしながら倫理的反省と推論能力を洗練し、倫理的意思決定能力を養います。

受講人数に応じて、模擬臨床倫理コンサルテーション、事例検討など行います。

**キーワード：** 看護のプロフェッショナリズム、倫理的推論、倫理的意思決定

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 看護の専門性、看護倫理の基礎及び歴史について述べる事が出来る。看護の倫理的役割と責任について具体的に説明できる

**評価方法：** リアクションペーパー及び

**評価割合：** 30%

最終レポート

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で取り扱った医療の倫理問題について、自らの倫理的価値観や医療の在り方、社会のあり方等について考察し、統合的かつ論理的に意見を述べる事が出来る

**評価方法：** リアクションペーパー及び

**評価割合：** 40%

最終レポート及び事例発表

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で取り扱う課題について事前に調べ、自身の専門職としての経験も紹介しつつクラスで意見交換ができる。

**評価割合：** 0-10

#### ▼ 実践的ボランティア

ディスカッションに積極的に参加し、他者を尊重しつつグループワークに貢献することが出来る。

**評価割合：** 10%

#### ▼ 公正性

ディスカッションにおいて、他者の意見を尊重し、また他者がディスカッションに参加しやすい配慮をすることができる。

**評価割合：** 0-10%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. 授業ガイダンス、生命倫理と医療倫理の歴史的展望
  2. 生命倫理・医療倫理の基礎
  3. 生命倫理の諸問題：先端医療科学技術とひとの生命の始まり  
人の尊厳・権利について考える
  4. 生命倫理の諸問題：終末期医療における倫理  
意思決定プロセスの支援、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を考える
  5. 看護の専門性と倫理的役割・責任  
看護のプロフェッショナリズムとチーム医療の在り方について考える
  6. 倫理的推論方法、意思決定モデル  
Jonsenらの臨床倫理4分割法、国際看護協会4分割、ジレンマ・メソッド、  
ジョージタウンのEthics Work-up等の様々な分析ツールの特徴を理解する
  7. 臨床における倫理問題(1)  
治療の選択、インフォームド・コンセントにかかわる身近なモデルケースをツールを用いて分析を行う
  8. 臨床における倫理問題(2)  
ツールを活用した問題分析と意思決定、具体的倫理の実践を考える
  9. 臨床における倫理問題(3)  
ツールを活用した問題分析と意思決定、具体的倫理の実践を考える

10. 臨床における倫理問題(4)  
ツールを活用した問題分析と意思決定、具体的倫理の実践を考える
11. 研究倫理(医学系研究における研究対象者保護と公正な研究活動)
12. 模擬臨床倫理コンサルテーション(1)
13. 模擬臨床倫理コンサルテーション(2)
14. 事例検討 プレゼンテーション準備
15. 事例検討 プレゼンテーション

**使用テキスト:** 特に指定なし

**予習・復習のポイントと** 事前準備学習

**参考文献・資料等:** 医療・看護の問題に関する情報を、文献資料やメディア等を通じて収集しておくこと、自身の看護経験等を紹介できるよう準備しておくこと。

参考文献と資料は適宜紹介いたします。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応いたしますので、まずは学務部当に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** E-mail 又はIC-UNIPA等で対応いたします。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 81011      **科目ナンバリング:** GN50C09K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** ヘルスプロモーション特論(Advanced Health Promotion)

**担当者:** 市村 久美子、松永 恵

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 土曜4限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 発表  
討論

**授業の概要:** ヘルスプロモーションはあらゆる世代、あらゆる場においてなされ、個人のみならず、環境への働きかけが重要である。

本授業では、ヘルスプロモーションの考え方を理解し、対象者のライフステージ、生活の場、価値観を踏まえ、健康な人生が送れるよう支援できるようになることを目指している。

受講生は事前に、授業回のテーマに基づき、テキストの該当する箇所を、引用文献も含めて読み込み、資料を作成する。授業の前半は、受講生が作瀬した資料に基づきプレゼンテーションを行う。後半は、身近な事例を想起しながらディスカッションし、学びを深める。

**キーワード:** 健康 幸福 ライフステージ 生活の場 ヘルスリテラシー、アドボケート

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 1 ヘルスプロモーションに関連する概念や活動を理解する(知識・理解)。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 2 ライフステージにおけるヘルスプロモーション活動について説明できる(思考・判断・表現)。

3 生活の場におけるヘルスプロモーション活動について説明できる(思考・判断・表現)。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

討論に積極的に参加する

評価割合：40%

▼実践的ボランティア

評価しない

評価割合：0%

▼公正性

評価しない

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション、健康のとらえ方  
第2回：ヘルスプロモーション、健康、病気、幸福とは  
第3回：健康行動に必要な理論：健康信念モデル、変化のステージモデル、計画的行動理論  
第4回：健康行動に必要な理論：自己効力感、ナッジの理論、コーチング  
第5回：ヘルスプロモーション活動  
第6回：ヘルスプロモーションと看護  
第7回：WHOのヘルスプロモーションの発達史と健康施策（特別講師）  
第8回：ヘルスリテラシー、アドボカシー  
第9回：ライフステージ（小児期～成人期）とヘルスプロモーション  
第10回：ライフステージ（成人期～高齢期）とヘルスプロモーション  
第11回：受講者自身のライフステージにおけるヘルスプロモーション  
第12回：生活の場（学校）におけるヘルスプロモーション  
第13回：生活の場（職場、病院）におけるヘルスプロモーション  
第14回：受講生の生活の場（働く場）におけるヘルスプロモーション  
第15回：こころの健康づくり まとめ  
定期試験

**使用テキスト：** 市村久美子・島内憲夫編「新体系 看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション」メヂカルフレンド社  
2018

**予習・復習のポイントと** 【参考文献・資料等】

**参考文献・資料等：** 授業中に紹介する。

【予習・授業準備】

- 授業回のテーマに基づき、テキストの該当する箇所を、引用文献も含めて読み込む。  
(引用文献は自分で取り寄せる)
- レジュメ(A4用紙 1枚程度)を作成する。

**障がいのある** 学務部にご相談ください。

**履修者への対応：**

**授業時間外の連絡手段：** 授業開始時にメールアドレスをお知らせします。

**留意事項：** なし

---

科目コード：81012      科目ナンバリング：GN50C10K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンサルテーション特論(Advanced Nursing Consultation)

担当者：栗原 加代、板垣 昭代

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：GN



関連資格：教職

AL要素：07発表

10資料調査課題

11討論

13 役割演技と疑似体験

14 輪読活動

15 レポート指導

- 授業の概要：**
1. 看護職が直面する、様々な問題を解決するためのコンサルテーションの援助方法の基本知識を講義で習得する。
  2. クライアント・スタッフなどにおける、コンサルテーションのあり方についてチームアプローチの視点から検討する。
  3. ロールプレイ等の疑似体験を通して自己のコンサルテーション方法を振り返り、課題を焦点化し参加者でディスカッションを行う。
  4. 効果的なコンサルテーションの実践方法についてプレゼンテーションを行い評価する。

**キーワード：**コンサルテーション 看護マネジメント コミュニケーション カウンセリング 包括的アセスメント 危機介入方法  
問題解決アプローチ 解決志向アプローチ エンパワーメント能力 対人関係トレーニング

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**看護職を含むチーム医療の中で、ケアを提供する専門職者が直面する様々な問題を解決するための援助方法として、コンサルテーションに必要な基本的知識と実践方法について理解する。また、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションの問題や課題について検討する。さらに、自己の課題を、ロールプレイやコンサルテーション役割体験にて演習しコンサルテーションの実際について理解し実践できるようにする。

**評価方法：**レポート  
討論

**評価割合：30%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**

- 1 スタッフ教育など、看護マネジメントのあり方についてチームアプローチの視点から学習し、健康を維持増進・回復するために必要なコンサルテーション、コー ディネーション方法の実際について探求する。
- 2 学んだ内容の実践方法についてプレゼンテーションを行い、参加者同士でディスカッションを行ない検討する。

**評価方法：**レポート  
討論

**評価割合：40%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題の提出 討論、ロールプレイングへの参加を評価する。

**評価割合：30%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象にはしない。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

討論会、ロールプレイングでの発言等評価の対象とする場合がある。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：** 【第01～02回】コンサルテーションの理解と特徴（栗原）
- 第1回 1) カウンセリング・コンサルテーション・スーパービジョンとの違い  
2) コンサルテーションの目的?目標 3) コンサルテーションの役割
  - 第2回 4) コンサルテーションの機能 5) コンサルテーションの種類
- 【第03～05回】コンサルテーションを実践するための基礎理論（栗原）
- 第3回 コンサルテーションを実践するために必要な基礎理論 ①  
(包括的アセスメント 危機介入方法)
  - 第4回 コンサルテーションを実践するために必要な基礎理論 ②  
(問題解決アプローチ 解決志向アプローチ)
  - 第5回 コンサルテーションを実践するために必要な基礎理論 ③  
(エンパワーメント能力 対人関係トレーニング)
- 【第06～07回】コンサルテーションの実際Ⅰ（栗原）
- 第6回 コンサルテーションの実際（栗原）  
①(クライアント中心、コンサルティ中心の事例を通しディスカッションする)
  - 第7回 コンサルテーションの実際（栗原）②  
(プログラム中心の管理、コンサルティ中心の管理事例を通してディスカッションする)
- 【第08～13回】コンサルテーションの実際Ⅱ（板垣）
- 第8回 看護実践におけるコンサルテーションの活用 ① 組織における継続教育のあり方
  - 第9回 看護実践におけるコンサルテーションの活用 ② 看護の現場におけるコンサルテーションの実戦報告の文献検討
  - 第10回 看護実践におけるカウンセリング・コンサルテーション 心理カウンセリングの実際 コンサルテーションの実際自己の課題となる事例の提出
  - 第11回 看護実践におけるコンサルテーション活用の実状 ① 課題内容をもとにしたロールプレイング
  - 第12回 看護実践におけるコンサルテーション活用の実状 ② 課題内容の問題を焦点化し  
ディスカッション、
  - 第13回 看護実践におけるコンサルテーション活用の実状 ③ 課題内容の問題解決方法  
に向けたディスカッション
- 【第14～15回】コンサルテーション方法の構築（栗原）
- 第14回 1) ディスカッションした課題において、自己のコンサルテーション方法について  
プレゼンテーション・演習  
2) ディスカッション
  - 第15回 1) 本講義の振り返り  
2) まとめとレポート提出・評価
- \* 事例提供者をコンサルティ、他の参加者はコンサルタントの役割を担いロールプレイングディスカッションに参加する。

**使用テキスト：** 教科書 川野雅資:コンサルテーションを学ぶ 改訂版 , クリティカルケア, 2017.

その他は、講義・演習時適宜指示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** コンサルテーションを行うことに、関連する理論について予習しておくことを期待する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーで対応する。

**留意事項:** 積極的に、自分の意見を述べられるように準備しておくことが望ましい。

---

科目コード: 81013      科目ナンバリング: GN50C11K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 看護管理学特論(Advanced Nursing Administration)

担当者: 池袋 昌子

#### 基本情報

年次: 1      単位数: 2      授業形式: 講義

曜時: 水曜3限      履修可能学科・専攻: GN

関連資格:      AL要素: 07. 発表  
11. 討論  
14. 輪読活動  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業（同時双方向型）を含む

保健医療福祉の主要な法律・システムの特徴と課題を概観する。看護管理者に求められる質保証・質改善や、看護管理者の役割・機能、人材の育成・活用を解説する。

また、法律、人事・労務管理、経営学の諸理論やツールを用いた所属組織の分析、看護管理の構成要素（ヒト・モノ・カネ・情報・時間・システム・ナレッジ）をふまえた効果的・効率的なケアを保証する管理的手法を講義する。テーマ別に「論点」を提示し、問題意識・対応能力を養成する。

さらに、高度実践看護職の役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）と、チーム医療における多職種への働きかけと協働・連携について教授する。サービス利用者の視点から各自の看護実践を再考し、高度実践看護師に求められる看護管理の知識とリーダーシップを熟考する。

なお、担当教員の「認定看護管理者」の実務経験を活かし、看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床における看護管理学の実際を教授する。

**キーワード:** ヘルスケアシステム、看護サービスの質管理、人材管理、組織管理、経営資源管理、キャリアマネジメント、多職種連携、チーム医療、タスク・シフト／シェア

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 看護管理学の基礎となる日本の医療制度の特徴や課題、医療経済学的評価の基本的概念、健康関連QOLを修得することができる。
  2. 日本の医療制度や医療の場における患者-医療者関係をふまえて、看護専門職として教育的視点を内包した総合的看護管理実践能力を修得することができる。

**評価方法:** ・プレゼンテーション      **評価割合: 50%**  
・レポート  
・ディスカッションへの参加度  
(上記を総合的に評価する。)

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 授業で扱った内容について、看護管理実践・自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** ・プレゼンテーション      **評価割合: 50%**  
・レポート  
・ディスカッションへの参加度

(上記を総合的に評価する。)

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第01回】ヘルスケアシステム論  
社会保障の概念、保健医療福祉制度とヘルスケアシステム、日本の医療供給体制・医療費の特徴と課題
- 【第02回】ヘルスケアシステム論  
医療施策と看護施策、看護制度と看護管理者、看護制度と政策決定過程
- 【第03回】看護サービスの質管理  
看護管理の構成要素(ヒト・モノ・カネ・情報・時間・システム・ナレッジ)、看護管理と看護サービス、看護サービスの質保証と評価・改善
- 【第04回】看護サービスの質管理  
看護における医療安全の推進と安全管理、看護サービスの質管理と記録
- 【第05回】看護サービスの質管理  
看護サービス受益者の満足度評価  
(患者の権利と責務・インフォームド・コンセント・患者の安全確保)  
看護サービス提供者の満足度評価  
(待ち時間対策・第三者評価の認定・職員教育の充実)
- 【第06回】人材管理論  
専門職業人とキャリア形成、看護専門職の社会化、キャリア発達とキャリア開発、ジェネラリストとスペシャリスト
- 【第07回】人材管理論  
専門看護師・認定看護師・認定看護管理者の資格認定制度、リーダーシップとマネジメント、人材の育成と活用、タスク・シフト/シェア
- 【第08回】人材管理論  
看護管理と労働法令  
(子育て支援・非正規労働の法令、看護師等の人材確保の促進に関する法律)  
看護専門職者の人事システムと賃金体系
- 【第09回】組織管理論  
組織の成り立ちと構造、組織開発と組織変革、組織倫理、組織分析
- 【第10回】組織管理論  
保健医療福祉サービスを提供する組織のしくみ、看護サービスを提供する組織のしくみ、サービス提供体制の変革、組織化と看護組織のあり方
- 【第11回】経営資源管理論  
保健医療福祉における経済と経営、ヘルスケアにおけるサービス業の経済・経営、診療報酬・介護報酬と経営、

- 診療報酬上の評価につながる看護実践
- 【第12回】経営資源管理論  
保健医療福祉における財務管理の枠組み、  
看護管理における情報活用と取り扱いに関する倫理的側面
- 【第13回】高度実践看護師のキャリアマネジメント  
キャリアとキャリア形成、高度実践看護師のキャリア形成、  
看護専門職としての成長（社会化）、ストレスマネジメント
- 【第14回】看護管理における高度実践看護師の役割  
高度実践看護師に求められる看護管理の知識とリーダーシップ、  
総合的看護実践能力
- 【第15回】高度実践看護師の多職種連携  
看護管理者との協働・連携活動、保健医療福祉に携わる多職種との調整

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には、その回のテーマに関連する文献を調べる。  
授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

以下の参考文献・資料を推薦する。

1. 井部俊子・増野園恵(2023)：看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論，日本看護協会出版会。
2. 井部俊子・秋山智弥(2023)：看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理，日本看護協会出版会。
3. 井部俊子・手島恵(2023)：看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論，日本看護協会出版会。
4. 井部俊子・勝原裕美子(2023)：看護管理学習テキスト第3版 第4巻 組織管理論，日本看護協会出版会。
5. 井部俊子・金井Pak雅子(2023)：看護管理学習テキスト第3版 第5巻 経営資源管理論，日本看護協会出版会。
6. 井部俊子・増野園恵(2023)：看護管理学習テキスト第3版 別巻 看護管理基本資料集，日本看護協会出版会。
7. 上泉和子・小山秀夫(2018)：看護管理 看護の統合と実践，医学書院。
8. 看護管理学分野の学会誌等、その他適宜提示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項：** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード：81018      科目ナンバリング：GN60B01E      主な使用言語：日本語  
授業名(英文)：看護学特別研究(基盤実証看護学)(23-24用)a(Nursing Research (Scientific Nur  
担当者：松永 恵

**基本情報**

年次：1      単位数：8      授業形式：演習  
曜時：2023年度 前期(月曜1限)、2023年度      履修可能学科・専攻：GN  
関連資格：      AL要素：07発表  
10資料調査課題  
11討論  
15レポート指導

**授業の概要：** 受講者が看護教育の場面で困っていること、気になっていることから研究関心を生み出し、調査、分析、考察するという一連の過程を体験する。また、研究の成果を論文として執筆した

後、発表、質疑応答といった成果発表の過程も体験する。

受講生は自身の教育を省察することになり、苦しい時期を経た後、調査、分析により新知見を得、研究の醍醐味を味わうことになる。

これらの体験を経て修了した後には、現場に生じた身近な問題を研究的に解決する思考や技能を発揮してほしい。

**キーワード：**看護学 教育 研究 関心 倫理

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

- 到達目標：**
- 1 自己の研究関心に基づき看護教育学に関する先行研究を検討することができる。
  - 2 研究倫理に基づき、研究計画書を作成することができる。
  - 3 2に基づき、対象に配慮しながら調査を実施することができる。
  - 4 調査結果を適切な手続きで分析することができる。

**評価方法：**プレゼンテーション  
レポート  
研究計画書

**評価割合：40%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
- 1 自己の研究関心について表現することができる。
  - 2 自己の研究関心と先行研究の検討に基づき、研究課題を設定することができる。
  - 3 2の検討に適した研究方法を選択することができる。
  - 4 調査結果を踏まえ、考察することができる。
  - 5 研究の経過を踏まえ、論旨一貫性のある論文を作成することができる。
  - 6 限られた時間の中で、参加者が理解しやすい資料を用意し発表できる。

**評価方法：**レポート  
論文  
発表  
発表資料

**評価割合：50%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

- 1 ゼミにおいて、気になったことを表現できる。
- 2 ゼミで解決できなかったことについて、自分で調べ、理解しようと努めることができる。
- 3 仲間の研究に興味を持ち、理解しようと努めることができる。

**評価割合：10%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、他者の研究にも興味を持ち、お互いに高めようとする態度を求める。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。  
常に研究協力者が感じる苦痛に配慮することができる。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

なし

**評価割合：なし**

**授業計画：**

1年次	
4～8月	研究関心の検討、先行研究の検討
9月	研究計画書、倫理申請書の作成
10月	倫理審査、研究計画書の修正

12～3月	調査、分析
2年次	
4月	調査の中間まとめ
5月	中間発表資料作成
6月	中間発表
7～9月	調査、分析、考察
10～12月	論文執筆
1月	論文提出、審査
2月	発表

**使用テキスト：** <テキスト>  
 受講生の研究関心、選択した方法により、指示します。  
 <参考文献>  
 野口美和子:ナースのための質的研究入門, 医学書院  
 中山和弘:看護学のための多変量解析入門, 医学書院

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 先行研究の検討に始まり、先行研究の検討に終わる。  
 研究の過程では、同じ論文を何度も読み直すことになる。繰り返し読み、著者の主張とその根拠を確かめるといふ作業を惜しまず行う。  
 そのためには、ゼミが終わったらすぐに文献を取り寄せ、読む時間を確保する必要がある。

**障がいのある履修者への対応：** 本演習に関し、不安がある場合には、教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 第1回の授業で伝えます。

**留意事項：** 特になし。

**科目コード：**81018      **科目ナンバリング：**GN60B01E      **主な使用言語：**日本語  
**授業名(英文)：**看護学特別研究(基盤実証看護学)(23-24用)b(Nursing Research (Scientific Nursing Research))  
**担当者：**池袋 昌子

#### 基本情報

<b>年次：</b> 1	<b>単位数：</b> 8	<b>授業形式：</b> 演習
<b>曜時：</b> 2023年度 前期(月曜1限)、2023年度 後期(月曜1限)	<b>履修可能学科・専攻：</b> GN	
<b>関連資格：</b>	<b>AL要素：</b> 07. 発表 09. 実地調査 10. 資料調査課題 11. 討論 14. 輪読活動 15. レポート指導 17. 発問と回答	

**授業の概要：**【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)を含む

看護管理学における研究課題に基づき、研究方法の選択、研究計画書のプロセスを修得し、学位論文を作成する。また、関連する学会や投稿を通じて、自己の研究課題を発表する。さらに、実際の看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床へフィードバックさせることにより自施設や地域社会に貢献することを目指す。

**キーワード：** 学術的価値、科学的思考、研究倫理

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

- 到達目標:** 1. 看護管理学の発展や課題の解決に向けて、研究の背景・意義を記述することができる。  
2. 具体的かつ実現可能な研究目的、研究疑問、仮説を導き出すことができる。  
3. 研究目的、研究疑問、仮説に適した研究方法を計画することができる。  
4. 研究対象者の尊厳と権利を擁護するための配慮のもと、研究を計画することができる。  
5. 修士論文を作成し、発表することができる。  
6. 一連の研究プロセスを学び、研究者の基礎を修得することができる。

**評価方法:** ・課題研究型レポート  
・研究計画書  
・倫理審査関係書類  
・発表  
・学位論文

**評価割合: 50%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 1. 研究プロセスを通して得た知見や先行研究をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの思考を表現することができる。  
2. 看護管理実践と知識体系を統合させ、学位論文を作成し発表することができる。

**評価方法:** ・課題研究型レポート  
・研究計画書  
・倫理審査関係書類  
・発表  
・学位論文

**評価割合: 50%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合: 特になし。**

**授業計画:** 【第01回】文献レビュー  
【第02回】文献レビュー  
【第03回】研究テーマの設定  
【第04回】研究テーマの設定  
【第05回】研究の背景・意義・目的  
【第06回】研究の背景・意義・目的  
【第07回】研究デザイン  
【第08回】研究デザイン  
【第09回】研究の対象者  
【第10回】研究の対象者  
【第11回】データ収集方法  
【第12回】データ収集方法  
【第13回】データの分析方法



- 【第14回】データの分析方法
- 【第15回】研究計画書の作成
- 【第16回】研究計画書の作成
- 【第17回】研究計画書の作成
- 【第18回】研究計画書の作成
- 【第19回】予備調査
- 【第20回】予備調査
- 【第21回】研究計画書の修正
- 【第22回】研究計画書の修正
- 【第23回】研究倫理審査書類の作成
- 【第24回】研究倫理審査書類の作成
- 【第25回】研究倫理審査書類の作成
- 【第26回】研究倫理審査書類の修正
- 【第27回】研究倫理審査書類の修正
- 【第28回】研究倫理審査書類の修正
- 【第29回】研究の対象施設・対象者への準備
- 【第30回】研究の対象施設・対象者への準備
- 【第31回】～【第35回】本研究のデータ収集
- 【第36回】～【第40回】本研究のデータ分析
- 【第41回】～【第45回】結果の記述
- 【第46回】～【第50回】考察の記述
- 【第51回】～【第60回】論文全体の内容の検討・修正

**使用テキスト：** 研究課題や研究方法に合わせて、適宜紹介する。

**予習・復習のポイントと** 研究計画書の立案をもとに演習により進める。

**参考文献・資料等：** 【事前】初回に配付する資料に従って予習を行う。その回のテーマに関連する文献を調べる。

【事後】配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主的な学び通して知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項：** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

**科目コード：** 81019      **科目ナンバリング：** GN50C17K      **主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 慢性看護学特論(Advanced Chronic Illness Nursing)

**担当者：** 浅野 均、原島 利恵、前田 和子、岡 美智代、近藤 ふさえ

**基本情報**

**年次：** 1      **単位数：** 2      **授業形式：** 講義

**曜時：** 火曜3限      **履修可能学科・専攻：** GN

**関連資格：**      **AL要素：** 05. 即時応答  
06. 遠隔交流  
07. 発表  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 慢性病患者や家族が抱える慢性特有の複雑で解決困難な問題とその背景、および慢性病患者の行動や反応の理解に役立つ諸理論を学修する。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。

キーワード： 慢性病者 家族 慢性看護の概念 慢性看護の理論

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**慢性病の理解、慢性病を持つ人とその家族の理解、援助、支援の基盤となる概念と理論、急性増悪や合併症による状態の変化を慢性病を持つ人とその家族について理解する。

**評価方法：**プレゼンテーション

**評価割合：**40%

レポート

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**慢性看護を発展させる看護研究の探求を資料を基に講義と文献クリティーク、ディスカッションを行い学修する。

**評価方法：**プレゼンテーション

**評価割合：**40%

レポート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合：**20%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：**0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合：**0%

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

**授業計画：**

- 【第01回】慢性病をもつ人の生活と行動の特性
- 【第02回】慢性病をもつ人の療養環境の特徴
- 【第03回】慢性病をもつ人のその人らしさ：ライフストーリー
- 【第04回】慢性病をもつ人の複雑で解決困難な問題：社会的孤立、スティグマ
- 【第05回】慢性病を持つ人とその家族の理解
- 【第06回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論①：セルフケア
- 【第07回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論②：病みの軌跡
- 【第08回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論③：障害の受容過程
- 【第09回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論④：ストレス・コーピング、エンパワメント
- 【第10回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論⑤：保健行動相互作用モデル、自己効力感、エンドオブライフケア
- 【第11回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論⑥：症状マネジメント
- 【第12回】慢性病を持つ人と家族への支援の基盤となる概念・理論⑦：ICFモデル
- 【第13回】慢性病を持つ人と家族への支援方法についての検討：サブスペシャリティでの支援方法の検討

【第14回】慢性病・看護に関する研究論文の動向、研究デザインの特徴

【第15回】慢性病を持つ人々に関する研究の課題と展望

使用テキスト： 適宜提示する。

- ・Anserum, sutorus and J. Corbin et.al/南裕子監訳(1987):慢性疾患をいきる-ケアとクオリティ・ライフの接点, 医学書院.
- ・Lubkin, I.M. Larson, P.D. 編;黒江ゆり子監訳(2007):クロニクイルネス 人と病いの新たななかかわり, 医学書院.
- ・野川道子著(2016):看護実践に活かす中範囲理論 第2版, メヂカルフレンド社.
- ・上田敏著(2005):ICFの理解と活用、人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか, 萌文社.
- ・小島操子(2018):看護における危機理論・危機介入, 金芳堂.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： プレゼンテーションは、オフィスアワーを活用し、提示した事前学習課題の準備を行うこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室等に対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

留意事項： 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修する。  
生活支援看護学領域の学生は履修することが望ましい。

---

科目コード：81020      科目ナンバリング：GN51C01K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：慢性看護学援助特論I(Theory and Model of Nursing Care for Chronic I)

担当者：浅野 均、原島 利恵、本間 真人、石原 未幸

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜6限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：05.即時応答  
07.発表  
11.討論  
16.振り返り用紙と応答  
17.発問と回答

授業の概要： 慢性病を持つ人の複雑な状態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを学修する。慢性病の支援技術について大枠とする身体的アセスメントを学び、慢性病をもつ人の理解を深める。慢性看護学における先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行い、実践事例を用いたまとめた資料を基にプレゼンテーションを行っていく。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。

キーワード： 慢性疾患 包括的アセスメント 慢性病の支援技術

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標： 慢性病をもつ人の病態生理と複雑な状態の身体的・心理社会的な面を含めた包括的アセスメントについて学修する。

評価方法： 課題レポート

評価割合：40%

プレゼンテーション

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 慢性病の支援技術について大枠とする身体的アセスメントを学び、慢性病をもつ人の理解を深める。慢性看護学における先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行い、実践事例を用いたまとめた資料を基にプレゼンテーションを行い、議論することにより考察できる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 30%

プレゼンテーション

### ▼学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合:** 30%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】慢性病をもつ人の包括的なアセスメントの概要
  - 【第02回】慢性病をもつ人の身体面の特徴①呼吸器・循環器のアセスメント
  - 【第03回】慢性病をもつ人の身体面の特徴②呼吸器・循環器のアセスメント
  - 【第04回】慢性病をもつ人の身体面の特徴③栄養・代謝機能のアセスメント
  - 【第05回】慢性病をもつ人の身体面の特徴④排泄機能のアセスメント
  - 【第06回】慢性病をもつ人の身体面の特徴⑤感覚器・運動機能のアセスメント
  - 【第07回】慢性病をもつ人の身体面の特徴⑥脳神経のアセスメント
  - 【第08回】慢性病をもつ人の主要な症状のアセスメント①疼痛、倦怠感等のアセスメント
  
  - 【第09回】慢性病をもつ人の主要な症状のアセスメント②サブスペシャリティ領域にみられる特有の症状アセスメント
  - 【第10回】慢性病をもつ人の心理社会面の特徴①認知機能のアセスメント
  - 【第11回】慢性病をもつ人の心理社会面の特徴②精神面(不安・うつ)のアセスメント
  - 【第12回】慢性病をもつ人の日常生活を支えるためのヘルスアセスメント
  - 【第13回】慢性病をもつ人の薬物療法への理解
  - 【第14回】慢性病をもつ人の自己管理できる薬剤の拡大と課題
  - 【第15回】慢性病をもつ人の包括的なアセスメントの実践に向けての課題

**使用テキスト:** 講義中に参考文献を適宜紹介する。

- ・Lubkin,I.M.Larson,P.D. 編;黒江ゆり子監訳(2007):クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり, 医学書院.
- ・篠崎郁(2012):フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版), Gakken.
- ・小野田千枝子, 高橋照子, 芳賀佐和子(2008):実践! フィジカル・アセスメント-看護者としての基礎技術, 金原出版.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 臨床での実践事例をまとめて講義に臨むことを勧める。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室等に対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。  
遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

**留意事項:** 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修する。

---

科目コード: 81022      科目ナンバリング: GN52C01K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 慢性看護学援助特論II(Theory and Model of Nursing Care for Chronic II)

担当者: 浅野 均、原島 利恵、小林 裕幸、岡 美智代、近藤 ふさえ、横山 悦子

#### 基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 05. 即時応答

06. 遠隔交流

07. 発表

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要:** 慢性病のさまざまな変化する時期(発症予防から死に至るまで)に対応した慢性病患者への質の高い生活を保持するための支援技術について学修する。診断・治療に伴う専門的看護支援に関する理論的根拠と支援技術(アドボカシー、自己決定、症状マネジメント、患者教育など)と評価方法についてケアとキュアを統合した支援技術を学修する。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。

**キーワード:** 慢性疾患 理論的根拠 支援技術

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 慢性病のさまざまな変化する時期の状態の変化に対応した慢性病の予防・診断・治療に伴う専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護、エンドオブライフケアなどに関する理論と支援技術などについて講義を通して学修する。理論を基にした自己効力感を高める支援技術をはじめ教育に関する看護支援技術について学ぶ。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 40%

プレゼンテーション

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 慢性看護学における先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行い、実践事例を用いたまとめた資料を基にプレゼンテーションを行い、議論することにより考察できる。

**評価方法:** プレゼンテーション

**評価割合:** 30%

課題レポート

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合:** 30%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 【第01回】慢性病をもつ人への支援：支援の基盤となる理論、慢性病の予防
- 【第02回】慢性病をもつ人の医療の進展に伴う診断・治療過程の変化
- 【第03回】慢性病の様々な時期への支援：がんリハビリテーション看護
- 【第04回】慢性病の様々な時期への支援：エンドオブライフケア
- 【第05回】慢性病の様々な時期への支援技術：アドボカシー、意思決定
- 【第06回】慢性病をもつ人への支援技術：自己効力感理論的背景と自己効力感を高める支援技術①
- 【第07回】慢性病をもつ人への支援技術：自己効力感を高める支援技術②
- 【第08回】慢性病をもつ人への支援技術：自己効力感を高める支援技術③
- 【第9・10回】慢性病をもつ人への支援技術：教育的関わりモデル 直感的解釈と関わり言動
- 【第11・12回】慢性病をもつ人への支援技術：教育的関わりモデル 教育的関わり技法＜症状マネジメント＞
- 【第13・14回】慢性病をもつ人への支援技術：慢性病の状態に対応した支援技術について、サブスペシヤリティ領域での内容の吟味と課題（辻・横山・原島）
- 【第15回】慢性病をもつ人への支援技術と評価方法についてのまとめと看護実践に向けた課題

使用テキスト： 講義中に参考文献を適宜紹介する。

- ・ARN、奥宮暁子監修：リハビリテーション看護の実践 概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム、日本看護協会出版会、2005
- ・岡 美智代（著，編集）（2018）：行動変容をうながす看護 患者の生きがいを支えるEASEプログラム，医学書院。
- ・河口てる子（2017）：熟練看護師のプロの技見せます！慢性看護の患者教育：患者の行動変容につながる「看護の教育的関わりモデル」，メディカ出版。

予習・復習のポイントと 参考文 献・資 料 等： これまでの講義を振り返り、臨床での実践をまとめ講義に臨むことを勧める。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授 業 時 間 外 の 連 絡 手 段： オフィスアワーに研究室等に対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

留 意 事 項： 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修する。

---

科 目 コー ド： 81028      科 目 ナンバ リング： GN60B02E      主 な 使 用 言 語： 日 本 語 | 英 語  
授 業 名 (英 文)： 看 護 学 特 別 研 究 (生 活 支 援 看 護 学) (23-24 用) a (Nursing Research (Life Support  
担 当 者： 大 内 玲

基本情報

年 次： 1      単 位 数： 8      授 業 形 式： 演 習  
曜 時： 2023 年 度 前 期 (月 曜 1 限)、2023 年 度      履 修 可 能 学 科・専 攻： GN  
関 連 資 格：      AL 要 素： 03. 実 験・実 技・体 験

- 04.課題解決
- 07.発表
- 15.レポート指導

**授業の概要:** 既習の学習を踏まえ、急性期看護領域における専門的な知識や技術を深めるために、学生が選択した研究領域から指導教員の指導のもと研究課題を見出し、研究的に取り組み、研究計画立案・実施・分析・論文作成・研究発表などのプロセスを習得する

本実習の概要は以下の通りである。

- 1) 指導教員との相談のもと、研究テーマの探索、研究方法の計画と試行につながる実践経験を検討する。
- 2) 研究を遂行するための計画を学生自ら立案する。  
学生の問題意識や課題に基づいて、具体的に計画する。  
(研究課題の明確化、データ収集方法の試行など)
- 3) 実施計画に基づいて、研究実施・データ分析・修士論文の作成に取り組む
- 4) 上記のプロセスを通して、研究の方法、実現可能性、意義などについても考察する。
- 5) 適宜、進行に合わせた課題に対して面談を行い、個別にメールまたは面談(直接またはオンライン)にてフィードバックをする

**キーワード:** 集中治療、クリティカルケア、急性期、周手術、救命救急等

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- 1) 指導教員との相談のもと、研究テーマの探索、研究方法の計画と試行につながる実践経験を検討できる。
  - 2) 研究を遂行するための具体的な研究計画を学生自ら立案できる。  
(研究課題の明確化、データ収集方法の試行など)
  - 3) 実施計画に基づいて、研究実施・データ分析・修士論文を作成できる

**評価方法:** 1.修士論文審査

**評価割合: 50%**

2.最終試験

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- 1) 研究の方法、実現可能性、意義などについても考察できる。
  - 2) 研究データに関して、学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる

**評価方法:** 1.修士論文審査

**評価割合: 50%**

2.最終試験

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等が修士論文の記述内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし研究活動の実践により深められた知見等が社会に貢献する資質を有することが、修士論文内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、研究が対象に十分な倫理的配慮を書いていた場合公正なデータ収集・分析が行われなかった場合、また発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので

注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1年次4月～ 【研究遂行のための準備・研究計画・倫理審査・研究実施等】  
2年次6月 【中間発表会】  
2年次7月～1月 【修士論文作成】  
2年次1月 【修士論文提出】  
2年次2月 【修士論文審査・最終試験】  
2年次3月 【学位論文発表会】

使用テキスト： 適宜、指示する。

予習・復習のポイントと 参考

参考文献・資料等：

- ・佐藤雅昭:なぜあなたの研究は進まないのか?、メディカルレビュー社
  - ・新谷歩:今日から使えると医療統計、医学書院
  - ・神田善伸:初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZRで誰でも簡単統計解析、南江堂
  - ・EZR<http://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>
  - ・野口善令:はじめてのメタアナリシス～お金をかけなくてもできる臨床研究入門～、認定NPO法人 健康医療評価研究機構
- 日々、研究論文に触れる機会を作り、研究手法、統計手法について学習を深めること。

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：81028

科目ナンバリング：GN60B02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：看護学特別研究(生活支援看護学)(23-24用)b(Nursing Research (Life Support

担当者：前田 和子

基本情報

年次：1

単位数：8

授業形式：演習

曜時：2023年度 前期(月曜1限)、2023年度

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07.発表

11.討論

15.レポート指導

17.発問と回答

授業の概要：

領域で関心のあるテーマに沿って文献レビューを行い、研究課題を探求し、計画に基づいた研究の実施・分析・論文の作成、発表を行い研究におけるプロセスを習得する。

本科目の概要は以下の通りである。

- 1) 指導教員との相談のもと、研究テーマの探索、研究方法の計画と試行につながる実践経験を検討する。
- 2) 研究を遂行するための計画を学生自ら立案する。  
学生の問題意識や課題に基づいて、具体的に計画する。  
(研究課題の明確化、データ収集方法の試行など)
- 3) 実施計画に基づいて、研究実施・データ分析・修士論文の作成に取り組む。
- 4) 上記のプロセスを通して、研究の方法、実現可能性、意義などについても考察する。



5) 適宜、進行に合わせた課題に対して面談を行い、個別にメールまたは面談でフィードバックをする。

**キーワード：** 看護研究, 生活支援看護学, 地域・在宅看護学

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1) 指導教員との相談のもと、研究テーマの探索、研究方法の計画と試行につながる実践経験を検討できる。  
2) 研究を遂行するための具体的な研究計画を学生自ら立案できる。（研究課題の明確化、データ収集方法の試行など）  
3) 実施計画に基づいて、研究実施・データ分析・修士論文を作成できる。

**評価方法：** プレゼンテーション  
レポート  
研究計画書

**評価割合：30%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 1) 研究の方法、実現可能性、意義などについて考察できる。  
2) 研究データに関して、学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** レポート  
修士論文  
発表  
発表資料

**評価割合：60%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

**評価割合：10%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし研究活動の実践により深められた知見等が社会に貢献する資質を有することが、修士論文内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、研究に公正性・倫理的配慮を欠く場合、また発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、注意の対象となる。

**評価割合：0%**

#### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。<br>**

**授業計画：** 1年次  
4～8月 研究関心の検討、先行研究の検討  
9月 研究計画書、倫理申請書の作成  
10月 倫理審査、研究計画書の修正  
12～3月 調査、分析  
2年次  
4月 調査の中間まとめ  
5月 中間発表資料作成

6月	中間発表
7～9月	調査、分析、考察
10～12月	論文執筆
1月	論文提出、審査
2月	発表

**使用テキスト：** 適宜提示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 自らの研究計画立案・実施につながるよう、生活支援看護学関連の科目はもちろん、看護学研究法特論および看護理論、看護倫理などの科目における基礎的知識を復習する。参考文献・資料等については、内容に応じて教員に相談することが可能である。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をすること。

**授業時間外の連絡手段：** 指導が必要な場合、相談のある場合については、予めメール等で連絡する。

**留意事項：** 特になし。

**科目コード：** 81029      **科目ナンバリング：** GN60C01E      **主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 課題研究 a (Research of Chronic Liiness Nursing a)

**担当者：** 浅野 均

#### 基本情報

**年次：** 2

**単位数：** 2

**授業形式：** 演習

**曜時：** 前期(土曜7限)、後期(土曜7限)

**履修可能学科・専攻：** GN

**関連資格：**

**AL要素：** 03.実験・実技・体験  
07.発表  
11.討論  
15.レポート指導

**授業の概要：** 慢性疾患をもつ人々のQOLの向上に資するために、専門科目で習得した理論を基盤にして慢性疾患看護学領域における専門的な知識や技術を深めるための研究課題について、学生の関心分野の課題を焦点化していく。その課題の論理的な根拠について文献検討などのクリティークを十分にいき、研究方法を選択して専門看護師の視点を明確にしながら進めていく。

**キーワード：** 慢性疾患 専門看護師 実践的看護課題

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 慢性疾患看護学領域における専門的な知識や技術を深めるために、学生が選択した研究領域から指導教員の指導のもとに研究課題を決定、計画を立案し、研究成果を課題論文として作成する。

**評価方法：** 研究計画書  
研究論文

**評価割合：** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 慢性看護学実習やこれまでの看護現場で遭遇した内容について、看護実践における課題を見出し、文献検討を基に自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的かつ研究方法を踏まえ研究を遂行する。また、研究方法の選択や論文作成においては、専門看護師の視点を明確化し、論理的な論文を作成する。

**評価方法：** 研究論文  
最終試験

**評価割合：** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等が論文の記述内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

#### 授業計画：【研究課題の決定】

1年次より研究遂行のための準備を計画的に行う。

・研究計画書の作成

・研究の内容に応じて、必要時、研究倫理審査を受ける。

2年次6月 【中間発表会】

2年次7月～1月【課題論文作成】

2年次1月 【課題論文提出・審査】

2年次2月 【最終審査】

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 主体性を持ち、自身が学ぶべき計画を遂行できるよう事前・事後学習を行うことを勧める。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

留意事項： 慢性看護CNSコースの学生は、必ず履修する。

---

科目コード：81029

科目ナンバリング：GN60C01E

主な使用言語：日本語|英語

授業名(英文)：課題研究 b(Research of Chronic Liiness Nursing b)

担当者：大内 玲

#### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：前期(土曜7限)、後期(土曜7限)

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験

07.発表

11.討論

15.レポート指導

授業の概要： 重症疾患をもつ人々のQOLの向上に資するために、専門科目で習得した理論を基盤にしてクリティカルケア看護学領域における専門的な知識や技術を深めるための研究課題について、学生の関心分野の課題を焦点化していく。その課題の論理的な根拠、概念枠組み、文献検討などのクリティークを十分に行い、研究方法を選択して専門看護師の視点を明確にししながら、実習と密接な関係を有する、より実践的な課題を研究する。

**キーワード：** クリティカルケア、専門看護師、実践的看護課題

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** クリティカルケア看護学領域における専門的な知識や技術を深めるために、学生が選択した研究領域から指導教員の指導のもとに研究課題を決定、計画を立案し、研究成果を課題論文として作成する。

**評価方法：** 課題論文審査

**評価割合：** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** クリティカルケア看護学実習やこれまでの看護現場で遭遇した内容について、看護実践における課題を見出し、文献検討を基に自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的かつ研究方法を踏まえ研究を遂行する。また、研究方法の選択や論文作成においては、専門看護師の視点を明確化し、論理的な論文を作成する。

**評価方法：** 最終試験

**評価割合：** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。研究での研究計画書は大学の倫理審査で承認された内容とする。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

## 授業計画： 【研究課題の決定】

\*2年次前期から後期にかけて行う「クリティカルケア看護学実習」との関連を考慮して、より実践的な課題を研究する。

1年次より研究遂行のための準備を計画的に行う

- ・研究計画書の作成
- ・必要に応じて倫理審査申請書類の作成

【中間発表会】 2年次6月

【課題論文作成】 2年次7月～1月

【課題論文提出】 2年次1月

【課題論文審査・最終審査】

【学位論文発表会】 2年次2月

**使用テキスト：** 特になし

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 主体性を持ち、自身が学ぶべき計画を遂行できるよう事前・事後学習を行うことを勧める。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項：** クリティカルケア 看護CNSコースの学生は、必ず履修する。

科目コード：81031

科目ナンバリング：GN51C04K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：発達支援看護学特論I(Advanced Child Healthcare and NursingI)

担当者：白木 裕子、龜山 千里

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：教職

AL要素：07発表

11討論

17発問と回答

**授業の概要：** 子どもを取り巻く社会問題や小児医療の諸問題から、子どもと家族の置かれている状況を深く理解し、またこれらの対象の発達をより促進し、質の高い生活を提供するための看護のあり方について、理論的に検討する。

**キーワード：** 発達支援看護・看護理論

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 健康問題をもち生活している小児や人々を対象とし、生活の質を向上させるための方略を身体的・心理的・社会的な観点から、理論的に考察し理解することができる。

**評価方法：** レポートほか

**評価割合：** 30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ささまざまな発達段階と健康段階にある小児や人々の発達をより促進するための諸理論を学び、より専門的な小児看護の実践に向けて探求することができる。

**評価方法：** レポートほか

**評価割合：** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

テーマへの討議に対して、主体的に取り組むことを望む。

**評価割合：** 20%

##### ▼実践的ボランティア

直接の評価対象にはしない。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第01回・第02回】小児を取り巻く状況と医療の現況、問題、課題  
【第03回・第04回】同上  
【第05回・第06回】倫理的問題、ソーシャルサポート  
【第07回・第08回】発達支援を必要とする小児や人々のアセスメントと介入  
【第09回・第10回】急性期・周手術期、慢性状態にある小児や人々のアセスメントと介入  
【第11回・第12回】周産期から新生児期に問題をもつ小児と家族のアセスメントと介入  
【第13回・第14回】同上

【第15回】小児を取り巻く社会福祉制度や政策

使用テキスト： 適宜、指示する。

予習・復習のポイントと 予習および参考文献・資料等については適宜、指示する。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 指導が必要な場合、相談のある場合については、予めメール等で連絡する。

留意事項： 特になし

---

科目コード：81032          科目ナンバリング：GN52C04K          主な使用言語：日本語

授業名(英文)：発達支援看護学特論II(Advanced Child Healthcare and NursingII)

担当者：真崎 由香、白木 裕子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜3限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07. 発表  
15. レポート指導  
17. 発問と回答

授業の概要： 発達支援看護学特論 I で取り組んだテーマや、自己の臨床看護経験における事例について、発達理論をはじめとする子どもや家族に関する理論・モデルなどをもとに、子どもと家族を支援する看護のありかたについて検討する。またこれらの学びを研究につなげ応用できることを目指す。またこれらの学びを促すために、自身の実務経験を踏まえ、現場の実践に裏づけられた内容の講義を行う。

キーワード： 小児 成長発達 家族 発達理論 セルフケア理論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 発達支援を必要とする人々とその家族の健康問題および理論的に解決していくための援助方法を説明できる。

評価方法： レポート

評価割合：20%

プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合：80%

プレゼンテーション

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

▼ **その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 ガイダンス  
第2・3回 事例のプレゼンテーション エリクソンの発達理論  
第4・5回 事例検討 家族のアセスメントモデル  
第6・7回 事例検討  
第8・9回 クリティカルリーディング①  
第10・11回 クリティカルリーディング②  
第12・13回 事例のプレゼンテーション②  
第14・15回 研究デザインのプレゼンテーション

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

**予習・復習のポイントと** ・授業前は、そのテーマのわからない用語を調べる(90分)。

**参考文献・資料等:** ・授業後は、テーマの関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 発達支援看護学領域の学生は原則として履修する。

---

**科目コード:** 81035      **科目ナンバリング:** GN51C05E      **主な使用言語:** 日本語  
**授業名(英文):** 発達支援看護学演習I(Advanced Maternal and Child Health Nursing PracticeI)  
**担当者:** 白木 裕子、真崎 由香

**基本情報**

**年次:** 1      **単位数:** 2      **授業形式:** 演習  
**曜時:** 土曜5限      **履修可能学科・専攻:** GN  
**関連資格:**      **AL要素:** 07. 発表  
15. レポート指導  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 発達支援看護学特論 I で取り組んだテーマや、自己の臨床看護経験における事例について、発達理論をはじめとする子どもや家族に関する理論・モデルなどをもとに、子どもと家族を支援する看護のありかたについて検討する。またこれらの学びを研究につなげ応用できることを目指す。またこれらの学びを促すために、自身の実務経験を踏まえ、現場の実践に裏づけられた内容の講義を行う。

**キーワード:** 小児 成長発達 家族 発達理論 セルフケア理論

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 発達支援を必要とする人々とその家族の健康問題および理論的に解決していくための援助方法を説明できる。

**評価方法:** レポート      **評価割合:** 20%  
プレゼンテーション

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

**評価方法:** レポート

プレゼンテーション

**評価割合:** 80%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 ガイダンス  
第2・3回 事例のプレゼンテーション エリクソンの発達理論  
第4・5回 事例検討 家族のアセスメントモデル  
第6・7回 事例検討  
第8・9回 クリティカルリーディング①  
第10・11回 クリティカルリーディング②  
第12・13回 事例のプレゼンテーション②  
第14・15回 研究デザインのプレゼンテーション

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

**予習・復習のポイントと** ・授業前は、そのテーマのわからない用語を調べる(90分)。

**参考文献・資料等:** ・授業後は、テーマの関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 発達支援看護学領域の学生は原則として履修する。

---

**科目コード:** 81036

**科目ナンバリング:** GN52C05E

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 発達支援看護学演習II(Advanced Maternal and Child Health Nursing PracticeII)

**担当者:** 渋谷 えみ、島田 智織、小野 加奈子

### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 月曜4限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 07発表

10資料調査課題



**授業の概要:** 母性看護領域の健康課題を科学的に解決する方法としてEvidence-based Nursingのステップを理解し、ペリネイタルケアあるいはウィメンズヘルスケアに関して蓄積されたエビデンスについて学ぶ。また、母性看護に関する研究課題とその背景、および研究方法について学習し、その知見の看護実践への適用について討議する中で、自らの研究課題を多角的に探求し、明確化できる能力を養う。

Evidence-based Nursingのステップおよび母性看護領域で用いられる研究方法について講義する。学生の関心分野に沿って文献の精読やクリティークを行い、討議を通して研究課題の理解や焦点化を深める。

**キーワード:** ペリネイタルケア、ウィメンズヘルスケア、

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 女性と子ども、家族の発達と健康に関する課題を科学的に解決し、根拠に基づいた高度な医療・看護を実践するための手法としてEvidence-based Nursingを理解できる。

**評価方法:** 演習  
プレゼン  
レポート

**評価割合:** 20%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 国内外の文献を精読することにより、母性看護における様々な研究課題と研究方法、研究知見の実践への応用方法について理解し、自らの研究課題の設定につなげて学ぶことができる。

**評価方法:** 演習  
プレゼン  
レポート

**評価割合:** 60%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、テーマに基づく知見を深め、研究の基盤となるよう主体的に学習に取り組むことができる。

**評価割合:** 20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的な内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

### 授業計画:

- 【第01・02回】 Evidence-based Nursing(EBN)と母性看護, 看護研究論文の読み方
- 【第03・04回】 ペリネイタルケアに関する研究課題と研究方法の理解(質的研究)
- 【第05・06回】 ペリネイタルケアに関する研究課題と研究方法の理解(量的研究)
- 【第07・08回】 ウィメンズヘルスケアに関する研究課題と研究方法の理解(質的研究)

- 【第09・10回】 ウィメンズヘルスケアに関する研究課題と研究方法の理解(量的研究)
- 【第11・12回】 シークエンス分析:人間の関係性や活動を質的に分析する (島田)
- 【第13・14回】 研究課題設定と研究方法の妥当性:演習
- 【第15回】 まとめ

使用テキスト: 適宜提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 自身の興味関心のある研究テーマから先行研究に日頃からしていること目を通し、精通していることを期待しています。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 81037      科目ナンバリング: GN60B03E      主な使用言語: 日本語  
 授業名(英文): 看護学特別研究(発達支援看護学) (23-24用) (Nursing Research (Maternal and C  
 担当者: 白木 裕子

#### 基本情報

年次: 1	単位数: 8	授業形式: 演習
曜時: 2023年度 前期(月曜1限)、2023年度	履修可能学科・専攻: GN	
関連資格:	AL要素: 07発表 11討論 17発問と回答	

授業の概要: 発達支援看護学特論 I、II で考察した内容をふまえて、さらに自己の研究課題に取り組む。関連文献を探索し、内容を読み込むことで、研究の視点を深め、研究計画書を作成する。プレゼンテーションやディスカッションを行うことで自己の研究課題を明確にする。

キーワード: 発達支援看護・小児看護・看護研究

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標: 自ら選択した研究テーマを中心に、発達支援看護学に関連した研究の現況と動向を知り、発達支援の観点から考察を深めることができる。

評価方法: レポートほか      評価割合: 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自己の研究課題を明確にし、研究計画を立案することができる。

評価方法: レポートほか      評価割合: 40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 20%

##### ▼ 実践的ボランティア

・直接の評価対象にはしない。

評価割合: 0%

#### ▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

#### ▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

**授業計画：** 【第01回・第02回】小児と家族の発達支援と看護研究  
【第03回・第04回】文献1 対象の発達に関連した研究  
【第05回・第06回】文献2 同上  
【第07回・第08回】文献3 子どもと家族  
【第09回・第10回】文献4 小児看護学と看護理論  
【第11回・第12回】文献5 同上  
【第13回・第14回】文献6 同上  
【第15回】まとめ

**使用テキスト：** 適宜、指示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 自らの研究計画立案・実施につながるよう、発達支援看護学関連の科目はもちろん、研究方法論特論および看護理論、看護倫理などの科目における基礎的知識を復習する。参考文献・資料等については、内容に応じて教員に相談することが可能である。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること

**授業時間外の連絡手段：** 指導が必要な場合、相談のある場合については、予めメール等で連絡する。

**留意事項：** 特になし。

---

科目コード：81038      科目ナンバリング：GN50C18K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：精神保健学特論(Advanced Mental Health Studies)

担当者：栗原 加代、三ヶ木 聡子

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：7発表

10資料調査課題

11討論

13役割演技と疑似体験

14輪読活動

15レポート指導

**授業の概要：** 精神看護の基盤となる対象理解に関する諸理論を基盤におき、対象や現象の理解と介入方法の実際について、自己の介入方法を考察しプレゼンテーションを行なう。その後参加者間でディスカッションを加え、対象を理解する視点について検討する。

**キーワード：** リエゾン精神看護の機能と役割と現状を理解し、対人関係理論、セルフケアモデル、障害受容モデル、危機理論、精神科地域包括医療支援

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 1 精神看護の基盤となる対象理解に関する諸理論、特に、精神力動論に基づいて自我機能と

防衛機制について理解を深め人間の心理と行動の関連性を探求する。  
2 リエゾン精神看護の機能と役割と現状を理解し、対人関係理論、セルフケアモデル、障害受容モデル、危機理論を学ぶ。

**評価方法:** レポート  
          討論  
**評価割合:** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 1 対象や現象の理解と介入方法を学ぶ。  
          2 対象を理解する上で、多面的、分析的、包括的に理解する視点を養う。  
          3 地域における包括的な精神的ケアの介入の実際にはを学ぶ。

**評価方法:** レポート  
          討論  
          発表  
**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題への取り組み方、ゼミでの討論、発表態度について評価する。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

ゼミの中での倫理的な課題における討論内容を、思考力・判断力・表現力の評価対象に含めることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

課題に対して、自分の意見をまとめて積極的な発言を期待する。

**評価割合:** 課題に対して、自分の意見をまとめ

**授業計画:** 【第01回】 精神力動論(栗原)  
          【第02回】 防衛機制 (栗原)  
          【第03回】 対人関係理論(栗原)  
          【第04回】 セルフケアモデル(栗原)  
          【第05回】 障害受容モデル(栗原)  
          【第06回】 危機理論、心身相関(栗原)  
          【第07回】 リエゾン精神看護(栗原)  
          【第08回】 リエゾン精神医学の歴史の変遷(栗原)  
          【第09回】 精神科地域包括ケアにおける看護の機能と役割 1(三ヶ木)  
          【第10回】 精神科地域包括ケアにおける看護の機能と役割 2(三ヶ木)  
          【第11回】 現象の理解と介入方法の実際1(三ヶ木)  
          【第12回】 現象の理解と介入方法の実際2(三ヶ木)  
          【第13回】 現象の理解と介入方法の実際3(三ヶ木)  
          【第14回】 現象の理解と介入方法の実際4(三ヶ木)  
          【第15回】 プレゼンテーション・まとめ(栗原)  
          プレゼンテーション

**使用テキスト:** 講義、ゼミにて適宜指示する。

**予習・復習のポイントと** 理論に関係する、文献・著書等を読んでおくこと。  
**参考文献・資料等:**

**障がいのある** 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。  
**履修者への対応:**

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーで対応。

**留意事項:** 自分の意見を積極的に述べることを期待する。

科目コード : 81039

科目ナンバリング : GN50C19K

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 臨床精神看護学特論(Advanced Psychiatric Nursing)

担当者 : 栗原 加代、山川 百合子

#### 基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 土曜6限

履修可能学科・専攻 : GN

関連資格 : 教職

AL要素 : 07発表

10資料調査課題

11討論

13役割演技

と疑似体験

14輪読活動

15レポート指導

**授業の概要 :** 精神保健福祉看護の領域における今日的課題について概説し、わが国における実践および研究の課題について探求する。授業形態は講義と演習を組み合わせた授業となる。

**キーワード :** 精神疾患 心因性 外因性 内因性 精神医療の歴史 精神症状のアセスメント 薬物治療 アドヴォカシー

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

- 到達目標 :**
- 1 人間の精神の複雑な構造と機能を理解するための基礎理論、治療の中心となる抗精神病薬の作用メカニズムと看護を学ぶ。
  - 2 生物的・心理的・社会的存在としての精神疾患患者を的確にアセスメントし介入できるように、看護職者と医師側がもつ多角的な視点を学ぶ。
  - 3 精神医療、看護の歴史的変遷を学び現在の精神医療、看護の課題を記述できる。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 : 50%**

討論

プレゼンテーション

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標 :**
- 1 精神的な問題を抱える対象者とその家族の特徴、ケア提供者自身の対象関係のあり方を学び、倫理的感受性を養う。
  - 2 当該領域の専門的ケアに必要とされる医学的知識に関して、実践の場で出会う主な疾患の診断とその治療法を理解する。
  - 3 多彩な精神症状を呈する対象者のアセスメントと専門的なケアを提供できる方法を修得する。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 : 50%**

討論

プレゼンテーション

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題の成果、討論への参加態度を思考力・判断力・表現力の評価に含む。

**評価割合 : 0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的に評価はしない。

評価割合：0%

#### ▼公正性

課題の成果、討論のなかでの発言等は思考力・判断力・表現力の評価に含むことがある。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第01・02回】 精神科看護領域の歴史の変遷と課題（栗原）  
【第03・04回】 対象者・家族・ケア提供者自身の理解 場面の再構成（栗原）  
【第05・06回】 精神保健福祉の歴史の変遷（山川）  
【第07・08回】 評価尺度を用いた主な疾患の診断方法（山川）  
【第09・10回】 主な疾患の診断とその治療法（山川）  
【第11・12回】 症状アセスメントとケア（栗原）  
【第13・14回】 精神的看護介入の動向 認知行動療法他（栗原）  
【第15回】 まとめ・プレゼンテーション（栗原）

使用テキスト： 講義・ゼミ時に適宜指示する。

予習・復習のポイントと 積極的に討論に参加して、自分の意見を述べること。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：81040      科目ナンバリング：GN50C20E      主な使用言語：日本語  
授業名(英文)：精神看護学演習(Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing Practice)  
担当者：栗原 加代

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07発表

10資料調査課題

11討論

13役割演技

と疑似体験

14輪読活動

15レポート指導

授業の概要： 文献講読とディスカッションを通して精神看護学領域の研究の現況や課題、研究知見の実践への応用方法を探究する。

キーワード： 文献検討    ディスカッション    クリエイティブ

学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

- 到達目標:** 1 精神科救急医療や地域ケアの実践の場にも触れながら、精神的問題をもつ人々を支援するために必要な対象アセスメントやケアの学びを深める。学生間の討議の過程の中で、自らの研究課題の明確化に取り組む。
- 2 国内外の文献を精読し、精神看護領域における、看護モデル適用の現状、精神保健福祉看護の領域における今日的課題、特に、退院促進・地域ケア、精神科救急医療に関する日本の現状の課題等を多角的に探求する

**評価方法:** レポート  
討論  
文献クリティーク

**評価割合: 50%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 1 精神看護領域における悲嘆やうつ病患者への介入の現状を学習する。
- 2 看護介入を行うために必要なアセスメント能力を高めるために、演習も計画する。
- 3 プレゼンテーションやレポートを通して研究課題の設定に反映させる。

**評価方法:** レポート  
討論  
文献クリティーク

**評価割合: 50%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題、討論、ロールプレイング等の参加態度は、思考力・判断力・表現力の評価対象に含めることがある。

**評価割合: 0%**

#### ▼実践的ボランティア

直截的な評価対象にはしない。

**評価割合: 0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象にはしない。レポートや、課題の中で倫理性に対し問題となる発言や記述によっては知識・技能の評価対象にすることがある。

**評価割合: 0%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合: 特になし。**

- 授業計画:** 【第01・02回】 研究の動向、文献講読
- 【第03・04回】 アセスメント演習計画 文献講読
- 【第05・06回】 対人関係論と家族関係に関するアセスメント
- 【第07・08回】 うつ病患者、薬物依存症の回復、自殺予防等のメンタルヘルスケアの実際
- 【第09・10回】 精神急性期看護と対象アセスメントの実際
- 【第11・12回】 当事者活動、精神障がい者地域ケア、精神科訪問看護
- 【第13・14回】 文献講読、まとめ
- 【第15回】 プレゼンテーション

**使用テキスト:** ゼミにて適宜指示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 精神看護学に関する、論文、著書をなるべく多く読んでおくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーで対応する。

**留意事項:** 特になし。

---

科目コード: 81041

科目ナンバリング: GN60B04E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 看護学特別研究(精神看護学) (23-24用) (Nursing Research (Psychiatric and men

担当者：栗原 加代

## 基本情報

年次：1

単位数：8

授業形式：演習

曜時：2023年度 前期(月曜1限)、2023年度

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07発表

10資料調査課題

11討論

13役割演技と疑似体験

14輪読活動

15レポート指導

## 授業の概要：

学生が選択した研究領域の中から、指導教員の指導のもとに決定した研究課題について、研究計画を立案し、その計画に従い研究を実施し、研究結果を修士論文として作成する。

キーワード：精神看護学 精神保健 メンタルケア ターミナルケア ストレス バーンアウト 感情労働 自殺

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. 精神看護を実践する場では会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行なうためのアセスメントの方法、使用可能な評価方法および尺度を選定、実施し対象の理解を深め研究課題につなげるための指導を行なう。  
2. 精神保健福祉・看護の領域における今日的課題、特に退院促進・地域ケア、精神科救急医療に関する日本の現状の課題について理解し、その解決策を探求するための指導を行なう。

**評価方法：** 課題レポート

**評価割合：** 30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 1 精神看護学領域における看護モデル及びコンサルテーションモデルの適用の現状を理解し、実践の質向上のために必要な研究 テーマ及び研究方法について探求し、実施するための研究指導を行なう。  
2 テーマにそって、研究を実施し修士論文を作成してする。  
3 作成した修士論文を、プレゼンテーションする。

**評価方法：** 修士論文

**評価割合：** 70%

プレゼンテーション

### ▼学修に主体的に取り組む態度

修士論文作成過程での取り組む姿勢・積極性について総合的に判断する。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的には評価の対象としない。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

倫理審査提出時の取り組み方について、知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。



授業計画：	1年次4月～9月	<研究計画の立案>
	1年次 10月～11月	<倫理審査>
	1年次12月～2年次 10月	<研究の遂行>
	2年次6月	<中間発表会>
	2年次11月～1月	<修士論文の作成>
	2年次1月	<修士論文の提出>
	2年次1～2月	<修士論文審査・最終試験>
	2年次2月	<研究発表会>

評価の方法及び観点  
提出された論文及びプレゼンテーションにより総合的に評価する

使用テキスト：ゼミのなかで適宜支持する。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 1 自分の関心領域の、論文を読みリストにしておく。  
2 リストにした論文のサマリーを作成し、クリティークにつなげられるように準備しておくこと。

障がいのある  
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 多くの論文を読んでおく。  
積極的に、論文作成に取り組むこと。

科目コード：81042      科目ナンバリング：GN50C07K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：マネジメント特論

担当者：申 美花

#### 基本情報

年次：1      単位数：2      授業形式：講義  
曜時：木曜6限      履修可能学科・専攻：GN  
関連資格：      AL要素：05,07,08,11,12

授業の概要：企業が経営管理を行う目的とその具体的な内容と方法について、基本的な理論と管理全般の様々な課題に対する応用手法など企業事例を交えながら、講義とディスカッションによって学習する。教員の企業における管理部門での実務経験も併せて理解を深める。

キーワード：マネジメント、ケースメソッド、企業経営、組織と人材

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：経営管理論(マネジメント論)の基本的知識の習得と企業経営の現場における豊富な成功事例を学び、目的達成のための方法を理解する。

評価方法：理解力、応用力      評価割合：30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：関連なディスカッションとケースメソッドを中心とした授業により、実践的な応用力を養う。

評価方法：発言内容、質疑応答、提案内容      評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

問題意識を持って授業に臨むとともに、主体性、積極性、姿勢を評価する。

評価割合：30%

### ▼実践的ボランティア

とくに直接的な評価にはしない

評価割合：0%

### ▼公正性

とくに直接的な評価にはしない

評価割合：0%

### ▼その他

ケースを用いた授業においては事前にケースを熟読し、設問について考えておく

評価割合：ケースを用いた授業においては事

- 授業計画：**
- 第01回 授業ガイダンス「マネジメントと企業経営」
  - 第02回 マネジメントの経営戦略とマネジメント体系、戦略とマネジメント
  - 第03回 P. ドラッカーの「マネジメント」
  - 第04回 ケースメソッド① トリンプ・インターナショナル・株式会社
  - 第05回 事業戦略とビジネスモデルに関する講義
  - 第06回 ケースメソッド② セブンイレブン株式会社
  - 第07回 マーケティング論に関する講義と事例
  - 第08回 ケースメソッド③ コンビニ、テーマパークなど
  - 第09回 ホスピタリティマネジメント
  - 第10回 ケースメソッド④ 宿泊業、飲食業のサービス
  - 第11回 ホスピタリティマネジメント ⑤聖路加国際病院
  - 第12回 ホスピタリティマネジメント ⑥聖路加国際病院
  - 第13回 ホスピタリティマネジメント ⑦青梅慶友病院
  - 第14回 病院のマネジメント改革について
  - 第15回 まとめ

**使用テキスト：** 授業で教材を配布

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ケースを用いた授業においては事前にケースを熟読し、設問について考えておく

**障がいのある履修者への対応：** 個人の状況に応じて前向きに対応します

**授業時間外の連絡手段：** 研究室への訪問、メール shinmeehwa@icc.ac.jp

**留意事項：** 企業経営における様々なマネジメント事例を学び、看護の現場で役立つ実践的な授業とします。自由に発言できる場を設けながら、相互理解を深めますので、互いに尊重し、貢献する姿勢を重視します。

---

---

科目コード：81043

科目ナンバリング：GN51C02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活支援看護学特論I

担当者：原島 利恵

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

**授業の概要：**【特例期間中の授業形態】 課題研究型

成人期の発達課題と健康問題を理解し、生活支援の視点から成人の健康について学習するとともに、様々な健康問題をアセスメントし、生活機能障害を捉える方法を学ぶ。また、我が国における成人看護学領域及び研究における現状と課題についてディスカッションする。

**キーワード：** 成人期、生活支援、看護における概念、看護における理論

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 我が国の成人の健康に関する今日的課題を概観し、成人看護学領域の実践および研究の現状と課題について理解する。また、成人期にあり、様々な健康問題を抱えて看護支援を必要とする人と家族の生活機能障害の状況を把握し、生活の視点から援助、支援するために役立つ諸理論について学習する。

**評価方法：** 課題レポート

**評価割合：** 40%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 成人期における生活支援に関する看護の先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行い、実践事例を用い、まとめた資料を基にプレゼンテーションを行い、議論することにより考察できる。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

特になし

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
- 【第01回】オリエンテーション
  - 【第02・03回】成人期にある人々の健康とは  
成人を取り巻くわが国の現状と課題  
健康状態と「生活行動」の関係
  - 【第04・05回】成人期にある人々と家族の健康問題  
成人保健と今日の健康動向  
保健・医療・福祉政策と健康課題
  - 【第06・07回】成人期にある人々と家族の看護ケアに役立つ概念・理論：  
危機、ストレスコーピング、自己決定、行動変容、成人学習  
生活機能障害、セルフケア、セルフマネジメント
  - 【第08・09回】前講の概念・理論を用いた事例展開
  - 【第10・11回】成人期にある人々と家族への看護ケアの質評価
  - 【第12・13回】成人看護を充実させる実践的環境  
人権擁護と倫理的問題、専門職間の連携と協働  
医療の質保証とリスクマネジメント
  - 【第14・15回】成人看護学に関する研究の動向と課題

**使用テキスト：** 適宜提示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 内容の詳細は、学修レディネスにより学生との話し合いの上決定する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:81044      科目ナンバリング:GN52C02K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 生活支援看護学特論II

担当者: 浅野 均

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:土曜6限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 05. 即時応答

07. 発表

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 高齢者に関連する概念や理論をもとに、老年期にある人の価値観や信念に対する理解を深め、様々な視点から老いを捉える。高齢者の身体機能をはじめ、高齢者に多くみられる神経内科疾患をはじめ慢性疾患を抱えた高齢者の看護実践を探究することを目的とする。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。

**キーワード:** 高齢者の身体機能評価 高齢者の健康 サクセスフル・エイジング

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 老いについて看護理論をはじめ、他分野の視点も含め、価値観や信念など様々な視点から老いを捉える。高齢者の健康について、サクセスフル・エイジングの視点を養う。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

プレゼンテーション

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 慢性疾患を抱える高齢者について、神経内科疾患等をもつ方への看護実践への課題をプレゼンテーションする。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

プレゼンテーション

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 【第01回】高齢者の身体機能の評価  
【第02・03回】高齢者のその人らしさについて  
【第04・05回】高齢者の健康と生活、サクセスフル・エイジング  
【第06・07回】高齢者看護における倫理的課題  
【第08・09回】高齢者に多い神経内科疾患(脳血管障害、神経変性疾患)  
【第10・11回】高齢者に多い神経内科疾患(免疫性神経疾患)  
【第12・13回】高齢者の看護実践への課題  
【第14・15回】高齢者看護の発展に向けて

使用テキスト: 必要に応じて、適宜指定する。

予習・復習のポイントと 講義中に適宜紹介する。

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。  
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室等で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。  
遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

留意事項: 主体的な学習姿勢で臨むこと。  
生活支援看護学領域(高齢者看護学)の学生は原則として履修すること。

---

科目コード:81045      科目ナンバリング:GN51C03E      主な使用言語:日本語

授業名(英文):生活支援看護学演習I

担当者:原島 利恵

基本情報

年次:1      単位数:2      授業形式:演習

曜時:火曜1限      履修可能学科・専攻:GN

関連資格:      AL要素:11.討論

授業の概要: 成人期にある人々と家族の包括的なアセスメント方法、支援技術とその評価方法に関する理論と実際について、文献レビューや事例の提示を行いディスカッションで深め、レポートを作成する。

キーワード:生活調整

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 成人期にある人々とその家族を包括的にアセスメントし、具体的アプローチについて検討する。  
また、成人期にある人々とその家族への生活調整・再調整や再構築について理解する。

評価方法: 課題レポート      評価割合:40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 先行研究、実践報告のレビューなどを通して、自己の研究課題や研究方法を探求する。

評価方法: プレゼンテーション      評価割合:30%

▼学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究や実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

評価割合:30%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼公正性

特になし

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 【第01～02回】 オリエンテーション、成人期にある人々と家族の生活支援  
【第03～06回】 成人期にある人々と家族の健康問題と包括的なアセスメント  
【第07～08回】 健康・生活障害をもつ成人期の食生活  
【第09～12回】 成人期にある人々と家族への支援技術  
【第13～14回】 プレゼンテーション：成人期にある人々と家族の生活支援を考える  
【第15回】 まとめ

**使用テキスト：** ○ 上田敏著：KSブックレットNo.5 国際生活機能分類，ICFの理解と活用，きょうされん，2009，東京．ISBN4-89491-096-9  
○ 小澤利男他：高齢者の生活機能評価ガイド

その他適宜提示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** これまでの講義内容を踏まえ、演習に臨むことを勧める。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項：** 生活支援看護学特論(成人)と併せて受講することが望ましい。各自、関心あるテーマを持ち寄って主体的に学ぶことを期待する。

---

科目コード：81046      科目ナンバリング：GN52C03E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活支援看護学演習II

担当者：浅野 均、田中 久美

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜6限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：01.実地訓練  
05.即時応答  
07.発表  
11.討論

**授業の概要：** 高齢期者の健康状態を捉えるための包括的アセスメントを学び、専門的な看護援助を提供するための方法について探究する。文献購読、グループ討議、看護実践の参加等の方法により、高齢者看護学分野で焦点となっている課題などの理解を深め、生活支援を含む看護援助に必要な技術を学修する。学修を進める中で、自らの研究課題を探索する。

**キーワード：** 高齢者の包括的アセスメント その人らしさを支える支援

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 慢性疾患を抱える高齢者の健康状態アセスメント等から、高齢者が持つ「できる力」の視点をも

とに、看護活動に必要な方法論を探求する。

**評価方法:** プレゼンテーション  
課題レポート

**評価割合:** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 文献購読、グループ討議、看護実践の参加等の方法により、高齢者看護学分野で焦点となっている課題などの理解を深め、生活支援を含む看護援助に必要な最新の知識や技術を学び、自らの研究課題を明確にする。

**評価方法:** プレゼンテーション  
課題レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

自らの研究課題を明らかにするための準備学習など、主体的に取り組むことを望む。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【第01回】オリエンテーション／「その人らしさ」とは  
【第02～05回】高齢者看護に関する研究動向  
【第06～09回】高齢者看護に関する論文クリティーク  
【第10～14回】高齢者の包括的アセスメントの実際  
【第15～18回】高齢者の生活と環境調整  
【第19～22回】急性期病院における専門看護師の実際(実習)  
【第23～28回】病院・高齢者施設における高齢者看護に関する課題  
【第29・30回】高齢者看護の発展に向けて

**使用テキスト:** 必要に応じて、適宜指定する。

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:** これまでの講義や演習で学習した内容を整理して主体的に臨んで下さい。

**障がいのある  
履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室等に対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。  
遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

**留意事項:** 高齢者看護学の基本的内容を理解した上で主体的に学ぶこと。  
生活支援看護学領域(高齢者看護学)の学生は原則として履修すること。

---

**科目コード:** 81047

**科目ナンバリング:** GN51C01K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 看護マネジメント特論I

**担当者:** 池袋 昌子

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 火曜1限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格：****AL要素：** 07. 発表  
11. 討論  
14. 輪読活動  
17. 発問と回答**授業の概要：** 【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業（同時双方向型）を含む

一般的なマネジメント、看護サービス管理、看護サービスの質保証と評価・改善、看護サービスの向上を目指した取り組みについて講義する。また、看護マネジメントのナレッジとして、看護管理領域に経営・経済学的手法を用いて多角的な分析方法も講義する。学生は、看護管理実践の一連のプロセスとその思考過程を修得する。

なお、担当教員の「認定看護管理者」の実務経験を活かし、看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床における看護マネジメントの実際を教授する。

**キーワード：** 経営管理論、目標による管理、変革理論、システム論、看護サービス管理、標準化、質保証、看護管理体制、人的資源の育成・活用、タスク・シフト／シェア**学位授与方針との関係****▼ 知識・技能**

**到達目標：** 1. 看護マネジメントにおける意義と特殊性をふまえ、看護管理実践の一連のプロセスとその思考過程を修得することができる。  
2. 看護管理実践を経営・経済学的手法を用いて多角的に分析する手法を修得することができる。  
3. 変革理論やシステム論に基づく組織マネジメントを修得することができる。

**評価方法：** ・課題研究型レポート  
・ディスカッションへの参加度  
・発表  
**評価割合：** 50%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 授業で扱った内容について、看護管理実践・自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** ・課題研究型レポート  
・ディスカッションへの参加度  
・発表  
**評価割合：** 50%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

**▼ 公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

**▼ その他**

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 【第01回】 ガイダンス:看護マネジメント



- 【第02回】 経営管理論の変遷
- 【第03回】 目標による管理
- 【第04回】 変革理論およびシステム論
- 【第05回】 看護サービスの特性
- 【第06回】 看護サービス管理のプロセス
- 【第07回】 看護業務の標準化の手法
- 【第08回】 医療サービスの質保証、評価の歴史
- 【第09回】 看護サービスの質保証
- 【第10回】 看護サービスの質評価の枠組みと項目
- 【第11回】 看護管理体制
- 【第12回】 看護職の位置づけと変遷
- 【第13回】 人的資源の育成・活用
- 【第14回】 タスク・シフト／シェア
- 【第15回】 まとめ

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマに関連する文献を調べる。授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について、自主的な学びを通して知見を深めることが望ましい。

下記の参考文献・資料を推薦する。

1. 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論, 日本看護協会出版会.
2. 井部俊子・秋山智弥(2023):看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理, 日本看護協会出版会.
3. 井部俊子・手島恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論, 日本看護協会出版会.
4. 井部俊子・勝原裕美子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第4巻 組織管理論, 日本看護協会出版会.
5. 井部俊子・金井Pak雅子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第5巻 経営資源管理論, 日本看護協会出版会.
6. 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 別巻 看護管理基本資料集, 日本看護協会出版会.
7. 上泉和子・小山秀夫(2018):看護管理 看護の統合と実践, 医学書院.
8. 看護管理学分野の学会誌等、その他適宜提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項:** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード: 81048      科目ナンバリング: GN52C01K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 看護マネジメント特論II

担当者: 池袋 昌子

#### 基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 07. 発表  
11. 討論  
14. 輪読活動  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)を含む

保健医療福祉分野における看護管理学、経営・経済学の基礎知識を学び、わが国の医療提供体制・医療保険制度のしくみと特殊性を理解する。医療従事者にとって、必須マネジメントである「ヒト・モノ・カネ・情報・時間・システム・ナレッジ」に着目し、医療の質を保証する臨床看護管理学の考え方を修得する。

また、「経済学」の効率性と公平性の論点から、限りある資源を有効に活用するための問題（資源の希少性による経済問題）も概観し、臨床における看護管理実践の課題と向き合い考察する。

なお、担当教員の「認定看護管理者」の実務経験を活かし、看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床における保健・医療・看護経済学の実際を教授する。

**キーワード：** 経営の枠組み、医療福祉経営、財務管理、財務諸表、病院会計準則、財務分析、設備投資、経済性・生産性

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1. 医療福祉における経済、経営、財務管理、経営状況の分析とその活用、看護サービスと経営上の課題について、基礎的な知識と特殊性を修得することができる。  
2. 経営・経済学の視点から看護マネジメントをとらえ、臨床における看護管理実践の課題と向き合い、その思考過程を修得することができる。

**評価方法：** ・レポート

**評価割合：** 50%

- ・ディスカッションへの参加度
- ・発表

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、看護管理実践・自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** ・レポート

**評価割合：** 50%

- ・ディスカッションへの参加度
- ・発表

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 【第01回】 ガイダンス:看護経営・経済論  
【第02回】 経済学の追究するもの  
【第03回】 医療福祉の経済学  
【第04回】 経営の枠組み  
【第05回】 医療福祉の経営の課題

- 【第06回】 財務管理の枠組み
- 【第07回】 簿記
- 【第08回】 財務諸表
- 【第09回】 病院会計準則
- 【第10回】 利益計画と資金計画
- 【第11回】 財務分析
- 【第12回】 財務の視点から見る「在庫管理」
- 【第13回】 設備投資
- 【第14回】 看護における経済性・生産性
- 【第15回】 まとめ

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマに関連する文献を調べる。授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について、自主的な学びを通して知見を深めることが望ましい。

以下の参考文献・資料を推薦する。

1. 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論, 日本看護協会出版会.
2. 井部俊子・秋山智弥(2023):看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理, 日本看護協会出版会.
3. 井部俊子・手島恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論, 日本看護協会出版会.
4. 井部俊子・勝原裕美子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第4巻 組織管理論, 日本看護協会出版会.
5. 井部俊子・金井Pak雅子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第5巻 経営資源管理論, 日本看護協会出版会.
6. 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 別巻 看護管理基本資料集, 日本看護協会出版会.
7. 上泉和子・小山秀夫(2018):看護管理 看護の統合と実践, 医学書院.
8. 看護管理学分野や経営・経済学分野の学会誌等、その他適宜提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項:** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

**科目コード:** 81049      **科目ナンバリング:** GN52C02E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 看護マネジメント演習

**担当者:** 池袋 昌子

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 水曜5限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 07. 発表  
11. 討論  
14. 輪読活動  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)を含む

看護管理学研究の変遷、看護管理者と研究、今後課題となる看護管理学研究について概観する。看護職の職業倫理・研究倫理・医療制度・看護政策・社会的責任をふまえて、量的

研究、質的研究、その両者を用いるミックス法等の研究デザインに必要となる概念枠組みと各研究手法のアプローチを修得する。看護管理学分野の論文についてプレゼンテーションし、参加者によるディスカッションでの論文のクリティークを試みる。

**キーワード：** 看護研究、研究デザイン、研究倫理、研究手法のアプローチ、論文クリティーク

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1. 看護管理学研究の特徴と意義をふまえ、研究倫理・医療制度・看護政策・社会的責任と研究の特殊性を修得することができる。  
2. 看護管理実践と看護政策と研究の相互の関係と思考過程を修得することができる。  
3. 論文をクリティークできる力を養い、自己の研究課題に反映させることができる。

**評価方法：** ・レポート **評価割合：50%**  
・ディスカッションへの参加度  
・発表

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、看護管理実践・自主的な学びを通して得た知見や経験をふまえて論文を考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** ・レポート **評価割合：50%**  
・ディスカッションへの参加度  
・発表

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

**授業計画：** 【第01回】 ガイダンス:看護管理学研究の特徴と意義

【第02回】 看護管理学研究の変遷

【第03回】 研究と倫理

【第04回】 医療制度に影響を与える研究

【第05回】 看護政策に影響を与える研究

【第06回】 研究デザイン

【第07回】 研究手法のアプローチ

【第08回】 量的研究

【第09回】 質的研究

【第10回】 ミックス法

【第11回】 論文クリティーク 1

【第12回】 論文クリティーク 2

【第13回】 論文クリティーク 3

【第14回】論文クリティーク 4

【第15回】まとめ

**使用テキスト:** 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 「看護学研究法特論」での学修をふまえて履修する。  
授業前には、その回のテーマに関連する論文を検索する。  
授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について、自主的な学びを通して知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回到連絡する。

**留意事項:** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

---

---

科目コード: 81050      科目ナンバリング: GN51C02K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 看護教育学特論I

担当者: 松永 恵

#### 基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜6限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 07発表

10資料調査課題

11討論

**授業の概要:** この授業では、看護教育学を理解する上で必要な概念について教育者の視点で捉える。テキストを引用文献と照らし合わせながら読み、筆者の主張の根拠となるものも含め、深く理解する。  
同時に、筆者から得た学びをもとに、これまで学修者が経験してきた教育場면을構造化し、対象の思考や意欲の変化を促すために有効な支援を考える。

**キーワード:** 看護、教育、歴史、アイデンティティ、リフレクション、クリティカルシンキング、行動主義、認知主義、構成主義、状況主義、カリキュラム、評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 1 看護教育における教育制度や基本的な概念を説明できる

**評価方法:** 資料調査報告

**評価割合:** 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 1 看護の場で実践される教育場면을、学んだ概念や理論を用いて分析できる

**評価方法:** 討論10%

**評価割合:** 50%

最終レポート50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

大学院では主体的に取り組む以外ないので、評価対象としない。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：【第1回】看護教育学とは何か  
【第2回】専門職としての看護  
【第3回】看護教育制度の歴史の変遷  
【第4回】看護教育制度の現状  
【第5回】看護学教育の基盤①アイデンティティ  
【第6回】看護学教育の基盤②クリティカルシンキング  
【第7回】看護学教育の基盤③リフレクション  
【第8回】看護学教育の基盤④キャリアマネジメント  
【第9回】学習理論①行動主義  
【第10回】学習理論②認知主義・構成主義  
【第11回】学習理論③状況主義  
【第12回】カリキュラム開発  
【第13回】カリキュラムデザインと評価  
【第14回】臨地実習における教育と学習 経験型実習教育とは  
【第15回】教育評価

使用テキスト： グレグ美鈴・池西悦子：看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 改訂第2版，南江堂，2018  
各自購入し、第1回の授業に臨んでください。

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等： 1 テキストの内容のみならず、引用されている文献(最低1論文)を読み、テキストの内容を深く説明できるよう、資料を収集し、読み込む。  
2 他の受講生や教員が理解しやすいよう発表に向けて準備する。  
3 2のために、レジュメを用意する。

【復習】

1 わかりづらかった概念について、再度テキストや引用文献を調べ、理解する。  
2 1でもわからなかったことは明示しておく。

【参考資料】

テキストに引用されたすべての文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 受講生にはメールアドレスを知らせます。メールにご連絡ください。

留意事項： ○ 引用文献に触れながらテキストの筆者の主張を理解するため、引用文献を早めに取り寄せておく。  
○ 受講者のレディネスによって、内容を一部変更することがある。

---

科目コード：81051

科目ナンバリング：GN52C03K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：看護教育学特論II

担当者：松永 恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜6限

履修可能学科・専攻：GN

**関連資格：**

**AL要素：** 07発表

10資料調査課題

11討論

**授業の概要：** この授業では、看護教育学を理解する上で必要な概念について学習者の視点で捉える。テキストを引用文献と照らし合わせながら読み、筆者の主張の根拠となるものも含め、深く理解する。  
同時に、筆者から得た学びを活かし、学習者の思考を推察する。後半ではこれまで学修者が経験してきた教育場면을学習者の視点で構造化し、学習者の思考や意欲の変化を促すために有効な支援を考える。

**キーワード：** 看護、教育、制度、実習教育、臨地実習、学習方法、体験

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 1 看護教育におけるカリキュラムや学習理論を説明できる

**評価方法：** 資料調査報告

**評価割合：** 40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 1 看護の場で実践される教育場면을、学んだ概念や理論を用いて、学習者の視点で分析できる

**評価方法：** 討論10%

**評価割合：** 50%

最終レポート50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

大学院では主体的に取り組む以外ないので、評価対象としない。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

なし

**評価割合：** なし

**授業計画：** 【第1回】外国の看護教育制度①  
【第2回】外国の看護教育制度②  
【第3回】学習者の体験を理解する  
【第4回】学習方法①  
【第5回】学習方法②  
【第6回】臨地実習における教育と学習①経験型実習教育とは  
【第7回】臨地実習における教育と学習②経験型実習教育の理論的基盤  
【第8回】臨地実習における教育と学習③経験型実習教育の実践  
【第9回】臨地実習における教育と学習④学生が直面しやすい問題  
【第10回】臨地実習における教育と学習⑤学生が直面しやすい問題  
【第11回】これまでに体験した教育場面の分析①  
【第12回】これまでに体験した教育場面の分析②  
【第13回】これまでに体験した教育場面の分析③  
【第14回】これまでに体験した教育場面の分析④  
【第15回】まとめ

使用テキスト： グレッグ美鈴・池西悦子：看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う，南江堂，2009

**予習・復習のポイントと** 【予習】

**参考文献・資料等：**

- 1 テキストの内容のみならず、引用されている文献(最低1論文)を読み、テキストの内容を深く説明できるよう、資料を収集し、読み込む。
- 2 他の受講生や教員が理解しやすいよう発表に向けて準備する。
- 3 2のために、レジュメを用意する。
- 4 受講者のこれまでの学習体験、教育体験を振り返り、記述する。

**【復習】**

- 1 わかりづらかった概念について、再度テキストや引用文献を調べ、理解する。
- 2 1でもわからなかったことは明示しておく。

**【参考資料】**

テキストに引用されたすべての文献。  
安酸史子「経験型実習教育」医学書院

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 受講生にはメールアドレスを知らせます。メールにご連絡ください。

- 留意事項：**
- 引用文献に触れながらテキストの筆者の主張を理解するため、引用文献を早めに取り寄せておく。
  - 受講者のレディネスによって、内容を一部変更することがある。

---

科目コード：81052

科目ナンバリング：GN50C16E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：看護教育学演習

担当者：松永 恵

**基本情報**

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

**AL要素：** 07発表  
08協同学修  
09実地調査  
10資料調査課題  
11討論  
15レポート指導

**授業の概要：** 教育場面には様々な課題が生じるが、一度に全て解決することはできない。受講者が抱いている課題を整理して研究課題として絞り込み、計画的に解決をはかる思考を高める。課題を感じる教育実践場面に関する論文を抄読し、知見を得る。知見を得ることができなかった課題を抽出し、身近な教育実践に関する課題を研究的に解決するための一連の過程を体験する。

**キーワード：** 文献抄読、課題、検討、看護、教育

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** 一般的なレポートの形式に則り、記述することができる。

**評価方法：** 毎回提出する課題レポート

**評価割合：** 10%



### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 日頃の教育場面において感じる困難を研究課題として捉え、追究することができるようになる。

**評価方法:** 最終レポート

**評価割合:** 90%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

大学院における学びはこれのみであるため、評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 直接的な評価対象としない。

**授業計画:**

- 【第1回】課題を感じる教育実践場面
- 【第2回】文献抄読
- 【第3回】文献抄読
- 【第4回】知見を得ることができた課題、得られなかった課題の検討
- 【第5回】知見を得ることができなかった課題の学問的な位置づけの検討
- 【第6回】知見を得ることができなかった課題を解決するための研究方法の検討
- 【第7回】知見を得ることができなかった課題を解決するための研究計画の検討
- 【第8回】知見を得ることができなかった課題を解決するための調査
- 【第9回】知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析
- 【第10回】知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析結果の発表
- 【第11回】知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析結果の学問的な意義の検討
- 【第12回】第4回から第11回の論旨一貫した記述方法
- 【第13回】更に知見を得ることができた課題と得られなかった課題の明確化
- 【第14回】発表
- 【第15回】まとめ

**使用テキスト:** 第1回のディスカッションをもとに指示する。

**予習・復習のポイントと** 【予習】

**参考文献・資料等:** 1 調査は拙げず、絞り込むことが重要である。

【復習】

1 毎回、第1回から想起すると、最終的に論旨一貫性の高いレポートを書くことができる。

【参考文献】

1 井下千以子「思考を鍛えるレポート・論文作成法(第2版)」慶応義塾大学出版会

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 受講生にはメールアドレスをお知らせします。

**留意事項:** なし。

---

科目コード: 81053

科目ナンバリング: GN53C01K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 生活支援看護学特論Ⅲ

担当者: 前田 和子、叶多 博美

---

## 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

**授業の概要：** 在宅看護を支える社会資源や、看護の実践を概観し、在宅看護における課題と今後を展望する。講義をもとに学生が体験した事例や、文献をもとにテーマを設定し、プレゼンテーションおよび討論をする。

**キーワード：** 在宅看護、家族看護、移行支援、社会資源、多職種連携、社会の展望

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 在宅療養者とその家族に対して提供される看護実践と課題について説明できる。

**評価方法：** 課題レポート

プレゼンテーション

**評価割合：40%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて、課題解決のための方策を考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 課題レポート

プレゼンテーション

**評価割合：40%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果がプレゼンテーションの内容に認められる。また、討論に積極的に参加する態度が認められる。

**評価割合：20%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 【第01回】ガイダンス(前田・叶多)  
【第02～03回】わが国の在宅看護の変遷(前田)  
【第04～05回】在宅療養を支える制度(叶多)  
【第06回】在宅看護における倫理的課題と対応(前田)  
【第07回】訪問看護師に必要な能力(前田)  
【第08～09回】在宅における家族看護の実際と課題(前田)  
【第10～11回】在宅医療移行期の実際と課題(前田)  
【第12回】職種間の連携の実際と課題(叶多)  
【第13回】諸外国の在宅医療・在宅ケアの現状(前田)

【第14～15回】在宅看護に関する研究の動向と課題(前田)

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はアップロードまたは印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 課題について自主学修を通じ知見を深める。参考文献・資料は適宜提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** なし

---

---

**科目コード:** 81054      **科目ナンバリング:** GN53C02K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 発達支援看護学特論Ⅲ(Advanced Child Healthcare and Nursing Ⅲ)

**担当者:** 渋谷 えみ、小野 加奈子

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜3限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 07発表

10資料調査課題

11討論

**授業の概要:** 妊産褥婦、新生児と家族の健康ニーズに対応するためのアセスメントとケアに関連した理論や知識を学ぶ。特に、ハイリスクの母子と家族についても理解を深める。また、周産期における倫理的課題や周産期医療システムの現状、母子と家族をケアする看護専門職としてのあり方を学習する。

周産期医療・看護については講義を行い、基礎的な理論については文献の精読および討議により学ぶ。

**キーワード:** 母子、ソーシャルサポート、母子を取り巻く社会問題、障がい児の母親、薬害被害者

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

- 到達目標:**
1. 周産期にある母子とその家族の発達特性や主要な健康ニーズを理解できる。
  2. 科学的根拠と倫理に基づいた高度な看護実践を行うために必要な諸理論や知識を習得する。

**評価方法:** 演習  
プレゼン  
レポート

**評価割合:** 20%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** ハイリスクの母子と家族についての対象理解を深め、看護の実際に諸理論を活用しながら考察できる。

**評価方法:** 演習  
プレゼン  
レポート

**評価割合:** 60%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、テーマに基づく知見を深め、研究の基盤となるよう主体的に学習に取り組むことができる。

評価割合：20%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的な内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 【第01回】 家族の発達、周産期医療とfamily-centered care  
【第02・03回】 母親になるプロセス：母性、母親役割、母子相互作用  
【第04・05回】 親子になるプロセス：愛着、母性剥奪、父性  
【第06・07回】 周産期の家族：家族のリスクアセスメント  
【第08・09回】 周産期の家族：家族へのケアサポートシステム  
【第10・11回】 ハイリスク新生児と家族のアセスメントとケア：危機、コーピング  
【第12・13回】 周産期における倫理的課題  
【第14・15回】 周産期医療システムの現状、母子と家族をケアする専門職としてのあり方

**使用テキスト：** 適宜提示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 母子の健康と社会状況との関連について理解を深めるため、日頃から書籍や新聞をみ知見を広げるとともに、自己の考えをまとめておく努力をしてください。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーで対応します。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：** 81055      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：** 日本語|英語

**授業名(英文)：** 急性期看護学特論

**担当者：** 大内 玲、櫻本 秀明

#### 基本情報

**年次：** 1

**単位数：** 2

**授業形式：** 講義

**曜時：** 月曜2限

**履修可能学科・専攻：** GN

**関連資格：**

**AL要素：** 04.課題解決  
07.発表  
08.協同学修  
15.レポート指導

**授業の概要：** 急性病態にある患者や家族が抱える困難な問題とその現状について学習し、危機的状況にある患者・家族の心理社会的特徴の理解や専門的支援に用いられる理論やモデルを理解する。危機的な状況にある患者とその家族を総合的に捉え、衝撃的な体験に際し人間の反

応や回復過程を理解し、衝撃的な体験からの立ち直りを促進させる、個と集団両方を見据えた専門的援助・支援法を探求する。

上記目的を達成するため、危機的状況にある患者とその家族の理解、援助、支援の基盤となる諸理論・危機理論について学修する。さらに、急性期における主要な看護理論への学習を深め、高度な看護実践を行う上で、看護師という集団で対象となる人への援助方法を行うに必要な諸理論、支援方法ならびに看護の課題について、プレゼンテーション・ディスカッションおよび教員からのコメントフィードバックを通して理解を深める。

**キーワード：** 急性期医療システム、聞き理論、人間存在、医療の質、チーム医療

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** ・急性病態にある患者や家族が抱える困難な問題とその現状について理解できる  
・危機的状況にある患者・家族の心理社会的特徴の理解や専門的支援に用いられる理論やモデルを理解できる

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・課題レポート  
・IHI Open School コース修了証

**評価割合：** 60%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・危機的状況にある患者・家族の心理社会的特徴を理解し、専門的に支援するための力を養うことができる。

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合：** 40%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第01-02回】急性期病態における人間の反応について  
【第03-4回】急性期病態にある患者の家族の理解と支援  
【第05回】急性期病態にある患者・家族への援助・支援の基盤となる概念・理論  
【第06回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: 危機理論・危機モデル①  
【第07回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: 危機理論・危機モデル②  
【第08回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: Synergy model①  
【第09回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: Synergy model②  
【第10回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: 急性期医療における医療質保証改善に関する概念

【第11回】急性期に用いられる理論・モデルの理解: 家族システム理論・家族エンパワーメント

\* 各概念、理論を概観する講義および自己学習によるプレゼンテーション。それらの概念、理論を用いた事例検討を行う。

【第12回】危機的状況にある患者の看護に関する文献クリティークと討論1

【第13回】危機的状況にある患者の看護に関する文献クリティークと討論2

【第14回】危機的状況にある患者の家族支援に関する文献クリティークと討論1

【第15回】危機的状況にある患者の家族支援に関する文献クリティークと討論2

**使用テキスト:** 使用テキストは随時提示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習・復習のポイント:適宜、指示する。

参考文献・資料等

・Sonya Rら、Synergy for Clinical Excellence: The AACN Synergy Model for Patient Care, Jones& Bartlett Learning; 2版 (2016/8/10)

・林峻一郎編訳:ストレスとコーピング—ラザルス理論への招待.星和書店, 1990.

・Donna C. Aguilera: Crisis Intervention theory and methodology. 8th Ed 1998, 小松源助他訳:危機介入 の理論と実際—医療・看護・福祉のために—,川島書店, 1997・森山美知子他著:ファミリーナースングプラクティス 家族看護の理論と実践.医学書院, 2001

・IHI Open School

{<http://www.ihl.org/education/IHIOpenSchool/courses/Pages/default.aspx>}

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「危機とストレスに関する科目」(2単位)に相当する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。

---

**科目コード:** 81056      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語、英語

**授業名(英文):** 急性期看護学援助特論I

**担当者:** 大内 玲、櫻本 秀明、井上 貴昭

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜2限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 04.課題解決

07.発表

08.協同学修

15.レポート指導

**授業の概要:** 集中治療・高度な治療を必要とする状況にある患者に起こる病態生理・病理学的な変化について深く学習し、そうした病態に対する処置・治療、合併症管理・モニタリング方法・薬物療法について理解を深める。それらを通じ、集中治療・高度な治療を必要とする患者・家族へ与える影響を包括的にアセスメントする能力に必要な知識を深める。

上記目的を達成するために、高度実践看護師に必要な危機的な状況にある患者の病態をふまえた治療管理に関する知識を教授し、危機的な状況にある患者に起こる問題や課題について検討する。危機的な状況にある患者に対し、一般的に使用される薬物療法の特徴と薬物動態、栄養代謝、有害事象などに関する理解も深める。患者家族が最適なクリティカルケア治療を受けるために必要な知識を、講義および討議を通して学習する。

キーワード： 急性病態・集中治療・管理、クリティカルケア薬物療法

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**・集中治療・高度な治療を必要とする状況にある患者に起こる病態生理・病理学的な変化について理解できる  
・集中治療・高度な治療を必要とする患者に対する処置・治療、合併症管理・モニタリング方法・薬物療法について理解できる

**評価方法：**・プレゼンテーション  
・レポート **評価割合：50%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる

**評価方法：**・プレゼンテーション  
・レポート **評価割合：50%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 【第01～12回】危機的状況にある患者の治療管理  
下記の主要な重症疾患に関する治療管理の理解  
・侵襲と生体反応、重要臓器の変化(第1回)  
・敗血症/ショック患者の治療管理(第2-3回)  
・循環不全患者に対する補助循環治療管理(第4-5回)  
・ARDS等急性呼吸不全患者の治療管理(第6-7回)  
・周手術期にある患者の治療管理(第8回)  
・脳卒中(脳出血/脳梗塞/SAH)患者の治療管理(第9回)  
・急性腎不全・電解質異常を有する患者の治療管理(第10回)  
・外傷の病態と治療管理(第11回)  
・熱傷患者の治療管理(第12回)  
・臓器移植患者の治療管理(第13回)  
【第14回】危機的状況にある患者に対する高度看護実践:治療管理と生体情報モニタリングとその活用  
【第15回】危機的状況にある患者に対する高度看護実践:治療管理と高度看護実践

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

- ・Hildly M.Schell, Kathleen A.Puntillo 著 井上智子監訳:Q&Aで学ぶ重症患者ケア, エルゼビアジャパン, 2008
- ・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 適宜、指示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカルケア治療管理に関する科目」(2単位)に相当する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。

---

**科目コード:** 81057      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 急性期看護学演習I

**担当者:** 大内 玲、井上 貴昭、斉藤 岳史

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜1限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 03.実験・実技・体験  
04.課題解決  
07.発表  
08.協同学修  
13.役割演技と疑似体験  
15.レポート指導

**授業の概要:** 目的:クリティカルケアを必要とする患者の心身の状況を適切に捉えアセスメントするための先進的で、包括的な観察枠組みを修得する。フィジカルイグザミネーションを利用した患者状態のアセスメント方法および臨床推論に関して、E-Learningによる事前学習後に、学生相互、もしくは患者/患者モデル/シミュレーターを使用して、実践形式で学習を深める。またOSCEによる学習会効果の評価も行い一定の到達レベルを目指す。また、エコーなどの非侵襲的な身体機能評価機器に関しても教授する。

概要:【第01～06回】危機的な状況にある患者のフィジカルイグザミネーションに関するE-Learningによる自己学習後、全身のフィジカルイグザミネーションに関するシミュレーターを使用した模擬演習と課題提出

【第07～26回】危機的な状況におけるフィジカルイグザミネーションを利用した患者状態のアセスメント方法および臨床推論に関して、学生相互、もしくは患者/患者モデル/シミュレーターを使用して、実践形式で学習を深める。またOSCEによる学習会効果の評価も行い。一定の到達レベルを目指す。\*5日間集中開催

【第27～28回】エコーなどの非侵襲的な身体機能評価機器に関しても教授する。

**キーワード:** 重症疾患患者身体診察、臨床推論、非侵襲的検査技術

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

- 到達目標:**
- ・集中治療・高度な治療を必要とする状況にある患者に起こる病態に対する処置・治療、合併症管理・モニタリング方法・薬物療法について理解できる
  - ・上記の理解に基づいた自律した看護実践を可能とする高度な知識・技能を習得できる



**評価方法：**・課題レポート  
・演習への参加状況(演習、質疑応答、ディスカッション参加度等を総合的に評価)

**評価割合：60%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**演習で扱った内容について、高度実践看護師として、危機的状況にある患者・家族が最善の医療を受けるための必要な知識を理解し、クリティカルケア治療・療養環境を管理するための方法を考察することができる。

**評価方法：**・課題レポート  
・演習への参加状況(演習、質疑応答、ディスカッション参加度等を総合的に評価)

**評価割合：40%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：直接的な評価対象とはしない。**

- 授業計画：**【第01～06回】危機的な状況にある患者のフィジカルイグザミネーション  
・緊急度の高い患者の全身診察と患者情報の効率的収集方法(第1-2回)  
・意識障害、高次機能障害のある患者の全身診察と網羅的情報収集(第3-4回)  
・人工呼吸、循環補助など高度治療を要する患者の全身診察と網羅的情報収集(第5-6回)  
【第07～08回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
循環不全・ショック1  
【第09～10回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
循環不全・ショック2  
【第11～12回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
呼吸不全1  
【第13～14回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
呼吸不全2  
【第15～16回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
意識障害・麻痺等神経症状1  
【第17～18回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
意識障害・麻痺等神経症状2  
【第19～20回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
急性腹症1

- 【第21～22回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
急性腹症2
- 【第23～24回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
統合的評価1
- 【第25～26回】危機的な状況におけるヘルスアセスメント・臨床推論  
統合的評価2
- 【第27～28回】エコーなどの非侵襲的な評価機器をもちいた身体評価1
- 【第29～30回】エコーなどの非侵襲的な評価機器をもちいた身体評価2

**使用テキスト:** 適宜指示する。  
 ・Lynn S. Bickley, 福井次矢ら監訳: ベイツ診察法, メディカル・サイエンス・インターナショナル (9th Edition) 2009  
 ・上田剛士, ジェネラリストのための内科診断リファレンス, 医学書院, 2014  
 ・Nicola Cooper, ABC of 臨床推論 診断エラーを回避する, 羊土社, 2018

**予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等:** 適宜指示する。

**障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留 意 事 項:** 本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカル状況でのフィジカルアセスメントに関する科目」(2 単位)に相当する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。

**科目コード:** 81058      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語、英語

**授業名(英文):** 急性期看護学援助特論II

**担当者:** 大内 玲、櫻本 秀明

**基本情報**

<b>年次:</b> 1	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 月曜3限		<b>履修可能学科・専攻:</b> GN
<b>関連資格:</b>		<b>AL要素:</b> 04.課題解決 07.発表 08.協同学修 15.レポート指導

**授業の概要:** クリティカルな状況にある患者・家族の全人的な痛み・苦痛の緩和に関する看護実践力を養うことを目的に、急性期病態にある患者の持つ症状・徴候を切り口に生体で起こる生理学的変化と機序を理解し、その痛み・苦痛症状の測定・評価方法、看護・医療ケア的な緩和の方法について学習する。

上記目的を達成するために、クリティカルな状況にある患者・家族の全人的な痛み・苦痛の緩和に関する看護実践力を養うために、各身体・精神・社会／家族システムごとに痛み・苦痛症状及びその測定方法・緩和方法に関するエビデンスレビューを行う。その後、発生機序を含めた学習内容に感ずるプレゼンテーション・ディスカッションを行い理解を深める。また、インターネットツールを利用した、他大学 急性期コース(修論・CNS) 学生を交えて関連論文のクリティークを行う。

**キーワード:** 重症疾患患者の症状緩和

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** ・急性期病態にある患者の持つ症状・徴候を切り口に生体で起こる生理学的変化と機序を理解

できる

・クリティカルな状況にある患者・家族の全人的な痛み・苦痛症状の測定・評価方法、看護・医療ケア的な緩和方法について、述べることができる

**評価方法:** ・プレゼンテーション  
・レポート

**評価割合:** 100%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 「思考力・判断力・表現力」の評価は知識・技能の到達目標と合わせて評価を行う

**評価方法:** 上記評価

**評価割合:** 0%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション・レポート等の記述内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践  
総論: 痛みの病態生理とその測定方法・症状緩和の方法
  - 【第02・03回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践1  
脳神経系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: せん妄・意識障害・口渇感・鎮静鎮痛・睡眠障害などの苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第04・05回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践2  
循環器系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 各種心不全症状など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第06・07回】クリティカルな状況で?痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践3  
呼吸器系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 呼吸困難感など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第08回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践4  
腎泌尿器系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 急性腎不全及び電解質異常に伴い生じる苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第09回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践5  
消化器系疾患・血液疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 腹痛、便秘下痢、腹部膨満感など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第10回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践6  
内分泌代謝系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 高血糖、体温異常(発熱・低体温)など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第11回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践7  
筋骨格系疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践: 全身倦怠感、ICU-AW、フレイルなど苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法
  - 【第12回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践8

敗血症等感染性疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践:敗血症に関連した神経因性疼痛など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法

【第13回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践9

精神疾患に関連した痛み・苦痛と看護実践:不安、うつ、不穏、精神障害を有する患者の急性増悪・自殺企図など苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法

【第14回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践10

社会・家族システムに関連した痛み・苦痛と看護実践:家族の不安・不眠、PICS-Fなど苦痛を伴う症状とその評価測定方法・症状緩和の方法(社会資源の活用含む)

【第15回】クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える患者・家族の理解と看護実践11

全人的な痛み・苦痛の緩和:システム統合的と看護実践(事例検討)

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 適宜、指示する。事前に提示した資料を自己学習し、講義に参加する。

参考文献・資料等

・Editor:Karen K, Carlson, AACN Advanced Critical Care Nursing, SAUNDERS ELSEVIER

・Richard D Griffithsら, Intensive care aftercare, Butterwoeth-Heinemann,2002

・丸山一男:痛みの考え方 しくみ・何を・どう効かす、南江堂、2014

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカル看護援助に関する科目Ⅲ」(2単位)に相当する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。

---

**科目コード:** 81059

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語、英語

**授業名(英文):** 急性期看護学演習II

**担当者:** 大内 玲

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 前期(木曜2限)、後期(木曜2限)

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 03.実験・実技・体験

04.課題解決

07.発表

08.協同学修

15.レポート指導

**授業の概要:** クリティカルケア領域の各小領域(救急・循環器集中治療・脳神経疾患集中治療・小児集中治療・周手術期)に関連した治療環境、家族支援や地域社会支援等について、先行研究や実践報告のレビュー・メタ統合を行い先進的な介入の知識及び具体的な援助方法を修得する。

**キーワード:** Quality Improvement、医療の質改善、Systematic review、Metaanalysis、プロトコール作成、看護介入モデル作成・実施・評価

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** ・医療の質改善に関する基本的知識を身につけることができる

・各自の臨床で必要とされる患者・家族支援や地域社会支援等について、先行研究や実践報

告の文献を適切にレビューできる。

- ・メタ統合を行うために必要な知識を身に着ける
- ・介入の実施評価およびプロトコール改善に関する知識を身につけることができる

**評価方法:** 1. プレゼンテーション **評価割合: 50%**  
2. レポート(作成されたプロトコール含む)

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・各自の臨床における課題を適切に考察し、課題形成することができる  
・実現可能性の高い介入プロトコールを作成することができる

**評価方法:** **評価割合: 50%**  
1. プレゼンテーション  
2. レポート(作成されたプロトコール含む)

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合: 0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合: 特になし**

**授業計画:** クリティカルケアを必要とする患者と家族のQOL向上に向けて必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々と連携し調整する方策を探索する。また、治療環境における医療の質改善活動の実際や、そのためのプロトコールの作成・適応を検討する。上記を通じ各小領域における具体的なエビデンスに基づいた看護介入プロトコールの作成と適応、評価などを実践形式で応用できる力を修得する。授業は主にゼミ形式で、学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究や実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて議論する。

【第01回】クリティカルケア領域におけるエビデンスとQuality Improvement概論

【第02-03回】クリティカルケア領域におけるエビデンス収集アプローチ:レビュー実践とSummary of finding 表作成演習

【第04-05回】クリティカルケア領域における系統的レビューとガイドラインの理解:GRADE評価、ガイドライン評価

【第06-07回】選択したクリティカルケア領域の各小領域におけるミニ系統的レビューと実践的プロトコール作成

【第08-08回】選択したクリティカルケア領域の各小領域におけるミニ系統的レビューと実践的プロトコール作成2

【第10-11回】エビデンスを利用した実践的プロトコールの適応と課題、多職種連携の活用

- 【第12-20回】選択したクリティカルケア領域の各小領域における文献統合〈Systematic Review とMeta-Analysis実践〉
- 【第21-28回】選択したクリティカルケア領域の各小領域におけるQuality Improvementとデータ収集アプローチ
- 【第29-30回】選択したクリティカルケア領域の各小領域における(事例および実践をもとにした)プロトコールの実践評価と応用統計

**使用テキスト:** 適宜、指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前に提示した資料を自己学習し、講義に参加する。

- ・岩田健太郎:寝ころんで読める英語論文 メディカ出版
- ・新谷歩:今日から使えろと医療統計、医学書院
- ・神田善伸:初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZRで誰でも簡単統計解析、南江堂
- ・EZRH<http://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>
- ・Rayyan QCRI:<https://rayyan.qcri.org/welcome>
- ・野口善令:はじめてのメタアナリシス～お金をかけなくてもできる臨床研究入門～、認定NPO法人 健康医療評価研究機構

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 81060      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** ヘルスアセスメント特論

**担当者:** 大内 玲、小林 裕幸

**基本情報**

<b>年次:</b> 1	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 金曜7限		<b>履修可能学科・専攻:</b> GN
<b>関連資格:</b> 教職		<b>AL要素:</b> 04.課題解決 07.発表 08.協同学修 15.レポート指導

**授業の概要:** 高度実践看護師として、複雑な健康問題を持つ対象者の身体状況を、根拠にもとづいて包括的に評価し、臨床推論および看護判断をするために必要な知識・技術を習得する。本授業を通して、高度実践看護師の役割を果たすための臨床判断に必要な実践的な思考基盤を養う。

上記目的を達成するため、臨床推論・診断に関わる基礎的な知識、医療面接技法、フィジカルアセスメント技法の習得を目指し、E-Learningを利用した事前学習、講義、模擬演習、臨床実技研修、事例のプレゼンテーションとディスカッションを組み合わせ、実践的な学びを得る。また、臨床実技研修および事例のプレゼンテーションを通じ、得られた身体情報・ヘルスアセスメント結果を専門領域間で共有・検討するためのコミュニケーション能力も養成する。

**キーワード:** 医療面接技法、フィジカルアセスメント、臨床推論、確率的な診断の捉え方

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

- 到達目標:**
- ・必要な臨床推論・診断に関わる基礎的な知識、医療面接技法、フィジカルアセスメント技法に関して理解できる
  - ・患者の持つ症状から必要な医療面接と身体診察ができる

**評価方法:** ・プレゼンテーション  
・課題レポート  
・E-Learningコース修了証

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・確率的な診断の捉え方を理解し、患者の症状の背景にある疾患や健康課題を推論することができる  
・また、推論に基づいた必要なケア方法について述べることができる。

**評価方法:** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【第01回】臨床推論・診断学:診療のプロセス  
【第02回】医療面接の基礎・技法  
【第03-09回】系統別フィジカルアセスメント  
【第03回】頭頸部・目・耳・鼻・咽頭部に症状をもつ患者のヘルスアセスメント  
【第04回】脳神経系に症状を持つ患者のヘルスアセスメント  
【第05回】筋・骨格系・皮膚に症状を持つ患者のヘルスアセスメント  
【第06回】胸部・肺に症状を持つ患者のヘルスアセスメント  
【第07回】循環に症状を持つ患者のヘルスアセスメント  
【第08回】腹部・泌尿器・生殖器に症状を持つ患者のヘルスアセスメント  
【第09回】シミュレーターを使用した模擬演習とe-learning後のポストテスト  
  
【第10-14回】ヘルスアセスメントベッドサイドティーチングと演習  
(以下の症状を少なくとも1回ずつ含む関連病院における実技研修・事例検討)  
  
・頭痛、等の頭頸部・目・耳・鼻・咽頭部に症状を持つ患者  
・めまい、麻痺、呂律障害など脳神経・筋骨格・皮膚系に症状を持つ患者  
・胸痛・心不全・急性呼吸不全など呼吸循環器系に症状を持つ患者  
・発熱、浮腫・凝固障害・出血等全身・多臓器に症状を有する患者  
・嘔吐・腹痛などの腹部・泌尿器・生殖器に症状を持つ患者  
【第15回】事例のプレゼンテーション&ディスカッション まとめ

**使用テキスト:** 適宜提示する。

- 1)目で学ぶフィジカルアセスメント大全(ケアネットTV) 外部E-Learning
- 2) 上田剛士、ジェネラリストのための内科診断リファレンス、医学書院、2014

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント:適宜、指示する。  
参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください  
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

留意事項: CNSコースの学生は必ず履修する。

---

科目コード:81061 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 病態生理学特論

担当者: 大内 玲、櫻本 秀明、中村 謙介、長谷川 隆一

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格:

AL要素: 04.課題解決  
07.発表  
08.協同学修  
15.レポート指導

**授業の概要:** 高度な臨床看護判断を行うために、正常な人体の構造や機能の知識をベースとして、機能調節維持メカニズムがどのような原因で破綻し、その結果としてどのような症状・徴候・所見を呈するのかについて、病理学的・生化学的な知識を用いて病態生理を理解する。症状等の推移を予測するとともに、患者に対して適切な治療が選択され症状の緩和や起こりうる障害・合併症を回避するため、エビデンスに基づいて必要なアセスメントし、ケア方法を組み立てる能力を習得する。また、グループで考察し発表する演習を行い、病態を専門領域間で共有、検討するためのコミュニケーション能力も養成する。

上記目的を達成するため、病態生理に関する基礎的な知識を学ぶ。基礎知識を生かし、患者のもつ症状、徴候から背景機序を考えるための病態生理学的な思考過程を学ぶためのプレゼンテーション&グループディスカッションを行う。このプレゼンテーションは、あらかじめ担当を割り当て、主要症状の病態生理に関して調べ、概要を発表する。また、第09-14回は、事例検討を関連病院における患者ベッドサイドにおいて行う。ベッドサイドティーチング形式を取ることで、現実的な事例からのより深い病態生理に関する学びを得る。ベッドサイド事例を用いた即時的なプレゼンテーション・ディスカッション等を通して、より臨床的な形式で、エビデンスに基づいた看護アセスメント、看護診断能力の修得を目指す。

**キーワード:** 人体構造と機能、病態生理

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** ・高度な臨床看護判断を行うために必要な正常な人体の構造や機能の知識に関して理解できる  
・機能調節維持メカニズムがどのような原因で破綻し、その結果としてどのような症状・徴候・所見を呈するのかについて、病理学的・生化学的な知識を用いて病態生理を理解することができる

**評価方法:** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合:** 60%



### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・症状等の推移を予測するとともに、患者に対して適切な治療が選択され症状の緩和や起こりうる障害・合併症を回避するため、エビデンスに基づいて必要なアセスメントし、ケア方法を組み立てる能力を習得することができる

**評価方法:** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【第01回】オリエンテーション、病態生理学総論  
【第02-09回】各学生によるプレゼンテーション&ディスカッション形式と講義  
【第02回】脳神経系機能、運動機能、感覚機能の病態生理  
【第03回】呼吸機能の病態生理  
【第04回】循環機能の病態生理  
【第05回】消化機能、排泄機能の病態生理  
【第06回】造血機能、生殖機能の病態生理  
【第07回】内分泌・代謝機能の病態生理  
【第08回】腎機能、水・電解質バランス異常に関連した病態生理  
【第09回】生体防御機能・免疫疾患、遺伝性疾患の病態生理  
【第10-14回】患者症状を中心とした事例検討  
関連病院における意識障害・麻痺・発熱・胸痛・心不全・急性呼吸不全・腎不全・凝固障害・嘔吐・腹痛などの患者事例のうち、少なくとも6事例以上の事例検討を行い全身にわたる病態生理的理解を得る。症状から背景機序となる病態生理に関する理解と、臨床看護判断を行うために必要な知識・技術を深める。  
【第15回】まとめ

**使用テキスト:** 適宜提示する。

國分 眞一郎 (翻訳), 中山 智祥 (翻訳)、ハマー&マクフィー疾患の病態生理: 臨床医学入門 原書7版  
福井次矢 (監修), 黒川 清 (監修)、ハリソン内科学 第5版

講義が多領域、多分野にわたるため、学術論文は講義毎に紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習・復習のポイント: 適宜、指示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項：** CNSコースの学生は必ず履修する。

---

**科目コード：**81062      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**臨床薬理学特論

**担当者：**大内 玲、原島 利恵、本間 真人、鈴木 嘉治、浅野 均

#### 基本情報

**年次：**1

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**月曜4限

**履修可能学科・専攻：**GN

**関連資格：**教職

**AL要素：**04.課題解決

07.発表

08.協同学修

15.レポート指導

**授業の概要：** 代表的な薬物療法(緊急応急処置や症状の改善、慢性疾患管理に必要な薬物など)を中心に、病態の異なる患者それぞれに対して副作用をできるだけ回避し最大限の効果をあげられる適切な薬物療法を行うための薬理学の基礎知識と実践的な薬の使用方法について学ぶ。それにより、薬物使用に関わる判断、投与後のモニタリングなどを実践し患者の治療に貢献できる能力を習得する。また、講義、演習を通じ患者の生活調整や回復力の促進、患者自身による服薬管理能力向上のための高度な看護ケアについて考察する。

上記目的を達成するため、薬物動態と治療的薬物モニタリング(薬物の吸収・分布・代謝・排泄)を含む薬理学に関する基礎知識と患者モニタリング方法、各代表疾患に関する主要薬剤の薬理作用・副作用の理論及び主要薬物の相互作用の理論を含めて教授する。患者の管理、生活指導、安全管理と処方理論を含めて教授する。講義と代表的な病態の症例を提示シグループで患者服薬管理能力の向上を図るための看護技術に関しても考察し発表する演習も取り入れる。

**キーワード：** 臨床薬理、薬物動態、治療的薬物モニタリング

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** ・代表的な薬物療法(緊急応急処置や症状の改善、慢性疾患管理に必要な薬物など)を中心に、病態の異なる患者それぞれに対して副作用をできるだけ回避し最大限の効果をあげられる適切な薬物療法を行うための薬理学の基礎知識と実践的な薬の使用方法について理解できる

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合：**60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・講義、演習を通じ薬物使用に関わる判断、投与後のモニタリングなどを実践し患者の治療に貢献できる能力を習得することができる。  
・また、患者の生活調整や回復力の促進、患者自身による服薬管理能力向上のための高度な看護ケアについて考察することができる。

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・課題レポート

**評価割合：**40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼ

ンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

#### 授業計画：【第01回】薬物動力学の基礎

薬物の受容体結合と薬理作用：アゴニスト、アンタゴニスト、用量反応曲線、競合・非競合阻害、余剰受容体、逆アゴニスト、治療係数。分子薬理学

#### 【第02回】薬物動態学と治療薬モニタリング

吸収、分布、代謝、排泄、薬物投与方法、薬物の生体膜通過、受動拡散、血液脳関門、初回通過効果、生体利用率、治療薬モニタリング

#### 【第03回】薬効に影響を与える因子・薬物相互作用

薬理作用・薬物動態の個体差：遺伝子多型、個別化医療、耐性、退薬症候群、薬物アレルギー。薬物相互作用と薬物有害反応：薬物相互作用

【第04-10回】各論 緊急応急処置や症状改善、慢性疾患管理に必要な薬物を中心に各薬剤の適応と作用機序、副作用モニタリング、患者の服薬管理能力向上に関する知識を含む

【第04回】救急・集中治療・手術に関連した薬物療法の理解(鎮静・麻酔薬と拮抗薬、アドレナリン受容体作動薬とその他の交感神経作用薬(バソプレシン含む)等)

#### 【第05回】循環器疾患を持つ患者の薬物療法の理解1

(抗不整脈薬、血管拡張薬と狭心症治療薬、利尿薬含む心不全治療薬)

#### 【第06回】内分泌・代謝性疾患を持つ患者の薬物療法の理解

(糖尿病関連薬剤、副腎皮質ステロイド、高脂血症治療薬等)

#### 【第07回】呼吸器・アレルギー疾患・皮膚にトラブルを持つ患者の薬物療法の理解

(COPD、気管支拡張薬、鎮咳薬、外用ステロイド薬、抗掻痒薬、褥瘡等治療外用薬等)

#### 【第08回】悪性腫瘍関連の薬物療法の理解

(抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬等)

【第09回】【症状調整1】痛み・不眠・不穏(不安・せん妄含む)症状を持つ患者への薬物療法の理解(非麻薬性鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬と拮抗薬、向精神薬、抗うつ等)

【第10回】【症状調整2】便秘、嘔気嘔吐などの消化器系症状を持つ患者への薬物療法の理解

(制吐薬、便秘治療薬等)

【第11-14回】統合演習：下記の事例より、学生の専門性を踏まえ4課題選択し、事例をもとに年齢や生活背景・QOL等を考慮した薬物療法、患者の服薬管理能力を向上させるための方策などに関する高度看護実践看護師としての実践的役割についてディスカッションする

- ・集中治療室で、鎮静剤の調整が必要となった事例
- ・救急外来で喘息の症状悪化により薬物調整が必要となった小児事例
- ・がん化学療法による強い副作用を抱えるがん患者の事例
- ・がん性疼痛による強い症状のために調整が必要となった事例
- ・心不全の症状か?悪化し薬物調整と生活指導が必要となった高齢者の事例

- ・糖尿病で血糖コントロール不良のため再教育が必要となった事例
  - ・認知症の症状により家族支援を含め薬物調整が必要となった高齢者の事例
- 【第15回】事例全体のディスカッション:高度実践看護師に必要な臨床薬理学の知識と看護技術とは

**使用テキスト:** 適宜提示する。

- 1) Bertram G.Katzung (著), 柳澤ら(翻訳) カツツング薬理学(原書10版)
- 2) 渡邊(監修、翻訳)ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 (原書3版)

**予習・復習のポイントと** 予習・復習のポイント:適宜、指示する。

**参考文献・資料等:**

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** CNSコースの学生は必ず履修する。

**科目コード:** 81063

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 看護教育論

**担当者:** 松永 恵

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜1限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 02模擬実践07発表

08協同学修10資料調査課題

11討論

13役割演技と疑似体験

**授業の概要:** 看護教育における学習者は病者、健康な人のみならず、共に働く看護職者を含む。学習者に対し教育的に働きかけ、看護ケアの質を高めるには、働きかけの根拠となる学習者のニーズの理解が求められる。

第1～10回では、教育学の理論から、学習者を多面的に捉えさせ、学習者の思考を探索し効果的な働きかけ方を工夫し、評価するというプロセスを体験させたい。第11回以降では、高度専門看護師が看護職者に教育的に働きかける実践報告を用い、理論と実践を往還しながら卓越した看護継続教育への理解を深める。

**キーワード:** CNS 卓越 看護 教育 学習

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 1 卓越した看護継続教育を実施するために必要な基礎理論を理解する。

**評価方法:** 事前課題の実施

**評価割合:** 20%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 4 高度実践家の卓越した教育実践に触れ、看護継続教育に求められる教育環境について考える。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

2 学習者としての看護職のニーズや思考を診断的に評価し、効果的な教育的働きかけを計画、実施す

る。

3 学習者としての看護職に教育的に働きかけ、修正、評価する。

**評価割合：30%**

**▼実践的ボランティア**

卓越した看護を実践する受講者には当然備わっているものであるため、評価しない。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

卓越した看護を実践する受講者には当然備わっているものであるため、評価しない。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特記事項なし

**評価割合：特記事項なし**

- 授業計画：** 第1回：看護教育、看護継続教育とは  
第2回：看護継続教育に必要な理論(1)教育論の原型  
第3回：看護継続教育に必要な理論(2)学習心理学  
第4回：看護継続教育に必要な理論(3)評価：診断・形成・総括評価、タクソノミー  
第5回：看護継続教育に必要な理論(4)看護教育学の歴史  
【第1～5回の進め方】  
①看護教育、看護継続教育を理解するために必要な理論を教授する。  
②受講生は教授された理論を用い、これまでの学習体験を分析する。  
第6回：看護継続教育における看護職者への教育的働きかけ(1)学習者としての対象理解  
第7回：看護継続教育における看護職者への教育的働きかけ(2)学習者の診断的評価  
第8回：看護継続教育における看護職者への教育的働きかけ(3)学習者にわかりやすく伝える：授業設計  
【第6～8回の進め方】  
①受講生の同僚である看護職者を様々な発達段階にある学習者と捉えられるよう教授する。  
②受講生は第5回までの学びを踏まえ、学習者のニーズや思考を診断的に評価し、授業設計を設計する。  
第9回：看護の継続教育における看護職者への教育的働きかけ(1)模擬授業とリフレクション  
第10回：看護の継続教育における看護職者への教育的働きかけ(2)模擬授業とリフレクション  
【第9～10回の進め方】  
①受講生は模擬授業を実施する。  
②受講生は授業を振り返り、修正し、2回目の模擬授業を実施し、総括評価する。  
第11回：高度実践家による教育環境づくり①研修方法  
第12回：高度実践家による教育環境づくり②看護職への技術指導  
第13回：高度実践家による教育環境づくり③看護職の相談に応じる  
第14回：高度実践家による教育環境づくり④他職種との連携  
【第11～14回の進め方】  
高度実践家による教育実践報告を読み、第10回までの学びを踏まえ、卓越した看護ケアを生み出す看護継続教育に求められる教育環境について協議する。  
第15回：まとめ（討議）

- 使用テキスト：** ①資料を配布する。  
②事前課題として論文を指示することがある。その際には受講生が各自で取り寄せる。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 参考書・参考資料等  
目黒悟「教えることの基本となるもの」メヂカルフレンド社  
グレッグ美鈴「看護教育学」南江堂  
ドナルド・ショーン「専門家の知恵」ゆみる出版  
ノールズ「成人教育の現代的実践—ペダゴジーからアンドラゴジーへ」鳳書房

事前課題として予習すべき用語・課題図書・論文を指示する。

**障がいのある履修者への対応：** できるだけ対応します。教員か学務部にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業開始時に受講生に知らせます。

**留意事項：** 特記事項なし

---

科目コード：81064      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：看護政策論

担当者：池袋 昌子

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：07. 発表  
11. 討論  
14. 輪読活動  
17. 発問と回答

**授業の概要：**【授業形態】対面授業のほか、課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)を含む

保健医療福祉の主要な法律と、それを基盤に構築されるシステムを概観する。看護職の業務を規定する医療制度・看護政策における看護実践の位置づけや、制度・政策の決定過程とその影響について教授する。

また、日本の医療制度・看護政策の理解を深めるために、海外の医療制度・看護政策を概観し、比較・検討を行う。各国の医療制度や医療事情を解説し、関連する基礎的なデータを示す。看護の質の向上のために、現在の医療制度・看護政策に基づく診療報酬制度の仕組みと課題に向けた看護の政策的働きかけを教授する。

なお、担当教員の「認定看護管理者」の実務経験を活かし、看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床における身近な看護政策の実際を教授する。

**キーワード：** 保健医療福祉、ヘルスケアシステム、医療制度、看護政策、診療報酬制度、パブリックコメント、パブリックスピーチ、社会モデル

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. 看護政策の基礎となる保健・医療・福祉の主要な法律、その基盤となるシステムを概観し、看護職の役割と業務を規定する医療制度・看護政策を修得することができる。

2. 海外の医療制度や看護政策を概観し、日本の医療制度や看護政策と比較しながら、日本の医療・看護改革に対する看護政策提案を検討することができる。

**評価方法：** ・プレゼンテーション

**評価割合：** 50%

・レポート

・ディスカッションへの参加度

(上記を総合的に評価する。)

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、看護管理実践・自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** ・プレゼンテーション

**評価割合：** 50%

・レポート

・ディスカッションへの参加度

(上記を総合的に評価する。)

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第01回】ヘルスケアサービス提供のための制度・政策  
社会保障の概念、日本の社会保障制度の軌跡、社会保障の規模と構成、  
21世紀福祉ビジョン
- 【第02回】保健医療福祉の法律とヘルスケアシステム  
保健医療福祉制度の構造、医療保険・介護保険とその財源、  
保健医療福祉制度と保健医療福祉施設を支える職種、ヘルスケア提供体制
- 【第03回】看護制度  
看護制度と看護マンパワー、看護教育制度、看護職の処遇
- 【第04回】海外の医療制度・看護政策 1  
アメリカの医療制度・看護政策、イギリス・アイルランドの医療制度・看護政策
- 【第05回】海外の医療制度・看護政策 2  
スウェーデンの医療制度・看護政策、フランスの医療制度・看護政策
- 【第06回】海外の医療制度・看護政策 3  
ドイツの医療制度・看護政策、オーストリアの医療制度・看護政策
- 【第07回】世界の医療制度から見た日本の医療制度  
社会保障給付費の国際比較、社会保障給付費の構成、  
政策分野別社会支出の対国民所得比の国際比較、社会保障財源の国際比較
- 【第08回】医療政策と看護政策 1  
医療法の改正、看護職員確保の政策、医療機能分化政策
- 【第09回】医療政策と看護政策 2  
看護体制と料金体系の改革、診療報酬・介護報酬の仕組みと改定、  
看護政策・看護体制の経済的評価
- 【第10回】医療政策と看護政策 3  
看護教育に関する看護政策、教育課程に関する看護政策の推移、  
教育の形態に関する看護政策
- 【第11回】保健師助産師看護師法の改正  
障害者等に関する欠格条項の適正化と守秘義務規定の整備、  
男女統一の名称への改正、名称独占規定の整備、  
保健師・助産師の免許登録条件等の改正、  
国家試験受験資格の改正と臨床研修の努力義務化
- 【第12回】診療報酬制度と高度実践看護師  
高度実践看護師の果たすべき役割・機能、  
パブリックコメント、パブリックスピーチ
- 【第13回】診療報酬制度と職能団体

- 制度改革や看護政策の決定過程、ロビー活動、政治参加
- 【第14回】診療報酬制度や看護政策の仕組みと課題に向けた看護の政策的働きかけ  
看護政策と看護の質、高度実践看護師の社会的責任、  
診療報酬制度や看護政策への提言
- 【第15回】医療・介護の社会モデルに対する看護の政策的働きかけ  
健康で安全な生活を支える社会モデル、  
医薬品・医療機器の開発を促す社会モデル、  
人口高齢化を乗り越える社会モデル、  
持続可能な医療・介護の社会モデル、新たなモデルの提案

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には、その回のテーマに関連する文献を調べる。  
授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について、自主的な学びを通して知見を深めることが望ましい。

下記の参考文献・資料を推薦する。

1. 井部俊子, 増野園恵(2023):看護管理学習テキスト 第1巻 ヘルスケアシステム論—ヘルスケアサービス提供のための制度・政策, 日本看護協会出版会.
2. 井部俊子, 増野園恵(2023):看護管理学習テキスト 別巻 看護管理基本資料集, 日本看護協会出版会.
3. マイケル・E. ポーター, エリザベス・オルムステッド・テイスパーク, 山本雄士訳(2009):医療戦略の本質 価値を向上させる競争, 日経BP社.
4. 河口洋行(2016):医療の経済学 第3版 経済学の視点で日本の医療政策を考える, 日本評論社.
5. 看護政策に関連する分野の学会誌等、その他適宜提示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応する。  
曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項：** 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

**科目コード：** 81065      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 慢性看護学援助特論Ⅲ

**担当者：** 浅野 均、叶多 博美、前田 和子、金井 千晴

**基本情報**

**年次：** 2

**単位数：** 2

**授業形式：** 講義

**曜時：** 木曜7限

**履修可能学科・専攻：** GN

**関連資格：**

**AL要素：** 05. 即時応答  
06. 遠隔交流  
07. 発表  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の制度や体制の現状とその革新方策を学修する。具体的には、慢性病をもつ患者と家族に関連する国内外の制度と体制(診療報酬、保健医療制度・体制、職種間の連携)の現状と課題を把握した上で、慢性病をもつ患者の自己実現、安寧な死、QOLの向上を含めたの観点から、履修生のサブスペシャリティ領域の今後のあり方を探求する。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。



キーワード： 慢性疾患 保健医療・福祉制度 国内外の動向

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**慢性病に起因する障害者に適用される医療・福祉の制度や体制について国内外の現状を学修する。また、履修生のサブスペシャリティ領域の今後のあり方を議論しながら探求する力を養う。

**評価方法：** 課題レポート

**評価割合：** 40%

プレゼンテーション

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**慢性看護学における先行研究の論文や保健医療・福祉について歴史的変革を整理する。現在実施されている実践報告のレビューを行い、実践事例を基にプレゼンテーションを行い、議論することにより考察を整理でき履修生のサブスペシャリティ領域の今後のあり方を探索する。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：** 30%

課題レポート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究の論文クリティークや実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

## 授業計画：

【第01回】わが国の制度や体制に関わる慢性病を持つ人々の概要①

【第02回】わが国の制度や体制に関わる慢性病を持つ人々の概要②

【第03回】慢性病を持つ人が活用できる保健医療・福祉制度：国内の動向

【第04回】慢性病を持つ人が活用できる保健医療・福祉制度：諸外国との比較と日本の課題

【第05回】慢性病を持つ人が活用できる保健医療・福祉制度：サブスペシャリティ領域の文献

検討

【第6・7回】慢性病を持つ人が活用できる保健医療・福祉制度①②高齢者福祉

【第08回】慢性病を持つ人が活用できる保健医療・福祉制度③障害者福祉

【第09回】慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の支援体制①医療・介護施設

【第10回】慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の支援体制②在宅

【第11回】慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の多職種連携①職種の理解と職種の連

携・調整の在り方

【第12回】慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の多職種連携②院内における退院

調整

【第13回】慢性病をもつ人に適用される保健医療・福祉の支援体制と多職種連携 地域包括ケア

システム

【第14回】慢性病をもつ人への保健医療・福祉制度の革新方策 病院と地域連携の在り方

【第15回】慢性病をもつ人への保健医療・福祉制度の革新方策 サブスペシャリティ領域での検討

**使用テキスト：** 講義中に参考文献を適宜紹介する。

- ・厚生労働統計協会(最新版):国民衛生の動向
- ・篠田道子(2017):ナースのための退院支援・調整—院内チームと地域連携のシステムづくり 第2版,日本看護協会出版会.
- ・篠田道子,原沢優子(2018):多職種で支える終末期ケア:医療・福祉連携の実践と研究,中央法規出版.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** これまでの講義を振り返り、臨床での実践をまとめ講義に臨むことを勧める。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室等で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

**留意事項：** 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修する。

---

**科目コード：**81066

**科目ナンバリング：**

**主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**慢性看護学援助特論Ⅳ

**担当者：**原島 利恵、叶多 博美、前田 和子、石原 未幸、浅野 均

**基本情報**

**年次：**2

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**水曜7限

**履修可能学科・専攻：**GN

**関連資格：**

**AL要素：**05. 即時応答  
07. 発表  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 慢性病に起因する障害者に対して倫理調整を含めた治療や療養環境および地域支援などを検討し、質の高い生活に向けた調整について学修する。具体的には、人材資源としてのソーシャルサポート、セルフヘルプグループを理解と社会資源の活用も含め、慢性病をもつ患者の自己実現、安寧な死、QOLの向上の観点から、慢性病を持つ患者の療養環境および地域支援の今後のあり方と専門看護師の役割を探求する。

【授業形態】一部遠隔授業(同時双方型とオンデマンド型・課題研究型の組み合わせ)となる。

**キーワード：**慢性病者の病期 ソーシャルサポート 療養環境 地域支援

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：**慢性病者の病期(予防期、急性憎悪期、慢性期、回復期、終末期)に応じた治療や療養環境

(病棟・外来・地域・居宅・職場)等を質の高い生活に向けて調整する方略について学修する。

**評価方法:** 事前課題

**評価割合:** 40%

プレゼンテーション

課題レポート

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** さまざまな健康段階にある人々の質の高い療養環境調整に向けた方略を学び、より専門的な慢性疾患看護の実践に向けて探求することができる。

**評価方法:** プレゼンテーション

**評価割合:** 30%

レポート 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

実践例を通して学生自ら積極的に議論を深める。実践事例を用いて積極的に主体的に取り組むことができる。

**評価割合:** 30%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】慢性病を持つ人の社会支援の概要(原島)
  - 【第02回】ソーシャルサポート、セルフヘルプグループの概念(原島)
  - 【第03回】慢性的な経過をたどる健康障害の自己管理や合併症予防(原島)
  - 【第04回】合併症予防として継続的にセルフケアを行う必要がある患者の治療の特徴と支援:医療施設での状況と取り組み(原島)
  - 【第05回】発症予防に向けた家庭生活上の療養環境調整、地域支援:地域での状況と取り組み(叶多)
  - 【第06回】発症予防に向けた社会生活上の調整、就業支援:職場での状況と取り組み(前田)
  - 【第07回】発症、急性増悪の時期における慢性病を持つ患者の治療・療養環境( )
  - 【第08回】発症、急性増悪の時期における慢性病を持つ患者の地域支援(前田)
  - 【第09回】慢性期・回復期における慢性病を持つ患者の治療・療養環境 がん(原島)
  - 【第10回】慢性期・回復期における慢性病を持つ患者の治療・療養環境 難病(叶多)
  - 【第11回】慢性期・回復期における慢性病を持つ患者の医療施設・地域連携(石原)
  - 【第12回】終末期における慢性病を持つ患者の治療・療養環境(原島)
  - 【第13回】終末期における慢性病を持つ患者の地域支援(前田)
  - 【第14回】慢性病をもつ人とその家族を取り巻く治療や療養環境の検討 サブスペシャリティ領域での検討(原島、前田、 )
  - 【第15回】慢性病をもつ人とその家族を取り巻く治療や療養環境の方策の検討(原島、前田、 )

**使用テキスト:** 講義中に参考文献を適宜紹介する。

- ・アンリオン・モンフ・ラブキン、パラマDラーセン(2007):クロニックイルネス,医学書院.
- ・森山美智子編(2007):新しい慢性病ケアモデル,中央法規出版.

- ・浦光博(2012):支えあう人と人 ソーシャルサポートの社会心理学,サイエンス社
- ・KKキューブラ,PHベリー,DE.ハイドリツヒ(2011):エンドオブライフケア,医学書院.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** プレゼンテーションはオフィスアワーを活用し、提示した事前学習の準備を行うこと。  
\*オフィスアワーは講義初回に提示する

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 指導が必要な場合、相談のある場合については、予めメール等で連絡する。

**留意事項:** CNSコースの学生は、必ず履修する

**科目コード:** 81067      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 慢性看護学実習I

**担当者:** 原島 利恵、前田 和子、浅野 均

**基本情報**

<b>年次:</b> 1	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 実習
<b>曜時:</b> 実習		<b>履修可能学科・専攻:</b> GN
<b>関連資格:</b>		<b>AL要素:</b> 01.実地訓練 07.発表 11.討論 15.レポート指導

**授業の概要:** 慢性疾患看護専門看護師に求められる役割機能(教育、相談、調整、倫理調整)について実践を通して学ぶ。慢性疾患看護専門看護師の役割機能を体験を通して質の高い看護実践のための方法(高度な看護実践能力、倫理調整、多職種との連携・調整など協働能力)を修得する。慢性疾患をもつ人々を看護する場において、スーパーバイザーの指導を受けながら、役割機能を学修するための実習計画に沿って実習目標を達成するための専門的な看護実践を展開する。

**キーワード:** 専門看護師の役割機能 高度な看護実践能力 倫理調整 多職種との連携・調整(協働能力)

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** 慢性疾患をもつ人々を看護する場において、スーパーバイザーの指導を受けながら、実習計画に沿って専門的な看護実践を展開する。また、専門看護師として必要な6つの役割(卓越した実践、教育、相談、調整、研究、倫理)を効果的に習得できるように各役割についての目標を掲げ実習計画を立案する。さらに、慢性病患者とその家族に対しての看護支援を見学し、外来における慢性疾患看護専門看護師の役割について理解を深める。

**評価方法:** 実習計画書      **評価割合:** 60%  
実習記録  
カンファレンス  
プレゼンテーション  
課題レポート

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 実習先医療施設の専門看護師が所属するチームに参加し、具体的な援助対象者を設定し、コンサルテーションや教育指導的役割を含む実習を行う。常に援助計画の実施状況を振り返りな

がら実習目標の達成に向け実習計画の修正を行う。

**評価方法:** 実習計画書

**評価割合:** 30%

実習記録

カンファレンス

プレゼンテーション

課題レポート

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

実習目標達成に向けた実習の取り組み方(態度・姿勢)やスタッフとの調整、実習記録等の情報をもとに高度な看護実践能力を獲得する学習者としての自覚と責任をもち行動することができるかどうか評価する。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、実習中の発言や記録物の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【実習内容と実習期間】\*詳細は実習要綱を参照

○慢性疾患看護専門看護師のシャドールークを通して専門看護師に求められる役割を学ぶ。

1. 専門看護師を役割モデルとして、専門看護師に必要とされる6つの機能を効果的に習得できるように各役割についての目標を掲げ実習計画を立案する。
2. 慢性疾患看護専門看護師の外来時の支援として、慢性病者とその家族に対しての看護支援を見学し、外来における慢性疾患看護専門看護師の役割(6つ)について理解を深める。
3. 実習先医療施設の専門看護師が所属するチームに参加し、具体的な援助対象者を設定し、コンサルテーションや教育指導的役割を含む実習を行う。
4. 常に援助計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向け実習計画の修正を行う。
5. 実習内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のそれぞれの視点から専門看護師の役割機能についてレポートを作成し実習Ⅱへ向けての課題を見出す。

\*実習期間は12～2月中とし、学生の実習目標に応じた期間の実施とする。

\*実習日は、実習指導者の外来日の状況、活動内容に応じ、実習日程を調整する。

#### 【実習課題】

- ・実習は、目標達成に向けて1日ごとに行動計画を立案し、日々の記録を基に課題を明確にし、後日の実習へ活かす。
- ・レポートでは、実習中に経験できた場面から、専門看護師の役割(実践、教育者、相談、調整、研究、倫理など)を具体的に記述し、指導者との議論を通して問題点や課題、自己能力の強化・開発が必要な点を明らかにする。

#### 【実習場所・指導者】

未定

**使用テキスト：** 特論や演習で使用したテキストを参考図書とする。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 主体性を持ち、自身が学ぶべき計画を遂行できるよう事前・事後学習を行うことを勧める。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項：** 慢性看護CNSコースの学生は、必ず履修する。

---

**科目コード：81068**      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：慢性看護学実習II**

**担当者：原島 利恵、前田 和子、浅野 均**

**基本情報**

**年次：2**

**単位数：4**

**授業形式：実習**

**曜時：前期(実習)、後期(実習)**

**履修可能学科・専攻：GN**

**関連資格：**

**AL要素：** 01.実地訓練  
07.発表  
11.討論  
15.レポート指導

**授業の概要：** 慢性疾患をもつ人々を看護する場において、サブスペシャリティとして選択した領域を中心にスーパーバイザーの指導を受けながら、包括的アセスメントを実施し、患者と家族の状況を含めた実習計画の企画、実施、評価を行い専門的な看護実践を展開する。また、専門看護師として看護技能の向上するに向けて必要な6つの役割(卓越した実践、教育、相談、調整、研究、倫理)を体験的に理解し、事例検討などを通じてこれらを強化・開発する技能を培う。

**キーワード：** 包括的アセスメント 高度な看護実践能力(ケアとキュア) 多職種との連携

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標：** 慢性疾患をもつ人々を看護する場において、サブスペシャリティとして選択した領域を中心にスーパーバイザーの指導を受けながら、対象者とその家族の包括的アセスメントを実施する。慢性病者に対して、高度な支援を必要とする枠組みを捉え、専門的職種の選定と多職種間で目標値を統一する場を定め、患者と家族の状況を含めた実習計画の企画、実施、評価・運営を行い専門的な看護実践を展開する。病期や治療の場において、慢性病者の質の高い生活に向けた支援を実践する際には、倫理観を備えたケアとキュアを統合させた高度な知識と看護技能を習得する。  
また、専門看護師に求められる卓越した実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整について実践を通して学び、新たな看護方法の開発を目指し、慢性疾患看護専門看護師の役割について理解を深める。

**評価方法：** 実習計画書

**評価割合：60%**

実習記録  
カンファレンス  
プレゼンテーション  
課題レポート

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 実習先医療施設の専門看護師が所属するチームに参加し、具体的な援助対象者を設定し、専門看護師に求められる6つの役割を含む実習を行う。実施した看護支援や連携、調整内容などの実践を振り返り、慢性疾患看護専門看護師として実践すべく課題を明確にする。

**評価方法:** 実習計画書

**評価割合:** 30%

実習記録  
カンファレンス  
プレゼンテーション  
課題レポート

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

実習目標達成に向けた実習の取り組み方(態度・姿勢)やスタッフとの調整、実習記録等の情報をもとに高度な看護実践能力を獲得する学習者としての自覚と責任をもち行動することができるかどうか評価する。毎週末には計画・実施・評価の振り返りを行い、実習課題の到達度についての振り返りを行い、次週に向けた実習目標の到達度を実習指導者・教員とともに確認し、次週に向けての課題を明確にできる。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

#### 授業計画: 【実習内容・実習計画】

\*詳細は実習要綱を参照

サブスペシャリティとして選択した領域を中心に、専門看護師の視点から専門的役割を強化・開発する技能を培う。また、慢性看護の理念や質の高い最新の研究を実践に活用し、評価する。

- 1)サブスペシャリティとして選択した領域を中心に、複雑な問題を抱えた慢性病患者とその家族に対して包括的アセスメントに基づいた看護支援計画を立案する。
- 2)医学的診断や治療経過における治療環境の調整、身体的ケア、心理的ケアを含めた意思決定支援への対応を含め、慢性病患者のその人らしさを重視した看護実践を展開する。
- 3)その人らしい生活を理解した上で、入院環境や退院先についての環境調整を多職種や地域と連携して計画、実施する。
- 4)長期的な療養生活を見据えた教育、指導的関わりを計画、実施する。
- 5)退院後は外来や地域において定期的に患者と関わり、継続的な支援を実施する。
- 6)常に援助計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向けた実習計画の修正を行う。
- 7)毎週末には計画・実施・評価の振り返りを行い、実習課題の到達度についての振り返りを行い、次週に向けた実習目標の到達度を実習指導者・教員とともに確認する。
- 8)実習での実践内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究それぞれの視点

から実習報告書を作成する。

#### 【実習期間・計画】

2年次、4～7月中とし、学生の実習目標に応じた期間の実施とする。

\*詳細は実習要綱を参照

#### 【指導体制】

1)慢性疾患看護専門看護師として、糖尿病・循環器・脳卒中などの専門領域の認定を受け、外来・一般病棟・地域包括病棟・地域連携室などで看護を実践している臨床指導者。また、専門的な看護支援に長けている指導者。

2)病院内・施設での教育担当長を担う内科専門医の資格を持つ医師。

3)慢性疾患看護学を教授する教員。

#### 【実習施設】

未定

**使用テキスト：** 特論や演習で使用したテキストを参考図書とする。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 主体性を持ち、自身が学ぶべき計画を遂行できるよう事前・事後学習を行うことを勧める。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項：** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

---

---

**科目コード：**81069

**科目ナンバリング：**

**主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**慢性看護学実習Ⅲ

**担当者：**原島 利恵、前田 和子、浅野 均

#### 基本情報

**年次：**2

**単位数：**4

**授業形式：**実習

**曜時：**前期(実習)、後期(実習)

**履修可能学科・専攻：**GN

**関連資格：**

**AL要素：**01.実地訓練

07.発表

11.討論

15.レポート指導

**授業の概要：** 慢性病者の医療、看護の実践経験をもつ看護師、医師、および大学教員の指導のもと、病院から地域で療養生活を営む慢性病者を支援する実習を行う。慢性疾患をもつ人々を看護する場において、スーパーバイザーの指導を受けながら、生活の質重視の観点から求められる、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、場に応じた実戦内容について多職種の協働も含め継続した支援内容を学ぶ。また専門看護師に求められる、教育、相談、調整、倫理調整について、地域社会での必要な調整の方法を根拠立てて具体化する。

**キーワード：** 慢性病者の支援(地域) 療養生活の質(地域社会) 専門看護師の役割機能 多職種との連携・調整(協働力)

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 慢性病者の基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、実践を通して学ぶ。また、治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策



について具体かできる力を養う。

**評価方法:** 実習計画書  
実習記録  
カンファレンス  
プレゼンテーション  
課題レポート

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 1)医療を提供する場において、必要なフィジカルアセスメントの内容を選定し、実施できる。  
2)アセスメント実施後の評価について指導のもと適切な判断について根拠立てて説明できる。  
3)さまざまな病期における慢性病者の医学的判断・評価・薬物療法や医療処置の管理の根拠となる視点を実践から学び系統立てて整理できる。慢性病者のその人らしさを捉え、生活の質を高めるための医学的判断や薬剤調整についての支援内容を検討できる。  
5)前項で整理した支援内容について、スムーズに多職種と調整するための手続きを計画でき、実践に臨めるよう準備を行い展開できる。  
6)慢性病者の場に応じた質の高い医療支援について、多職種との連携内容を実践から学び、看護職としての専門的内容を整理し、多職種との協働への具体的方策を計画できる。  
7)各実習場での課題を整理し、慢性病者の質の高い生活を維持するために病院内外における専門的な教育的関わりの具体策を検討できる。

**評価方法:** 実習計画書  
実習記録  
カンファレンス  
プレゼンテーション  
課題レポート

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

実習目標達成に向けた実習の取り組み方(態度・姿勢)やスタッフとの調整、実習記録等の情報をもとに高度な看護実践能力を獲得する学習者としての自覚と責任をもち行動することができているかどうか評価する。毎週末には計画・実施・評価の振り返りを行い、実習課題の到達度についての振り返りを行い、次週に向けた実習目標の到達度を実習指導者・教員とともに確認し、次週に向けての課題を明確にできる。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、実習中の発言や記録物の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

#### 授業計画: 【実習内容・実習計画】

\* 詳細は実習要綱を参照

基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、病院から地域・在宅への連携するシステムを理解し、発症から死に至るまでの変化を患者・家族の状況を受け止め、対象の生活の質重視を基本とした看護実践能力を養う。

1)急性期医療を提供する医療施設の病棟、総合内科外来、地域の内科専門クリニックを受診する患者を受け持ち、慢性病の経験の豊富な医師及び、高い専門性を持つ看護師の指

導のもと、包括的アセスメントを実践する。

2)慢性病者の状態を適切に評価するための方法を習得し、臨床判断にいたるまでの思考過程について、医師、看護師との協議を通して理解を深める。

3)外来診療において、慢性病をもつ人の生活状況に合わせた医療処置や薬剤調整・管理を含めた治療内容について医師の指導のもと支援方法について理解を深め、よりよい支援内容を検討する。

4)複雑な状態にある慢性病をもつ人への、質の高い看護実践として身体・精神的支援、経済的な支援として全人的なアプローチを含めた援助計画の立案と看護実践・評価を実施する。

5)病院内で開催されている専門的チームの活動、多職種との連携を学び、慢性疾患看護先音看護師として実践すべくチーム医療の実践的な役割を考える。

6)実習目標の達成に向け、自らスーパーバイザーへの連絡・調整を行い、様々な困難事例の解決に向けた対処行動がとれるよう実践的視野を広げ活動する。

#### 【指導体制】

1)慢性疾患看護専門看護師として、糖尿病・循環器・脳卒中などの専門領域の認定を受け、外来・一般病棟・地域包括病棟・地域連携室などで看護を実践している臨床指導者。また、専門的な看護支援に長けている指導者。

2)病院・施設の教育担当長を担う内科専門医の資格を持つ医師3)慢性疾患看護学を教授する教員

#### 【実習期間・計画】

2年次、後学期間中とし、学生の実習目標に応じた期間の実施とする。

\*詳細は実習要綱を参照

#### 【実習課題】

・実習は、目標達成に向けて1日ごとに行動計画を立案し、日々の記録を基に課題を明確にし、後日の実習へ活かす。

・レポートでは、実習中に経験できた場面から、専門看護師の役割(実践、教育者、相談、調整、研究、倫理など)を具体的に記述し、指導者との議論を通して問題点や課題、自己能力の強化・開発が必要な点を明らかにする。

#### 【実習施設】

未定

**使用テキスト:** 特論や演習で使用したテキストを参考図書とする。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 主体性を持ち、自身が学ぶべき計画を遂行できるよう事前・事後学習を行うことを勧める。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項:** 慢性看護CNSコースの学生は、必ず履修する。

---

科目コード:81070

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語、英語

授業名(英文):急性期看護学援助特論III

担当者:大内 玲、山田 亨

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻:GN

**関連資格：****AL要素：** 04.課題解決  
07.発表  
08.協同学修  
15.レポート指導**授業の概要：** クリティカルな状況にある患者の病態生理・病理学的な変化と必要な治療・処置を理解し、回復の促進に向けて、ケアとキュアを融合させた看護実践を行うためのアセスメント、高度実践について修得する。

上記目的を達成するために、クリティカルな状況にある患者の病態生理・病理学的な変化と必要な治療・処置に関する理解を深め、高度実践看護師として、クリティカルケア治療・療養環境をマネジメントする力を学修する。それにより患者・家族の回復の促進に向けて、ケアとキュアを融合させた看護実践を行うために必要な臨床判断力の獲得を目指す。文献レビューを行い学生がプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関し教員を含めてディスカッションを行う。

**キーワード：** クリティカルケア、ケアとキュアの融合、援助関係論、PICS-F**学位授与方針との関係****▼知識・技能****到達目標：** ・クリティカルな状況にある患者の病態生理・病理学的な変化と必要な治療・処置に関して理解できる  
・高度実践看護師として、クリティカルケア治療・療養環境をマネジメントする力修得できる  
・上記の修得により、患者・家族の回復の促進に向けて、ケアとキュアを融合させた看護実践を行うために必要な臨床判断力の獲得できる。**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・レポート**評価割合：** 100%**▼思考力・判断力・表現力****到達目標：** 「思考力・判断力・表現力」の評価は知識・技能の到達目標と合わせて評価を行う**評価方法：** 上記評価**評価割合：** 0%**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション・レポート等の記述内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合：** 0%**▼その他**

特になし

**評価割合：** 特になし**授業計画：** 【第01回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践1  
急性呼吸不全患者・家族への看護

- 【第02回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践2  
人工呼吸療法中の患者・家族への看護
- 【第03回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践3  
多臓器不全・ショック状態にある患者・家族への看護
- 【第04回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践4  
循環補助装置(IABP/ECMO/VAD)による治療中の患者・家族への看護
- 【第05回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践5  
急性脳機能不全患者・家族への高度看護実践
- 【第06回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践6  
心肺蘇生後の患者・家族への高度看護実践
- 【第07回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践7  
せん妄状態にある患者・家族への看護実践
- 【第08回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践8  
急性腎不全に伴う透析療法中の患者・家族への看護実践
- 【第09-10回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践9  
対人関係論・援助関係論(関係構築とコミュニケーション)
- 【第11-12回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践10  
急性・重症疾患治療と並行して行われるEnd of life care(疾病予後予測含む)
- 【第13-14回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践11  
家族システムと機能:家族看護論概論、Family centered careと看護の役割、Post-Intensive Care syndrome-Familyの概論と予防・看護介入
- 【第15回】クリティカルな状況にある患者・家族への高度看護実践12  
ケアとキュアが融合した看護実践の探究:事例検討

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

**予習・復習のポイントと** 適宜、指示する。

**参考文献・資料等:**

- ・Study of Patient-Nurse Effectiveness with Assisted Communication Strategies (SPEACS-2)プログラム{<http://nucleus.con.ohio-state.edu/media/speacs2/speacs.htm>}
- ・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER
- ・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカルケア看護援助に関する科目I」(2単位)に相当する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。

**科目コード:** 81071

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語、英語

**授業名(英文):** 急性期看護学演習Ⅲ

**担当者:** 大内 玲、山田 亨

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜3限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

- AL要素:** 04.課題解決  
07.発表  
08.協同学修  
15.レポート指導

**授業の概要：** クリティカルな状況にある患者・家族を総合的に理解し、医学的治療ならびに療養生活における個人の選択・意思決定や倫理的な課題に対し、患者・家族を中心とした医療を実現するための介入・援助についての実践力を修得する

上記目的を達成するために、クリティカルな状況にある患者・家族の特性および全体像を捉え、医学的治療ならびに療養生活における個人の選択・意思決定や倫理的な課題に対し現実的で実践的な課題解決方法を検討する。これには個対個の援助のみならず、チーム医療およびシステム論的な観点から、患者・家族の倫理的な課題を解決する方法を模索することも含まれている。本授業は、【5-8回】、【11-14回】、【17-20回】は各1日、意思決定支援や倫理的な課題を解決するための援助方法に関する集中演習を病院集中治療室で行う。病院演習後、形成された課題をもとにしたProblem Based Learningを学内のゼミ形式で行う。学内外の演習において、大学教員、高度実践看護師とのディスカッションを通じ、治療の選択や意思決定支援に伴う複雑な問題を解決するための実践的、かつ具体的方法について検討する。

**キーワード：** クリティカルケア における医療倫理、代理意思決定

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** ・クリティカルな状況にある患者・家族を総合的に理解し、医学的治療ならびに療養生活における個人の選択・意思決定や倫理的な課題を理解できる  
・クリティカルな状況にある患者・家族を中心とした医療を実現するための介入・援助についての実践力を修得することができる

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義・演習で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる

**評価方法：** ・プレゼンテーション  
・レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし臨床実践により深められた知見等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動・不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第01-02回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助

### 意思決定支援

- 【第03-04回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
倫理調整と患者の権利擁護・倫理指針
- 【第05-06回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
患者の理解、選択と意思決定を支える看護1
- 【第07-08回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
患者の理解、選択と意思決定を支える看護2
- 【第09-10回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
ケーススタディ1 (EBN含む)
- 【第11-12回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
高度治療管理下にある患者家族に生じやすい倫理的問題1
- 【第13-14回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
高度治療管理下にある患者家族に生じやすい倫理的問題2
- 【第15-16回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
ケーススタディ2 (EBN含む)
- 【第17-18回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
家族の理解、代理意思決定を支える看護1
- 【第19-20回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
家族の理解、代理意思決定を支える看護2
- 【第21-22回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
演習症例ケーススタディ3 (EBN含む)
- 【第23-24回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
臨床における倫理的問題に対する看護実践の分析と評価1
- 【第25-26回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
臨床における倫理的問題に対する看護実践の分析と評価2
- 【第27-28回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
演習症例ケーススタディ4 (EBN含む)
- 【第29-30回】クリティカルな状況にある患者・家族への総合的理解と倫理調整・看護援助  
倫理的課題に対する看護実践上の課題の探究

**使用テキスト:** 適宜、指示する。

- ・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER
- ・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS
- ・DVD 医療倫理 命は誰のものか 丸善出版株式会社

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 適宜、指示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「クリティカルケア看護援助に関する科目II」(2単位)に相当する。履修する順序性は受講生と相談の上、変更する場合もある

---

**科目コード:** 81072      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 急性期看護学演習IV

**担当者:** 大内 玲、山田 亨、福井 美和子

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜4限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 03.実験・実技・体験  
04.課題解決  
07.発表

**授業の概要：**救命・救急看護における専門性ならびに看護ケアの専門性についての実践力を養う。これには、感染看護・教育・安全管理など看護ケアの専門性の高い実践力を養うことも含まれ、また科学的根拠に基づく質の高い看護ケアを探究するために講義・討議・演習を通して相談・調整・システム構築について学修する。

上記目的を達成するために、救命・救急看護における専門性ならびに看護ケアの専門性についての実践力を養う。科学的根拠に基づく質の高い看護ケアを探究するために講義・討議・演習を通して相談・調整・システム構築について教授する

**キーワード：** 救急看護、トリアージ、クリティカルケア におけるチームビルディング・感染管理

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：**・救命救急治療管理を必要とする患者に起こる各疾患の病態に対する処置・治療、合併症管理・モニタリング方法・薬物療法について理解できる  
・救命救急治療管理を必要とする患者のケアに必要なとされるトリアージ、チームビルディングと教育、安全管理と感染制御方法について理解できる

**評価方法：**・課題レポート **評価割合：60%**  
・演習への参加状況(演習、質疑応答、ディスカッション参加度等を総合的に評価)

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 演習で扱った内容について、高度実践看護師として、危機的状況にある患者・家族が最善の医療を受けるための必要な知識を理解し、救命救急治療・療養環境を管理するための方法を考察することができる。

**評価方法：**・課題レポート **評価割合：40%**  
・演習への参加状況(演習、質疑応答、ディスカッション参加度等を総合的に評価)

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって、自身の知見に追加された成果等がプレゼンテーション等の内容により認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること

**評価割合：0%**

## ▼その他

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：**直接的な評価対象とはしない。

**授業計画：**【第01-07回】救命救急における高度看護実践

- ・救命救急治療管理を受ける患者・家族の初期対応とトリアージ1:第1回
- ・救命救急治療管理を受ける患者・家族の初期対応とトリアージ2:第2回
- ・救命救急を受ける自殺企図患者・家族の高度看護実践:第3回
- ・マイナーエマージェンシーと高度看護実践:第4回
- ・プレホスピタルと高度看護実践:第5回
- ・救急救命施設における災害医療と高度看護実践:第6回
- ・救命救急を受ける熱傷患者・家族の高度看護実践:第7回

【第08-12回】循環器系疾患の救命救急治療と高度看護実践

- ・救命救急治療を受けるCPA患者・家族の高度看護実践:第8回
- ・救命救急治療を受ける心不全患者・家族の高度看護実践:第9回
- ・救命救急治療を受ける急性心筋梗塞患者・家族の高度看護実践:第10回
- ・救命救急において補助循環を必要とする患者・家族の高度看護実践1:ECMO等:第11回
- ・救命救急において補助循環を必要とする患者・家族の高度看護実践2:IABP等:第12回

【第13-15回】救命救急における外来緊急手術と高度看護実践

- ・救命救急において緊急手術患者・家族の高度看護実践1:多発外傷と手術:第13回
- ・救命救急において緊急手術患者・家族の高度看護実践2:循環器系緊急手術:第14回
- ・救命救急において緊急手術患者・家族の高度看護実践3:急性腹症と緊急手術:第15回

【第16-19回】脳神経系疾患の救命救急治療と高度看護実践

- ・救命救急治療を必要とする慢性神経系疾患急性増悪患者・家族の高度看護実践:第16回
- ・救命救急治療を必要とする意識障害・痙攣重責の高度看護実践:第17回
- ・救命救急治療を必要とする脳卒中患者・家族の高度看護実践:脳梗塞:第18回
- ・救命救急治療を必要とする脳卒中患者・家族の高度看護実践:脳出血:第19回

【第20-29回】救命救急看護の看護ケアの専門性を促進させる実践力の形成

- ・救命救急領域(外来含む)における教育(第20-21回)
- ・救命救急領域(外来含む)におけるチームビルディング(第22-23回)
- ・救命救急領域(外来含む)における安全管理(第24-25回)
- ・救命救急領域(外来含む)における感染制御と予防1:特定感染症(第26-27回)
- ・救命救急領域(外来含む)における感染制御と予防2:院内感染対策(第28-29回)

【第30回】まとめ

**使用テキスト：** 適宜指示する。

- ・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER
- ・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS
- ・フィリップ・バタラヴォリ(著)、スティーヴン・M.レフラー(著)、マイナーエマージェンシー 原著第3版

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 適宜指示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項：** 本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「クリティカルケア看護援助に関する科目IV」(2単位)に相当する。

---

科目コード:81073      科目ナンバリング:      主な使用言語:日本語

授業名(英文): クリティカルケア看護学実習I

担当者: 大内 玲

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:実習



**曜時：前期(実習)、後期(実習)**

**履修可能学科・専攻：GN**

**関連資格：**

**AL要素：** 03.実験・実技・体験  
04.課題解決  
07.発表  
など

**授業の概要：** クリティカルケア領域において集中的かつ高度な治療を要する患者に特有の治療・処置および診断プロセスについて理解を深める。クリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、専門的知識、研究や理論の臨床応用を含むクリティカルシンキング、臨床判断(clinical judgment)、必要なケア・処置を行う能力などの自律した看護実践能力を習得する。また、チーム医療における高度実践看護師の果たすべき役割について検討する

上記目的を達成するため、クリティカルケア看護専門看護師の指導を受けながら、救急・集中治療領域における臨床現場において、救急・集中治療を専門とする医師の診療に同行し、呼吸・循環管理をはじめとした全身管理に関する病態生理・疾病治療について、ティーチング・ディスカッションを通して、高度実践看護師としての臨床判断能力を養う。さらに医師の診断・治療プロセスを理解することでチーム医療における高度実践看護師の果たすべき役割について検討する

**キーワード：** クリティカルケア、臨床判断

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. クリティカルケア領域における呼吸・循環管理をはじめとした全身管理および、急性疾患の病態生理・疾病治療について、説明することができる。
  2. クリティカルケア領域における呼吸・循環管理をはじめとした高度実践看護師としての臨床判断能力を習得する。
  3. クリティカルケア領域において必要なケア・処置を行う能力などの自律した看護実践を行うことができる。
  4. 医師の診断・治療プロセスを理解し、チーム医療における高度実践看護師の果たすべき役割について説明することができる。

**評価方法：** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合：100%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価方法：** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合：0%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：0%**

#### ▼ 実践的ボランティア

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：0%**

## ▼その他

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：実習であり複合的な能力を問われ**

- 授業計画：**
- 1.実習期間 2週間程度、目的を達成するまで
  - 2.実習方法
    - 1)救急ケア部門・集中ケア部門においてク集中治療を専門とする医師の診療に同行し、呼吸・循環管理をはじめとした全身管理に関する病態生理・疾病治療について、ティーチング・ディスカッションを通して、高度実践看護師としての臨床判断能力を養う
    - 2)適切なクリティカルケアを医療チームで提供するために受け持ち患者についてチームメンバー（医師・看護師・理学療法士等）と共有・検討する場を設定し、調整・相談・教育のニーズをアセスメントする。
    - 3)実習中実習記録、実習終了後にケースレポートを作成する。また、学生は、実習の各段階で自己課題を設定し、達成度を自己評価する。実習後、実習全体を報告するレポートを提出する。
  - 3.実習指導体制  
実習指導責任者は、クリティカルケア看護学を専門とする大学教員で、実習施設の救急・集中治療を専門とする医師と連携・協力して指導にあたる。
  - 4.実習施設と実習指導者  
クリティカルケアCNS が活動する高度医療施設  
・筑波メディカルセンター病院：福井美和子  
・東邦大学医療センター大森病院：山田亨  
・亀田総合病院：飯塚裕美  
\* 学生の居住地、専門小領域等を考慮して検討する

**使用テキスト：** 適宜提示する。  
・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER  
・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 急性期看護学特論および演習で使用した文献、その他、適宜、紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項：** 実習予定時期は1年次 後期：2～3月を予定しているが、前後することがある。  
本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目である。

---

科目コード：81074      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：クリティカルケア看護学実習II

担当者：大内 玲

### 基本情報

年次：2

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験  
04.課題解決  
07.発表  
など

**授業の概要：** クリティカル期およびポスト・クリティカル期にある患者と家族のケアを行う部署において実習

をおこなう。複雑な病態ならびに対応が困難である患者・家族を受けもち、治療への反応をふまえた看護実践を行う。また、クリティカルな状況にある患者のケアにかかわる家族、看護職、他職種などに対する調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能を学習する。上記実習を通じ、クリティカルケアにおける高度実践専門師の役割について、深く考察し自己の課題を見出す。

上記目的を達成するため、クリティカルケア看護専門看護師の指導を受けながら、クリティカル期およびポスト・クリティカル期にある患者と家族の倫理的問題に対する医療の特性と課題、高度な看護実践、調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の必要性とあり方、高度実践専門師の役割について学修し、深く考察する。

**キーワード：** クリティカルケア、臨床判断

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1. クリティカル期およびポスト・クリティカル期にある患者と家族の複雑な病態ならびに治療への反応、患者と家族の抱える課題について説明できる。  
2. クリティカルな状況にある患者のケアにかかわる家族、看護職、他職種などに対する調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能を説明できる。  
3. 高度な看護実践、調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の必要性とあり方などクリティカルケアにおける高度実践専門師の役割について、深く考察し自己の課題を見出すことができる。

**評価方法：** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合：** 50%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価方法：** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合：** 実習であり複合的な能力を問われ

**授業計画：** 1. 実習期間 3週間程度、目的を達成するまで

#### 2. 実習方法

1) 高度なアセスメント、実践力の修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を熟考の上、実習要項に基づき計画書を作成し、実習を行う。

- 2)クリティカル期およびポスト・クリティカル期にあるならびに対応が困難である患者・家族を受けもつ
- 3)重症・集中治療を受ける患者と家族に対して、治療への反応をふまえた高度看護実践をする
- 4)専門看護師の高度実践、リフレクションにより自己の実践力を磨く。
- 5)日々の実践内容を実習記録、ケースレポートに的確に表現する。
- 6)適宜、チームメンバー(医師・看護師・理学療法士等)と共有・検討する場を設定し、専門看護師または専門看護師相当の看護職と指導教員と共に、看護実践について評価・検討会を行う。
- 7)実習を通して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を明確にする。
- 8)実習中実習記録、実習終了後にケースレポートを作成する。また、学生は、実習の各段階で自己課題を設定し、達成度を自己評価する。実習後、実習全体を報告するレポートを提出する。

### 3.実習施設と実習指導者

クリティカルケアCNS が活動する高度医療施設

- ・東邦大学医療センター大森病院:山田亨
- ・亀田総合病院:飯塚裕美
- ・埼玉医科大学国際医療センター:新山和也
- \*学生の居住地、専門小領域等を考慮して検討する

**使用テキスト:** 適宜提示する。

- ・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER
- ・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 急性期看護学特論および演習で使用した文献、その他、適宜、紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 実習予定時期は2年次 前期:6~7月を予定しているが、前後することがある。  
本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目である。

**科目コード:** 81075      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** クリティカルケア看護学実習Ⅲ

**担当者:** 大内 玲

#### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 5

**授業形式:** 実習

**曜時:** 前期(実習)、後期(実習)

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 03.実験・実技・体験  
04.課題解決  
07.発表  
など

**授業の概要:** クリティカルケア看護専門看護師の指導を受けながら、講義、演習、実習I・IIによる学習を統合し、クリティカルケア看護(クリティカル期、ポスト・クリティカル期、急性期リハビリテーションケア)における専門看護実践に必要な1)直接的な看護実践、2)ケア提供者に対するコンサルテーション、3)コーディネーション、4)倫理調整、5)教育的機能、6)研究(Quality

Improvement)の能力を総合的に育成し、これらの能力と機能を使って、患者/家族、看護師、システムに働きかけ、患者、家族のアウトカムを最適化する高度看護実践の具体的方法について検討する。各関心領域に応じて実習内容を追加する(例えば、救急外来では、初療での対応やトリアージなども行う)。本実習は、臨床実践に近い形態をとり2名以上の患者を同時に受け持ちながら実習を行い、また、患者のクリティカル期、ポスト・クリティカル期、急性期リハビリテーションケアを、縦断的に時間経過を追って実習を行う。さらに実習を通して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を明確にする。

**キーワード:** クリティカルケア、臨床判断

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 1. 講義、演習、実習I・IIによる学習を統合し、クリティカルケア看護(クリティカル期、ポスト・クリティカル期、急性期リハビリテーションケア)における専門看護実践に必要な1)直接的な看護実践、2)ケア提供者に対するコンサルテーション、3)コーディネーション、4)倫理調整、5)教育的機能、6)研究(Quality Improvement)の能力を総合的に育成し、これらの能力と機能を使って、患者/家族、看護師、システムに働きかけ、患者、家族のアウトカムを最適化する高度看護実践の具体的方法について検討することができる。  
2. 各関心領域に応じて実習内容を追加し、サブスペシャリティーにおける高度実践看護師としての必要な能力を習得することができる。

**評価方法:** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合:** 100%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価方法:** クリティカルケア看護学実習 実習要綱に従い評価を行う。 **評価割合:** 0%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合:** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合:** 0%

### ▼ 公正性

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合:** 0%

### ▼ その他

実習であり複合的な能力を問われる。また評価枠組みに合わせた分割が不可能な能力も存在するため『知識・技能』と合わせて評価を行う。

**評価割合:** 実習であり複合的な能力を問われ

**授業計画:** 1. 実習期間4週間程度、目的を達成するまで

#### 2. 実習方法

- 1) 自己の関心領域において、高度なアセスメント、実践力の修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を熟考の上、実習要項に基づき計画書を作成する
- 2) 計画をもとに重症集中治療を受ける患者と家族のケアを行う臨地で複雑多岐にわたる病態ならびに対応が困難な患者を受け持ち、治療への反応に対する高度なアセスメントを踏

また看護実践を行う。

- 3) 臨床実践に近い形態をとり2名以上の患者を同時に受け持ちながら実習を行う。
- 4) 患者のクリティカル期、ポスト・クリティカル期、急性期リハビリテーションケアを、縦断的に時間経過を追って実習を行う。
- 5) 家族への関わりを踏まえ、フレキシブルな実習時間とする
- 6) 日々の実践内容を実習記録に的確に表現し、リフレクションにより自己の実践力を磨く。
- 7) 適宜、チームメンバー(医師・看護師・理学療法士等)と共有・検討する場を設定し、専門看護師または専門看護師相当の看護職と指導教員と共に、看護実践について評価・検討会を行う。
- 8) 実習終了後にケースレポートを作成する。また、学生は、実習の各段階で自己課題を設定し、達成度を自己評価する。実習後、実習全体を報告するレポートを提出する。
- 9) クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を見出す。
- 10) 実習中実習記録、実習終了後にケースレポートを作成する。また、学生は、実習の各段階で自己課題を設定し、達成度を自己評価する。実習後、実習全体を報告するレポートを提出する。

#### 4.実習施設と実習指導者

クリティカルケアCNS が活動する高度医療施設

・東邦大学医療センター大森病院:山田亨

・亀田総合病院:飯塚裕美

・埼玉医科大学国際医療センター:新山和也

\*学生の居住地、専門小領域等を考慮して検討する

**使用テキスト:** 適宜提示する。

・Ann B. Hamric「ADVANCED PRACTICE NURSING」ELSEVIER

・Mary G. McKinley「Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialist」SANDERS

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 急性期看護学特論および演習で使用した文献、その他、適宜、紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

**留意事項:** 実習予定時期は2年次 後期:9~10月を予定しているが、前後することがある。  
本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目である。

---

**科目コード:** 81076      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 慢性看護学演習I

**担当者:** 浅野 均、原島 利恵、前田 和子、石原 未幸

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 水曜5限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:**

**AL要素:** 05. 即時応答  
07. 発表  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 慢性病をもつ人や家族も含めた、さまざまな病期・治療環境に対応するうえでの身体面・心理面・社会面を含めた包括的なアセスメント技能を習得する。慢性病をもつ人々のさまざまな

病期における身体面・心理面・社会面を含めた包括的アセスメント技術の習得および、慢性疾患をもつ人々とその家族への支援の実施と評価を通して、患者・家族を支援するための専門的看護方法を学ぶ。

**キーワード：** 包括的アセスメント技術 家族支援

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 慢性疾患をもつ人々のさまざまな病期における身体面・心理面・社会面を含めた包括的アセスメント技術の習得および、慢性疾患をもつ人々とその家族への支援の実施と評価を通して、患者・家族を支援するための専門的看護方法を学ぶ。技術はシミュレーションを活用した内容を含め、セルフモニタリング等の自己管理についての専門的スキルを高めるための学修を深め実践力を獲得する。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：** 40%

課題レポート

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究や実践報告のレビューを行い、実践事例を用いた資料を基にプレゼンテーションを行い、議論することにより考察できる。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：** 30%

課題レポート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究や実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて積極的に議論することができる。

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

- 【第01・02回】慢性疾患をもつ人の生活を視点とした包括的なアセスメント
- 【第03・04回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 呼吸器・循環器症状
- 【第05・06回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 感覚器・消化器症状
- 【第07・08回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 脳神経症状
- 【第09・10回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 セルフモニタリング
- 【第11・12回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 がん性疼痛
- 【第13・14回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 自己概念 役割機能
- 【第15・16回】慢性疾患をもつ人の症状アセスメントの実際 せん妄
- 【第17・18回】慢性疾患をもつ人の家族アセスメントの実際 家族システムについての捉え方
  
- 【第19・20回】慢性疾患をもつ人の家族アセスメントの実際 家族エンパワーメントモデル
  
- 【第21・22回】慢性疾患をもつ人の身体・心理・社会面アセスメントの実際：サブスペシャリティ領域での症状に対するアセスメントの実施

- 【第23・24回】様々な病期にある慢性病を持つ人とその家族を含めた包括的アセスメント：  
サブスペシャリティ領域での包括的アセスメントを用いた事例検討
- 【第25・26回】様々な病期にある慢性病を持つ人とその家族を含めた包括的アセスメント：  
サブスペシャリティ領域での包括的アセスメントを用いた事例を用いた医療  
施設内における技術の展開
- 【第27・28回】様々な病期にある慢性病を持つ人とその家族を含めた包括的アセスメント：  
サブスペシャリティ領域での包括的アセスメントを用いた居宅における技術  
の展開
- 【第29・30回】様々な病期・療養の場で生活される慢性病をもつ人の包括的アセスメント  
技法の開発に向けた課題と展望

**使用テキスト：** 講義中に参考文献を適宜紹介する。

- ・Lubkin,I.M.Larson,P.D. 編;黒江ゆり子監訳(2007):クロニクイルネス 人と病いの新たな  
なかかわり, 医学書院.
- ・篠崎郁(2012):フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版), Gakken.
- ・小野田千枝子, 高橋照子, 芳賀佐和子(2008):実践!フィジカル・アセスメント-看護者として  
の基礎技術, 金原出版.
- ・リチャード・S. ラザルス, スーザン フォルクマン 著, 本明寛 監訳(2005):ストレスの心  
理学-認知的評価と対処の研究, 実務教育出版.
- ・野嶋佐由美監修, 中野綾美編集(2005):家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へる  
す出版.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** これまでの講義内容を踏まえ、演習に臨むことを勧める。演習のテーマをもとに、文献検索を  
行いディスカッションの準備をしておくことが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室等で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。  
遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

**留意事項：** 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修する。

**科目コード：** 81077      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 慢性看護学演習II

**担当者：** 浅野 均、原島 利恵、金井 千晴、岡 美智代

**基本情報**

**年次：** 1

**単位数：** 2

**授業形式：** 演習

**曜時：** 前期(火曜2限)、後期(火曜2限)

**履修可能学科・専攻：** GN

**関連資格：**

- AL要素：** 01. 実地訓練  
05. 即時応答  
06. 遠隔交流  
07. 発表  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 慢性病の様々な変化する時期(発症予防から死に至るまで)に対応した慢性病患者とその家族  
への専門的支援技術について評価を含めた実践内容を学修する。また、慢性病をもつ人の  
治療療養環境(病棟・外来・地域・居宅など)、および地域支援についてよりよい方法を検討  
し、質の高い生活に向けて調整する方策を探求する。

**キーワード：** 慢性病患者 家族 専門的支援技術 治療療養環境 地域支援

**学位授与方針との関係**



## ▼ 知識・技能

**到達目標:** 慢性病をもつ人のその人らしさの強みをいかした生活を維持するために、複雑な状態への対応力を強化するためにケアとキュアを統合した看護支援技術(症状マネジメント、健康学習支援を中心とした)を獲得する。また、治療環境における医療の質保証と安全や、家族支援や地域支援における調整について検討する。

**評価方法:** 事前課題

**評価割合:** 40%

プレゼンテーション

課題レポート

## ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業はゼミ形式で、学生自ら先端的な知識を入手し、先行研究や実践報告のレビューを行うとともに、実践事例を用いて議論する。

**評価方法:** プレゼンテーション

**評価割合:** 30%

レポート

## ▼ 学修に主体的に取り組む態度

専門看護師の先駆的な実践例を通して学生自ら積極的に議論を深め、支援技術の開発を検討する。

**評価割合:** 30%

## ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

## ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、プレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

**評価割合:** 0%

## ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【第01・02回】慢性病をもつ人のさまざまな変化する時期に対応する支援技術: 予防から看取り  
までの時期における支援内容と評価方法の実際  
【第03・04回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践: 慢性者特有の解決困難な状況に対する事  
例から見るアドボカシーと意思決定支援  
【第05・06回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践: 各病期における痛みに関する症状  
マネジメント、がんリハビリテーション支援  
【第07・08回】慢性病をもつ人の療養環境および地域支援などの調整: 患者会・家族会の現状と  
支援  
【第09・10回】慢性病をもつ人の療養環境および地域支援などの調整: がん患者会・家族会への  
支援の実際<フィールドワーク>  
【第11・12回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践: 健康学習支援 動機づけ面接法  
チェイ  
ンジトーク・質問  
【第13・14回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践: 動機づけ面接法 傾聴、情報提供  
【第15・16回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践: セルフマネジメント促進プログラム～

概

要・計画

【第17・18回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践:セルフマネジメント促進プログラム～計

画・実践

【第19・20回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践:セルフマネジメント促進プログラム～評

価・報告・まとめ

【第21・22回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践、療養環境および地域支援などの調整:

病棟・外来での症状マネジメントを含めた支援や調整

【第23・24回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践、療養環境および地域支援などの調整:

病院内外との多職種連携 退院支援カンファレンス

【第25・26回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践、療養環境および地域支援などの調整:

質の高い療養生活に向けての支援等の実際<フィールドワーク>

【第27・28回】慢性病をもつ人の看護支援技術の実践、療養環境および地域支援などの調整:質

の高い療養生活に向けての療養環境からみた支援や調整内容の検討

【第29・30回】慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて、看護支援技術の実践、治療・療養環境

や地域支援などを調整する方策

**使用テキスト:** 演習中に参考文献を適宜紹介する。

- ・岡 美智代(著, 編集) (2018):行動変容をうながす看護 患者の生きがいを支えるEASEプログラム, 医学書院.
- ・ステファン・ロールニック, ウィリアム・R・ミラー著, 後藤恵監訳 (2010):動機づけ面接法 実践入門, 星和書店.
- ・坪倉繁美責任編集 (2010):具体的なジレンマからみた看護倫理の基本, 医学芸術社.
- ・鶴若麻理,長瀬雅子(2018):看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ,第1版, 日本看護協会出版会.
- ・宇都宮宏子, 山田雅子編(2014):看護がつながる在宅療養移行支援 病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント, 日本看護協会出版会.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** これまでの講義や演習で既習し、学習した内容を整理して主体的に臨んで下さい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。遠隔での対応も可能ですので、必ずアポイントメントをとるよう心がけてください。

**留意事項:** 慢性看護CNSコースの学生は必ず履修すること。

---

科目コード:81078

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 養護実践特論I

担当者: 松永 恵

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格: 教職

AL要素: 07発表  
11討論

**授業の概要:** 養護実践の理論化に貢献した著作に触れ、その過程を捉える。

養護教諭へのニーズは時代の健康課題によって変化し、健康課題は社会的背景によって変化するため、社会の動きと養護実践を関連づける思考も育てていきたい。

なお、本講義では、受講者が養護実践論に広く浅く触れることにより、講義終了後も興味のある実践論について更に読み進めたいというような意欲を高めることを期待している。具体的には、受講生は事前にテキストとして提示された論文を読み、当時の社会的背景を調べ、レジュメを作成する。授業では受講生のプレゼンテーションを受け、難解な部分は教員が解説した後、ディスカッションによる思考の整理を行いたい。

**キーワード：** 養護 実践 理論

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1 養護実践に関する論文を読み、著者の主張を説明することができる。  
2 1の論文が著された社会的背景と健康課題を説明することができる。

**評価方法：** 授業におけるプレゼンテーション **評価割合：** 30%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 3 養護実践がどのように理論化されてきたのかを説明することができる。

**評価方法：** 定期試験として行うレポート **評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

仲間のプレゼンテーションに対し、積極的に意見を述べ、議論することができる

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

特に評価しない

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

特に評価しない

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

なし

**評価割合：** なし

## 授業計画：

- 授業計画
- 第1回：養護の概念
  - 第2回：反省的实践
  - 第3回：養護実践の理論化の過程に触れる①広瀬ます
  - 第4回：養護実践の理論化の過程に触れる②葛西タカ
  - 第5回：養護実践の理論化の過程に触れる③杉浦守邦
  - 第6回：養護実践の理論化の過程に触れる④小倉学
  - 第7回：養護実践の理論化の過程に触れる⑤福田邦三
  - 第8回：養護実践の理論化の過程に触れる⑥飯田澄美子
  - 第9回：養護実践の理論化の過程に触れる⑦盛昭子
  - 第10回：養護実践の理論化の過程に触れる⑧養護教諭の相談を学ぶ会
  - 第11回：養護実践の理論化の過程に触れる⑨森田光子
  - 第12回：養護実践の理論化の過程に触れる⑩大谷尚子
  - 第13回：養護実践の理論化の過程を振り返る
  - 第14回：養護実践の理論化が進んできた際の社会的背景との関連を考える
  - 第15回：まとめ
- 定期試験

- 使用テキスト:** 図書館で取り寄せる必要があるため、早めに準備してください。
- ドナルド・ショーン: 支配的な実践的認識論, (佐藤学・秋田喜代美訳) 専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える, 19-38, 2001, ゆみ出版
  - 広瀬ます: 学校看護婦として過去二十余年間の私の追懐, (瀧澤利行・七木田文彦) 雑誌『養護／学童養護』1, 「養護」第二巻第二号, 18-23, 大空社, 2014
  - 佐藤貞二郎: 学校看護婦設置の今昔 燃ゆるが如き佐賀校長 情熱の賜物である我が校における, (瀧澤利行・七木田文彦) 雑誌『養護／学童養護』2, 「養護」第三巻第十号, 17-20, 大空社, 2014
  - 葛西タカ: 養護室記録, 長崎書店, 1942 (国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)
  - 杉浦守邦: 救急処置における養護教諭の専門性, 健康教室, 27(4), 31-48, 1976
  - 菊地寿江・小倉学: 養護教諭の教育的機能に関する研究—現職養護教諭の経験事例を中心に—, 健康教室, 27(2), 43-59, 1976
  - 福田 邦三: カウンセリング, 学校保健研究, 17(12), 551, 1975
  - 福田 邦三: 保健学における健康相談の立場, 学校保健研究, 17(12), 552-558, 1975
  - 飯田澄美子: スーパービジョン, 学校保健研究, 14(12), 552-559, 1972
  - 盛昭子: 救急処置における児童のヘルス・ニーズの明確化について, 26(1), 9-14, 学校保健研究, 1984
  - 養護教諭の相談を学ぶ会: 子どものころに寄り添う養護教諭の相談的対応, 第1章 子どもの健康問題と養護教諭の役割, 3-22, 学事出版, 1993
  - 養護教諭の相談を学ぶ会: 子どものころに寄り添う養護教諭の相談的対応, 第3章 養護教諭の相談における対応の基本, 51-95, 学事出版, 1993
  - 森田光子: 子どものころに寄り添う養護教諭の相談的対応 第2章 相談ニーズ, (養護教諭の相談を学ぶ会) 子どものころに寄り添う養護教諭の相談的対応, 23-50, 学事出版, 1993
  - 大谷尚子: 「あなたが大事」の伝え方, ジャパンマニエリスト社, 2016
  - 久保田かおる・三木とみ子: 健康相談活動の実践方法に関する研究 心身の相関理解と養護教諭の資質・能力を生かした健康相談活動の在り方の研究, 女子栄養大学紀要, 35, 61-69, 2004

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**
- 【予習: 授業の準備】3時間
  - テキストとして指定した論文を取り寄せる
  - 精読する
  - 著者が主張したいことを読み取る
  - その主張が生じた社会的背景を調べ、考える
  - レジюме(A4 1枚程度)を作成する
  - 授業で説明できるよう練習する
  - 【復習】時間はお任せします
  - 資料やレジюмеをファイルに綴じ、雑感を記す

**障がいのある履修者への対応:** 必要がある場合、学務部か担当教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 第1回の授業でメールアドレスをお知らせします。  
授業に関する質問等につきましては、メールで予約をおとりください。

**留意事項:** なし

**科目コード:** 81079      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 養護実践特論II

**担当者:** 松永 恵

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜5限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07発表

11討論

**授業の概要:** 養護教諭の対応はわかりづらく、説明することが難しい。養護実践論特論 I からの学びを

踏まえ、養護実践論に隣接する看護学、心身医学、心理学に関する著作に触れ、隣接する分野の知見と比較思考しながら養護実践の固有の価値について捉えさせていきたい。

さらに、2000年以降、養護教諭が自身や仲間の実践を分析してきた研究論文に触れ、受講生の体験と重ね合わせながら、養護実践の理論化の過程をイメージさせていきたい。受講生は事前にテキストとして提示された論文を読み、レジュメを作成する。授業では受講生のプレゼンテーションを受け、難解な部分は教員が解説した後、ディスカッションによる思考の整理を行いたい。

**キーワード：** 養護 実践 理論

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

- 到達目標：** 1 養護実践論に隣接する分野の論文を読み、養護実践論と類似、差異、関連等の視点から比較し、表現することができる。  
2 2000年以降に養護教諭が著した養護実践研究を読み、目的、研究方法、結果を説明することができる。

**評価方法：** 授業におけるプレゼンテーション

**評価割合：** 30%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：** 3 養護実践論特論Ⅰ、Ⅱからの学びを踏まえ、受講者の実践上の課題を解決する研究方法についてイメージすることができる。

**評価方法：** 定期試験として行うレポート

**評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

仲間のプレゼンテーションに対し、積極的に意見を述べ、議論することができる

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

特に評価しない

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

特に評価しない

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

なし

**評価割合：** なし

**授業計画：** 授業計画

第1回：養護実践論と看護学①ナイチンゲール

第2回：養護実践論と看護学②アーネスティン・ウィーデンバック

第3回：養護実践論とカウンセリング

第4回：養護実践と心身医学

第5回：2000年以降の養護実践研究①持久走大会の場面の分析

第6回：2000年以降の養護実践研究②けんかだけがをした場面の分析

第7回：2000年以降の養護実践研究③雑談の場面の分析

第8回：2000年以降の養護実践研究④保健室閉鎖を含む場面の分析

第9回：2000年以降の養護実践研究⑤日常の手当ての中で子供にかける言葉の分析

第10回：2000年以降の養護実践研究⑥校内研修の改善に向けた分析

第11回：2000年以降の養護実践研究⑦外傷判断力の育成

第12回：2000年以降の養護実践研究⑧付き添い者の意識

第13回：2000年以降の養護実践研究⑨学級担任の思考

第14回：養護教諭による養護実践研究を振り返る

第15回:受講生が抱く研究関心と養護実践研究の関連を検討する  
定期試験

**使用テキスト:** 図書館で取り寄せる必要があるので、早めに準備してください。

テキスト

- 永易裕子:患者とのズレ(不一致)に繋がる看護師の思考・感情・行動の特徴―看護場面の再構成による自己との対峙から,日本赤十字秋田短期大学紀要,12,89-101,2007
- 渡邊孝憲:来談者中心療法における「受容」,学校健康相談研究,15(1),2019
- 杉浦守邦:養護教諭とヘルスカウンセリング,健康教室,1979,30(13),31-48
- 笹川まゆみほか:日常的「養護」対応の分析的研究―救急場面の事例検討から―,学校健康相談研究,1(1),31-37,2005
- 中川裕子ほか:日常的「養護」対応の分析的研究 第2報 ―言葉で思いを表現することが苦手な児童の事例検討から―,学校健康相談研究,2(2),13-22,2006
- 高橋雅恵・大谷尚子・高橋芳子:救急処置場面で養護教諭が「雑談」をした意味―指の痛みを訴えて保健室に来室した高校生への対応事例,学校健康相談研究,2(1),32-40,2005
- 清水優子・土橋紀久子・宮田順子・森田光子:養護教諭が「つらい」体験を乗り越えていくプロセス:研究仲間とのアクション・リサーチを通して,学校健康相談研究,12(1),84-94,2015
- 荻津真理子・砂村京子:保健室での救急処置場面における個別の保健指導のあり方―日常の手当ての中で子どもたちにかけている言葉の分析から,学校救急看護研究,4(1),72-78,2011
- 鈴木みゆき・大谷尚子:小学校における救急体制を整備・充実させるための校内研修のあり方―職員研修を段階的に実施した小学校の事例検討から,学校救急看護研究,2(1),25-36,2009
- 丹佳子・中村仁志:養護教諭養成のための視診力を高める外傷判断力育成プログラム,学校保健研究,56,1,21-32,2014
- 斉藤ふくみ・堀内久美子:保健室における付き添い者への対処のあり方に関する一考察:第1報保健指導および付き添い者の果たす役割について,学校保健研究,41,5,458-468,1999
- 斉藤ふくみ・後藤ひとみ・堀内久美子:保健室における付き添い者への養護教諭の対応に関する一考察:高校生の体験と意識についての質問紙調査から,学校保健研究,44(3),215-228,2002
- 松永恵・竹下誠一郎・斉藤ふくみ:不定愁訴のある児童生徒への対応についての仮説生成研究(第1報)学級担任が不定愁訴のある児童に頑張りを促すプロセス,学校保健研究,54(1),16-26,2012

**予習・復習のポイントと** 【予習:授業の準備】3時間

**参考文献・資料等:**

- テキストとして指定した論文を取り寄せる
  - 精読する
  - 著者が主張したいことを読み取る
  - (第4回まで)その主張が生じた社会的背景を調べ、考える
  - (第5回以降)隣接する学問分野の知見(第4回までに学んだ内容)と比較思考しながら養護実践の固有の価値について考える
  - レジюме(A4 1枚程度)を作成する
  - 授業で説明できるよう練習する
- 【復習】時間はお任せします
- 資料やレジюмеをファイルに綴じ、雑感を記す

**障がいのある履修者への対応:** 必要がある場合、学務部か担当教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 第1回の授業でメールアドレスをお知らせします。  
授業に関する質問等につきましては、メールで予約をおとりください。

**留意事項:** なし

---

科目コード:81080      科目ナンバリング:      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 養護実践演習

担当者: 松永 恵

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

---

曜時：水曜2限  
関連資格：教職

履修可能学科・専攻：GN  
AL要素：07発表  
11討論

**授業の概要：** 養護実践には様々な課題が生じる。研究的に解決しようとする、複雑な要因が絡んでいるため、一度に全てを解決することはできない。本授業では、受講者が抱えている課題を整理して一つの研究課題として絞り込み、方法を検討し、計画的に解決をはかるような体験から、研究的な思考力を高めたい。  
受講生は課題を感じる養護実践に関する論文を抄読し、ある程度の知見を得る。知見を得ることができなかったことを課題として抽出し、研究的に解決するための方法を考え、可能なら実施してみることで研究の過程を体験し、課題研究へのイメージを膨らませたい。

**キーワード：** 養護 実践 理論

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：** 1 受講生が課題を感じている養護実践場面について、自分の言葉で表現することができる  
2 1について文献を選び、受講生が感じている課題と比較しプレゼンテーションすることができる

**評価方法：** 授業におけるプレゼンテーション

**評価割合：** 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 3 2で知見を得ることができなかった課題を解決するための一連のプロセスを体験し、記述することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 30%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

仲間のプレゼンテーションに対し、積極的に意見を述べ、議論することができる

**評価割合：** 20%

▼ **実践的ボランティア**

特に評価しない

**評価割合：** 0%

▼ **公正性**

特に評価しない

**評価割合：** 0%

▼ **その他**

なし

**評価割合：** なし

**授業計画：** 授業計画

第1回：課題を感じる養護実践場面

第2回：課題を感じる養護実践場面に関する文献抄読のしかた

第3回：課題を感じる養護実践場面に関する文献抄読の発表

第4回：知見を得ることができた課題、得られなかった課題の検討

第5回：知見を得ることができなかった課題の学問的な位置づけの検討

第6回：知見を得ることができなかった課題を解決するための研究方法の検討

第7回：知見を得ることができなかった課題を解決するための研究計画の検討

第8回：知見を得ることができなかった課題を解決するための調査

- 第9回: 知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析
- 第10回: 知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析結果の発表
- 第11回: 知見を得ることができなかった課題を解決するための調査の分析結果の学問的な意義の検討
- 第12回: 第4回から第11回の論旨一貫した記述方法
- 第13回: 更に知見を得ることができた課題と得られなかった課題の明確化
- 第14回: 発表
- 第15回: まとめ
- 定期試験は実施しない

**使用テキスト:** 第6回以降に受講生が選択した研究方法に関する文献を提示する。

**予習・復習のポイントと** 【参考文献・資料】

**参考文献・資料等:**

- 養護教諭の行う健康相談, 大谷尚子・森田光子, 東山書房, 2016
- 養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—, 岡田加奈子・河田史宝, 東山書房, 2016
- 人間科学研究法ハンドブック, 高橋順一ほか, ナカニシヤ出版, 2011
- Start Up 質的看護研究 第2版, 谷津裕子, 学研, 2015
- 質的研究実践ノート, 萱間真美, 医学書院, 2007
- 看護学のための多変量解析, 中山和弘, 医学書院, 2018

**【予習】**

- 授業資料の準備は養護実践特論 I・II に準じる
- 実践を振り返り記述する場合は、1週間前から書き始め、最低5回は読み直し、推敲する。
- 実践を振り返り記述する場合は、以下に留意する
  - ・ 読み手が動画を作ることができるよう、丁寧に記述する
  - ・ 「行動」「なぜそうしたのか」を対比させ記述する

**【復習】**

- 資料やレジュメをファイルに綴じ、授業中、授業後に思ったことや感じたことを丁寧に記す

**障がいのある履修者への対応:** 必要がある場合、学務部か担当教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 第1回の授業でメールアドレスをお知らせします。  
授業に関する質問等につきましては、メールで予約をおとりください。

**留意事項:** なし

**科目コード:** 81081

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教授学習心理学特論(Special Studies in Psychology of Teaching and Learning)

**担当者:** 國見 充展

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 金曜1限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07. 発表

08. 共同学習

09. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答



**授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型**

学力形成の基礎に関する問題を、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決およびそれらの発達の視点から検討するために、文献を選定して購読・講義する。

**キーワード：** 感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決およびそれらの発達

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** ① 教授学習活動における因果関係や相関関係の理解  
② 学習者の学習を有効適切に援助するための教材内容の検討

**評価方法：** 出席・発表・レポート・討論の実績 **評価割合：** 50%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 行動科学における実証主義的な接近方法の研究

**評価方法：** 同上 **評価割合：** 50%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。

**評価割合：** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回:ガイダンス  
第2回:感覚・知覚に関して  
第3回:全員による検討:第2回に関して  
第4回:注意に関して  
第5回:全員による検討:第4回に関して  
第6回:記憶に関して  
第7回:全員による検討:第6回に関して  
第8回:言語に関して  
第9回:全員による検討:第8回に関して  
第10回:思考に関して  
第11回:全員による検討:第10回に関して  
第12回:推論に関して  
第13回:全員による検討:第12回に関して  
第14回:問題解決に関して  
第15回:全員による検討:第14回に関して

**使用テキスト：** 1つの文献を講読するか、参加者が研究論文を持ち寄るかを、開講時に相談する。

**予習・復習のポイントと** 参考書・参考資料等

**参考文献・資料等：** 箱田裕司(2019)⑦知覚・認知心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房

楠見 孝(2019)⑧学習・言語心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房  
本郷一夫(2018)⑫発達心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房  
石隈利紀(2019)⑱教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

**授業時間外の連絡手段:** UNIPAによる。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 81082      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教授学習心理学演習(Seminar in Psychology of Teaching and Learning)

**担当者:** 國見 充展

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 金曜1限

**履修可能学科・専攻:** GN

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07. 発表  
08. 共同学習  
09. 資料調査課題  
11. 討論  
14. 輪読活動  
15. レポート指導  
16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 学力形成の基礎に関する問題を、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決およびそれらの発達の視点から検討するために、文献を選定して講読する。

**キーワード:** 感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決およびそれらの発達

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** ① 教授学習活動における因果関係や相関関係の理解  
② 学習者の学習を有効適切に援助するための教材内容の検討

**評価方法:** 出席・発表・レポート・討論の実績      **評価割合:** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 行動科学における実証主義的な接近方法の研究

**評価方法:** 同上      **評価割合:** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：ガイダンス  
第2回：発表担当者の報告：感覚・知覚に関して  
第3回：全員による検討：第2回報告に関して  
第4回：発表担当者の報告：注意に関して  
第5回：全員による検討：第4回報告に関して  
第6回：発表担当者の報告：記憶に関して  
第7回：全員による検討：第6回報告に関して  
第8回：発表担当者の報告：言語に関して  
第9回：全員による検討：第8回報告に関して  
第10回：発表担当者の報告：思考に関して  
第11回：全員による検討：第10回報告に関して  
第12回：発表担当者の報告：推論に関して  
第13回：全員による検討：第12回報告に関して  
第14回：発表担当者の報告：問題解決に関して  
第15回：全員による検討：第14回報告に関して

使用テキスト： 1つの文献を講読するか、参加者が研究論文を持ち寄るかを、開講時に相談する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考書・参考資料等  
箱田裕司(2019)⑦知覚・認知心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房  
楠見 孝(2019)⑧学習・言語心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房  
本郷一夫(2018)⑫発達心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房  
石隈利紀(2019)⑱教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践)遠見書房

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：81083      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：学校カウンセリング特論

担当者：藤原 善美

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜7限

履修可能学科・専攻：GN

関連資格：教職

AL要素：実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

授業の概要：

学校では、実に多種多様な事柄が問題となり、テーマとなります。この授業では、生徒指導及び進路指導に関する主要テーマを取り上げながら、学校におけるカウンセリングを概観します。生徒の特性の把握と指導・援助の指針のあり方(具体的には、生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法)を捉えるための枠組みを提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、受講者とともに教師として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。個別およびグループでの演習を取り入れながら、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。

キーワード： カウンセリング・マインド、連携、心理テスト、不適応、キャリア教育

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

到達目標：授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

評価方法：レポート

評価割合：30%

### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

評価方法：レポート

評価割合：60%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

評価割合：0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合：0%

### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合：10%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 生徒指導の概念と構造
  - 第3回 学校における生徒指導体制
  - 第4回 生徒指導と学級経営
  - 第5回 生徒指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個人指導と集団指導)
  - 第6回 生徒指導における課題1(児童虐待、学業困難等)
  - 第7回 生徒指導における課題2(体罰、特別支援教育、家庭環境等)
  - 第8回 進路指導の基礎理論1(特性・因子論、発達理論)
  - 第9回 進路指導の基礎理論2(意思決定理論、社会的認知理論)
  - 第10回 進路指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個別指導と集団指導)
  - 第11回 進路指導の課題(若年無業者、退学、離職、職場体験等)
  - 第12回 進路指導の実際1(キャリア教育、キャリア・カウンセリング)
  - 第13回 進路指導の実際2(キャリア・デザイン)
  - 第14回 海外の生徒指導・進路指導(主に米英における生徒指導・進路指導の実際)
  - 第15回 全体の総括

使用テキスト： 必要な資料は、授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

留意事項： 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

科目コード:81084

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 特別支援教育特論

担当者: 齋藤 遼太郎

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: GN

関連資格: 教職

AL要素: 07. 発表

10. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

**授業の概要:** 【目的】特別支援教育の対象となる様々な障害の成因や心理特性について、心理学と生理学の側面から理解する。また、アセスメントとして、各種心理検査の活用方法について理解する。

【方法】各講義の前半では、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。その後、講義の後半では、発表内容を踏まえた受講者同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。全15回の講義の後には、最終レポートによる講義内容の振り返りを行う。

**キーワード:** 心理学、生理学、アセスメント、発達障害

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 様々な障害の心理学的特性やアセスメントに関する基礎的・基本的な事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法:** 最終レポート

**評価割合:** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 様々な障害の心理学的特性やアセスメントについての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法:** 小レポート

**評価割合:** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了後に取り組むリアクションシートにおいて、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が最終レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや最終レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回: ガイダンス 特別支援教育における心理学的視点の重要性

- 第2回: 特別支援教育の現在
- 第3回: 知的障害の定義とその種類
- 第4回: 知的障害の心理特性
- 第5回: 自閉症スペクトラム障害の定義とその種類
- 第6回: 自閉症スペクトラム障害の心理特性
- 第7回: 注意欠陥多動性障害の定義とその種類
- 第8回: 注意欠陥多動性障害の心理特性
- 第9回: 学習障害の定義とその種類
- 第10回: 学習障害の心理特性
- 第11回: 出生前診断と生命倫理
- 第12回: 障害児のアセスメント(1) 田中ビネー式知能検査
- 第13回: 障害児のアセスメント(2) ウェクスラー式知能検査
- 第14回: 障害児のアセスメント(3) K-ABC II
- 第15回: 障害児の心理学的理解についてのまとめ
- 最終レポート

**使用テキスト:** 必要に応じて授業内で紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自事前に予習をしてくること。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし